

図面番号	図面名	縮尺 ^(A1) _(A3)	図面番号	図面名	縮尺 ^(A1) _(A3)	図面番号	図面名	縮尺 ^(A1) _(A3)	図面番号	図面名	縮尺 ^(A1) _(A3)
S-000	庁舎棟 図面リスト	-									
S-001	庁舎棟 構造特記仕様書 (1)	-									
S-002	庁舎棟 構造特記仕様書 (2)	-									
S-003	庁舎棟 構造関係共通事項 (1)	-									
S-004	庁舎棟 構造関係共通事項 (2)	-									
S-005	庁舎棟 構造関係共通事項 (3)	-									
S-006	庁舎棟 構造関係共通事項 (4)	-									
S-007	庁舎棟 構造関係共通事項 (5)	-									
S-008	庁舎棟 構造関係共通事項 (6)	-									
S-009	庁舎棟 構造関係共通事項 (7)	-									
S-010	庁舎棟 ボーリング柱状図 (1)	-									
S-011	庁舎棟 ボーリング柱状図 (2)	-									
S-012	庁舎棟 静的締固め砂杭 特記仕様書	-									
S-013	庁舎棟 静的締固め砂杭 配置図	1/200 1/400									
S-014	庁舎棟 杭伏図・基礎伏図	1/200 1/400									
S-015	庁舎棟 1階床梁伏図・2階床梁伏図	1/200 1/400									
S-016	庁舎棟 3階床梁伏図・R階床梁伏図・PHR階床梁伏図	1/200 1/400									
S-017	庁舎棟 軸組図 (1)	1/200 1/400									
S-018	庁舎棟 軸組図 (2)	1/200 1/400									
S-019	庁舎棟 杭リスト	-									
S-020	庁舎棟 基礎・基礎梁・基礎小梁・耐圧スラブリスト	1/40 1/80									
S-021	庁舎棟 柱リスト	1/40 1/80									
S-022	庁舎棟 大梁リスト (1)	1/40 1/80									
S-023	庁舎棟 大梁リスト (2)、小梁・スラブ・壁リスト	1/40 1/80									
S-024	庁舎棟 プレストレストコンクリート (PC) 工事 特記仕様書	-									
S-025	庁舎棟 プレストレストコンクリート梁リスト・詳細図 (1)	1/100 1/200									
S-026	庁舎棟 プレストレストコンクリート梁リスト・詳細図 (2)	1/40 1/80									
S-027	庁舎棟 プレストレストコンクリート梁リスト・詳細図 (3)	1/100 1/200									
S-028	庁舎棟 架構配筋詳細図	1/50 1/100									
S-029	庁舎棟 雑配筋詳細図 (1)	-									
S-030	庁舎棟 雑配筋詳細図 (2)	-									
S-031	庁舎棟 RC階段要領図 (1)	1/30 1/60									
S-032	庁舎棟 RC階段要領図 (2)	1/30 1/60									
S-033	庁舎棟 雑鉄骨詳細図	1/30 1/60									

AXS 佐藤総合計画 + 巧設計

設計番号	04584-010	工事名称	新発田地域広域事務組合 新庁舎建設工事 (建築)	種別	S-000
図面名	庁舎棟 図面リスト			縮尺	1/- (A1) 1/- (A3)
一級建築士事務所	登録番号 東京都第1033号	総務	一級建築士第267567号 河田 健	担当	
建設コンサルタント	登録番号 建01第843号			通し番号	
法適合確認結果等	構造関係規定に適合することを確認した	法適合確認結果等	設備関係規定に適合することを確認した	作成日	
構造設計一級建築士	第5840号 渡邊 朋宏	設備設計一級建築士	第2304号 是永 恒久		

6 コンクリート工事	① コンクリートの種類及び品質	<p>※ 普通コンクリート ・ 軽量コンクリート (6.2.1~4)</p> <table border="1"> <tr> <th>設計基準強度 F_c (N/mm²)</th> <th>気乾単位 容積質量 (t/m³)</th> <th>スラブ厚 (cm)</th> <th>水セメント比 (%)</th> <th>単位水量 (kg/m³)</th> <th>適用範囲</th> </tr> <tr> <td>・</td> <td>2.3程度</td> <td>15 又は 18</td> <td>※ 65 ・</td> <td>※ 185 ・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>○ 30</td> <td>2.3程度</td> <td>○ 18</td> <td>○ 60</td> <td>○ 180</td> <td>基礎、基礎梁、柱、梁、床</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> <td></td> </tr> </table> <p>コンクリートの構造体強度補正値 (S) ※標準仕様書 表 6.3.2 ・ 図示による () ・ 素中コンクリート 適用期間 () (6.11.1) ・ マスコンクリート 適用箇所 () (6.13.1)</p> <p>種類 ○ I 類 ・ II 類 (6.3.1) (表 6.3.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>セメントの種類</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>※ 普通ポルトランドセメント又は 混合セメントのA種 ・ 高炉セメントB種 [G] ・ フライアッシュセメントB種 [G]</td> <td>下記以外全て ・ IFLより下部 (立ち上がり部含む)</td> </tr> </table> <p>普通ポルトランドセメントの品質は、JIS R 5210に示された規定の他、次の規定の全てに適合するものとする。ただし、無筋コンクリートに用いる場合を除く。 水和熱 <table border="1"> <tr> <td>7日</td> <td>352J/g以下</td> </tr> <tr> <td>28日</td> <td>402J/g以下</td> </tr> </table> </p>	設計基準強度 F _c (N/mm ²)	気乾単位 容積質量 (t/m ³)	スラブ厚 (cm)	水セメント比 (%)	単位水量 (kg/m ³)	適用範囲	・	2.3程度	15 又は 18	※ 65 ・	※ 185 ・		○ 30	2.3程度	○ 18	○ 60	○ 180	基礎、基礎梁、柱、梁、床	・	・	・	・	・		・	・	・	・	・		セメントの種類	適用箇所	※ 普通ポルトランドセメント又は 混合セメントのA種 ・ 高炉セメントB種 [G] ・ フライアッシュセメントB種 [G]	下記以外全て ・ IFLより下部 (立ち上がり部含む)	7日	352J/g以下	28日	402J/g以下	<p>③ 圧縮強度及び試験方法 (6.5.5) (6.9.2) (6.9.3) (6.9.4)による。 (6.5.5) (6.9.2~4)</p> <p>④ 構造体コンクリートの仕上り及びかぶり厚さの確認 (6.9.6)</p> <p>⑤ コンクリートの単位水量測定</p> <p>・ 行わない ○ 行う 実施要領 (1) 単位水量の測定は、150³に1回以上及び荷下し時に品質の異常が認められた時に実施する。 (2) 単位水量の上限值は、標準仕様書 6.3.2 (f) (g) による。 (3) 単位水量の管理目標値は次の通りとして、施工する。 1) 測定した単位水量が、計画調査書の設計値 (以下、「設計値」という。) ±15kg/m³ の範囲にある場合はそのまま施工する。 2) 測定した単位水量が、設計値 ±15 を超え ±20kg/m³ の範囲にある場合は、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示し、その運搬車の生コンは打設する。その後、設計値 ±15kg/m³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 3) 設計値 ±20kg/m³ を超える場合は、生コンを打込まずに持ち帰らせ、水量変動の原因を調査するとともに生コン製造者に改善を指示しなければならない。その後の全運搬車の測定を行い設計値 ±20kg/m³ 以内であることを確認する。更に、設計値 ±15kg/m³ 以内で安定するまで、運搬車の3台毎に1回、単位水量の測定を行う。 4) 3) の不合格生コンを確実に持ち帰ったことを確認する。 (4) 単位水量管理についての記録を書面 (計画調査書、製造管理記録、打込み時の外気温、コンクリート温度等) と写真により提出する。 (5) 単位水量の測定方法は、高周波誘電加熱乾燥法 (電子レンジ法)、エアメータ法又は静電容量測定法による。また、試験機関は該当コンクリート製造所以外の機関とする。</p>	<p>① ターンバックル (7.2.6)</p> <p>種類 建築用ターンバックル類 ○ 割替式 ・ 建築用ターンバックルボルト ○ 羽子板ボルト ・ ねじの呼び ○ 図示 ・</p> <p>工法の種別 (7.2.7) (6.8.3) ・ 合成スラブ ・ 床型枠用 ・</p> <p>材質、形状及び寸法 ・ 図示 ・</p> <p>鉄骨部材への溶接方法 ・ 図示 ・</p> <p>耐火認定 ・ あり (0D管等打ち込み時の耐火被覆吹付 ※要 ・ 不要) ・ なし</p> <p>② テッキプレート (7.2.7) (6.8.3)</p> <p>③ 頭付きスタッド (7.2.8)</p> <table border="1"> <tr> <th>径(呼び名)</th> <th>長さ(呼び長さ)</th> <th>mm</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>16φ</td> <td>・ 80</td> <td>・ 100</td> <td>・ 120</td> <td></td> </tr> <tr> <td>19φ</td> <td>・ 80</td> <td>・ 100</td> <td>・ 130</td> <td>・ 150</td> </tr> <tr> <td>22φ</td> <td>・ 80</td> <td>・ 100</td> <td>・ 130</td> <td>・ 150</td> </tr> </table> <p>④ 入熱、バス間温度の溶接条件</p> <p>鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件 ・ 図示 ・ ○ 構造関係共通図 (鉄骨標準図) (5) 7) 鋼材と溶接材料の組合せと溶接条件) による ・</p> <p>適用箇所 ・ 図示 ・ ○ 柱、梁、プレースのフランジ端部の完全溶け込み溶接部</p> <p>⑤ 溶接接合 (7.6.7)</p> <p>スカラップの形状 ○ 改良型 ・ 鋼製エンドタブの切除 ○ 行なう 適用箇所 ○ 全て ・ 図示 ・ 行わない</p> <p>⑥ 溶接部の試験 (7.6.12)</p> <p>完全溶け込み溶接部の超音波探傷試験 ・ 行わない ※ 行う ○ 工場溶接の場合 A0QL (%) ○ 4.0 ・ 2.5</p> <table border="1"> <tr> <th>節</th> <th>○ 全て</th> <th>・</th> <th>・</th> <th>・</th> </tr> <tr> <td>検査水準</td> <td>○ 第6水準</td> <td>・</td> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>○ 工事現場溶接の場合 ・ A0QL (%) ・ 4.0 ・ 2.5 ○ 全て</p> <p>突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査 独立行政法人建築研究所監修 「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による。 ・ 抜き取り検査① ※ 抜き取り検査②</p> <p>⑦ 錆止め塗装 (7.8.2) (18.3.2)</p> <p>鉄鋼面 種類 適用箇所</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>○ 標準仕様書 表 18.3.1 A種</td> <td>・ 屋外 (標準仕様書 7.8.2 の範囲以外) ・</td> </tr> <tr> <td>○ 標準仕様書 表 18.3.1 B種</td> <td>・ 屋内 (標準仕様書 7.8.2 の範囲以外) ・</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>亜鉛めっき面 種類 適用箇所</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>○ 標準仕様書 表 18.3.2 A種</td> <td>・ 屋外、屋内 ・</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>鋼製スリーブの内側 (鉄骨に溶接されたもの) 種類 適用箇所</p> <table border="1"> <tr> <th>種類</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>・ 標準仕様書 表 18.3.1 B種</td> <td>・</td> </tr> <tr> <td>・</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>・ 耐火被覆材を接着する面への塗装 (7.8.2) ※ 行う 接着破壊しない耐火被覆材を選定すること ・ 行わない 適用範囲 ・ 図示による ()</p> <p>⑧ 耐火被覆 (7.12.4) (表 14.2.2)</p> <p>⑨ 溶融亜鉛めっき (7.12.4) (表 14.2.2)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類等</th> <th>材 料</th> <th>適用箇所</th> </tr> <tr> <td>亜鉛めっきの種類</td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>A種 (HD255)</td> <td>最小板厚 6.0mm 以上の形鋼、鋼板</td> <td></td> </tr> <tr> <td>B種 (HD245)</td> <td>最小板厚 3.2mm 以上、6.0mm 未満の形鋼、鋼板</td> <td>※ 図示</td> </tr> <tr> <td>C種 (HD235)</td> <td>普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚 1.6mm 以上、3.2mm 未満の形鋼、鋼板</td> <td>・</td> </tr> </table> <p>⑩ 型枠 (6.8.2) (表 6.8.1)</p> <p>外観検査 ○ 行う ・ 行わない めっき付着量の検査 ○ 行う ・ 行わない</p> <p>⑪ 型枠の存置期間及び取外し (6.8.4)</p> <p>⑫ コンクリートの養生方法 (6.7.1~3)</p> <p>標準仕様書 6 章第 7 節による。 凍害対策、高強度コンクリートの養生方法について施工計画書に記載する。 ・ 普通エコセメント (日以上)</p>	径(呼び名)	長さ(呼び長さ)	mm	適用箇所	16φ	・ 80	・ 100	・ 120		19φ	・ 80	・ 100	・ 130	・ 150	22φ	・ 80	・ 100	・ 130	・ 150	節	○ 全て	・	・	・	検査水準	○ 第6水準	・	・	・	種類	適用箇所	○ 標準仕様書 表 18.3.1 A種	・ 屋外 (標準仕様書 7.8.2 の範囲以外) ・	○ 標準仕様書 表 18.3.1 B種	・ 屋内 (標準仕様書 7.8.2 の範囲以外) ・	・	・	種類	適用箇所	○ 標準仕様書 表 18.3.2 A種	・ 屋外、屋内 ・	・	・	種類	適用箇所	・ 標準仕様書 表 18.3.1 B種	・	・	・	種類等	材 料	適用箇所	亜鉛めっきの種類			A種 (HD255)	最小板厚 6.0mm 以上の形鋼、鋼板		B種 (HD245)	最小板厚 3.2mm 以上、6.0mm 未満の形鋼、鋼板	※ 図示	C種 (HD235)	普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚 1.6mm 以上、3.2mm 未満の形鋼、鋼板	・
	設計基準強度 F _c (N/mm ²)	気乾単位 容積質量 (t/m ³)	スラブ厚 (cm)	水セメント比 (%)	単位水量 (kg/m ³)	適用範囲																																																																																																				
	・	2.3程度	15 又は 18	※ 65 ・	※ 185 ・																																																																																																					
	○ 30	2.3程度	○ 18	○ 60	○ 180	基礎、基礎梁、柱、梁、床																																																																																																				
	・	・	・	・	・																																																																																																					
	・	・	・	・	・																																																																																																					
	セメントの種類	適用箇所																																																																																																								
	※ 普通ポルトランドセメント又は 混合セメントのA種 ・ 高炉セメントB種 [G] ・ フライアッシュセメントB種 [G]	下記以外全て ・ IFLより下部 (立ち上がり部含む)																																																																																																								
	7日	352J/g以下																																																																																																								
	28日	402J/g以下																																																																																																								
	径(呼び名)	長さ(呼び長さ)	mm	適用箇所																																																																																																						
	16φ	・ 80	・ 100	・ 120																																																																																																						
19φ	・ 80	・ 100	・ 130	・ 150																																																																																																						
22φ	・ 80	・ 100	・ 130	・ 150																																																																																																						
節	○ 全て	・	・	・																																																																																																						
検査水準	○ 第6水準	・	・	・																																																																																																						
種類	適用箇所																																																																																																									
○ 標準仕様書 表 18.3.1 A種	・ 屋外 (標準仕様書 7.8.2 の範囲以外) ・																																																																																																									
○ 標準仕様書 表 18.3.1 B種	・ 屋内 (標準仕様書 7.8.2 の範囲以外) ・																																																																																																									
・	・																																																																																																									
種類	適用箇所																																																																																																									
○ 標準仕様書 表 18.3.2 A種	・ 屋外、屋内 ・																																																																																																									
・	・																																																																																																									
種類	適用箇所																																																																																																									
・ 標準仕様書 表 18.3.1 B種	・																																																																																																									
・	・																																																																																																									
種類等	材 料	適用箇所																																																																																																								
亜鉛めっきの種類																																																																																																										
A種 (HD255)	最小板厚 6.0mm 以上の形鋼、鋼板																																																																																																									
B種 (HD245)	最小板厚 3.2mm 以上、6.0mm 未満の形鋼、鋼板	※ 図示																																																																																																								
C種 (HD235)	普通ボルト・ナット類、アンカーボルト類 最小板厚 1.6mm 以上、3.2mm 未満の形鋼、鋼板	・																																																																																																								
② コンクリート			⑦ 鉄骨工事	<p>① 鉄骨の製作工場 (7.1.3)</p> <p>・ 建築基準法第 77 条の 45 第 1 項に基づき国土交通大臣から性能評価機関として認可を受けた (株) 日本鉄骨評価センター及び (株) 全国鉄骨評価機構 (旧 (社) 全国建築工業協会) の「鉄骨製作工場の性能評価基準」に定める「(M) グレード」として国土交通大臣から認定を受けた工場又は同等以上の能力のある工場 ・ 監督職員の承諾する製作工場 (7.1.3) (7.1.4) (7.6.2) (7.12.2)</p> <p>② 施工管理技術者 (7.1.3) (7.1.4) (7.6.2) (7.12.2)</p> <p>③ 製作精度 (7.3.3)</p> <p>※ (一社) 日本建築学会「JASS 6 鉄骨工事」付則 6「鉄骨精度検査基準」による。 ※ 通しダイヤフラムの許容誤差 ・ 全てのダイヤフラムは H12 建告第 1464 号第二号イ (1) (2) に規定する仕様を満足すること ・ ダイヤフラムは H12 建告第 1464 号第二号イ (1) (2) に規定するただし書きの計算確認有り補強方法 ・ 「突合せ継手の食い違い仕口のずれの検査・補強マニュアル」による</p> <p>④ 建方精度 (7.10.2)</p> <p>※ (一社) 日本建築学会「JASS 6 鉄骨工事」付則 6「鉄骨精度検査基準」 付表 5「工事現場」による。 (7.3.10)</p> <p>⑤ 鋼材 (7.2.1) (表 7.2.1)</p> <table border="1"> <tr> <th>種類の記号</th> <th>適用箇所</th> <th>規格等</th> </tr> <tr> <td>SS400</td> <td>設備架台、目隠し鉄骨</td> <td>※ JIS規格による</td> </tr> <tr> <td></td> <td></td> <td>※ JIS規格による</td> </tr> </table> <p>⑥ 高力ボルト (7.2.2) (7.3.2)</p> <p>区分 ○ トルシア形高力ボルト ○ JIS 形高力ボルト 高力ボルトの径 ※ 図示 ・ すべり係数試験 (7.4.2) ※ 行わない ・ 行う ナット回転法でボルトの長さがねじの呼びの 5 倍を超える場合の回転量 ・ 図示による () (7.4.7)</p> <p>⑦ 縁端距離、ボルト間隔、ゲージ等 (7.2.2) (7.3.2)</p> <p>高力ボルト、普通ボルト及びアンカーボルトの縁端距離、ボルト間隔、ボルト径、ゲージ等 ※ 構造関係共通図 (鉄骨標準図) 1 縁端距離及びボルト間隔による ・</p> <p>⑧ 溶融亜鉛めっき高力ボルト (7.2.2) (7.12.5)</p> <p>セットの種類 ○ 1 種 (F8T 相当) ・ 摩擦面の処理 (7.12.5) ※ プラスト処理 (表面粗度 50 μm Rz 以上) ・ プラスト処理以外の特別な処理方法 ・ 図示による () (7.4.7)</p> <p>ナット回転法でボルトの長さがねじの呼びの 5 倍を超える場合の回転量 ・ 図示による () (7.4.7)</p> <p>⑨ アンカーボルト (7.2.4) (表 7.2.3) (7.10.3)</p> <p>適用 ○ 構造用アンカーボルト ・ JIS B 1220 ABR400 ・ JIS B 1220 ABR490 ・ ・ 種方用アンカーボルト 材質 ・ SS400 ・ アンカーボルト及びナットのねじの種類、規格、ねじの等級の規格及び仕上げの程度 ・ 標準仕様書 表 7.2.3 による</p> <p>⑩ 柱底均しモルタル (7.2.9)</p> <p>モルタルの種類 ○ 無収縮モルタル ・ 無収縮モルタルの材料及び割合 材料、割合等 ○ 標準仕様書 7.2.9 による ・ 品質及び試験方法 ○ 標準仕様書 表 7.2.5 による ・ (7.10.2)</p> <p>工法の種別 ・ 標準仕様書 表 7.10.2 ○ A 種 [モルタル厚さ 50] ・ B 種 [モルタル厚さ 30]</p>	種類の記号	適用箇所	規格等	SS400	設備架台、目隠し鉄骨	※ JIS規格による			※ JIS規格による			※ JIS規格による			※ JIS規格による			※ JIS規格による			※ JIS規格による			※ JIS規格による			※ JIS規格による			※ JIS規格による			※ JIS規格による																																																																					
種類の記号	適用箇所	規格等																																																																																																								
SS400	設備架台、目隠し鉄骨	※ JIS規格による																																																																																																								
		※ JIS規格による																																																																																																								
		※ JIS規格による																																																																																																								
		※ JIS規格による																																																																																																								
		※ JIS規格による																																																																																																								
		※ JIS規格による																																																																																																								
		※ JIS規格による																																																																																																								
		※ JIS規格による																																																																																																								
		※ JIS規格による																																																																																																								
		※ JIS規格による																																																																																																								
③ セメントの種類			⑧ 高力ボルト	<p>区分 (7.2.2) (7.3.2) ○ トルシア形高力ボルト ○ JIS 形高力ボルト 高力ボルトの径 ※ 図示 ・ すべり係数試験 (7.4.2) ※ 行わない ・ 行う ナット回転法でボルトの長さがねじの呼びの 5 倍を超える場合の回転量 ・ 図示による () (7.4.7)</p>																																																																																																						
④ 骨材の種類			⑨ アンカーボルト	<p>適用 (7.2.4) (表 7.2.3) (7.10.3) ○ 構造用アンカーボルト ・ JIS B 1220 ABR400 ・ JIS B 1220 ABR490 ・ ・ 種方用アンカーボルト 材質 ・ SS400 ・ アンカーボルト及びナットのねじの種類、規格、ねじの等級の規格及び仕上げの程度 ・ 標準仕様書 表 7.2.3 による</p>																																																																																																						
⑤ 混和材料			⑩ 柱底均しモルタル	<p>モルタルの種類 (7.2.9) ○ 無収縮モルタル ・ 無収縮モルタルの材料及び割合 材料、割合等 ○ 標準仕様書 7.2.9 による ・ 品質及び試験方法 ○ 標準仕様書 表 7.2.5 による ・ (7.10.2)</p>																																																																																																						
⑥ 無筋コンクリート			⑪ 型枠	<p>外観検査 ○ 行う ・ 行わない めっき付着量の検査 ○ 行う ・ 行わない</p>																																																																																																						
⑦ 打継ぎの位置、ひび割れ誘発目地、打継目地			⑫ コンクリートの養生方法	<p>標準仕様書 6 章第 7 節による。 凍害対策、高強度コンクリートの養生方法について施工計画書に記載する。 ・ 普通エコセメント (日以上)</p>																																																																																																						
⑧ コンクリートの仕上り																																																																																																										
⑨ 打増し厚さ																																																																																																										
⑩ 型枠																																																																																																										
⑪ 型枠の存置期間及び取外し																																																																																																										
⑫ コンクリートの養生方法																																																																																																										

① 軽微な変更の対応 (あらかじめ検討)	<p>施工の関係上やむを得ず発生する可能性の高い変更事項への対応方法について、あらかじめの検討を行っている部分 本検討は、計画通知の変更を要しない範囲及び対応方法を定めるものであり、品質管理上の施工誤差を許容するものではない。</p> <p>○ 杭の芯ずれを考慮した検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※ 図示</p> <p>・ 杭の長さの変更を見込んだ検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※ 図示</p> <p>・ 梁貫通孔の大きさと位置の変更を見込んだ検討 あらかじめ検討の範囲及び対応方法 ※ 図示</p>
② 構築された躯体の改変	<p>既に構築されている躯体部分 (RC・S・SRC) に、新たに埋設物・開口等を設ける場合には、それらの大小、設置位置等に拘わらず、すべて工事管理者との協議を行う。</p>

設計番号	04584-010	工事名称	新築田地域広域事務組合 新庁舎建設工事 (建築)		種別	S-002
図面名	庁舎棟 構造特記仕様書 (2)		編尺	A1: -		
一級建築士事務所	登録番号	東京都第 1033 号	都庁	一級建築士第 267567 号	河田 健	通し番号
建設コンサルタント	登録番号	建 01 第 843 号				
法適合確認結果等	構造関係規定に適合することを確認した		法適合確認結果等	設備関係規定に適合することを確認した		作成日
構造設計一級建築士第 5840 号	渡邊 朋宏		設備設計一級建築士第 2304 号	是永 俊久		



構造関係共通事項

1 総則

1. 1 適用範囲等
- (a) 構造関係共通事項は、構造関係の共通事項と、構造関係共通図（配筋標準図）、構造関係共通図（鉄骨標準図）から構成される。
 - (b) 構造関係共通図（配筋標準図）は鉄筋コンクリート及び鉄骨鉄筋コンクリート造等における鉄筋の加工、組立等の一般的な標準図とする。
 - (c) 構造関係共通図（鉄骨標準図）は、鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造における鉄骨の加工、組立の一般的な標準図とする。
 - (d) 構造関係共通図（配筋標準図、鉄骨標準図）以外については、設計図及び監督職員の指示による。

1. 2 優先順位
- (a) 設計図書間で配筋方法に相違がある場合の優先順位は以下のとおりとする。
 - 特記仕様書（構造関係）
 - 図面
 - 2-1 構造関係共通事項（配筋標準図、鉄骨標準図）を除く図面
 - 2-2 構造関係共通事項（配筋標準図、鉄骨標準図）
 - 国土交通省大臣官房官庁営繕部制定「公共建築工事標準仕様書（建築工事編）（令和4年版）」

1. 3 用語の定義
- (a) 異形鉄筋の径（本文、図、表において「d」で示す。）は、呼び名に用いた数値とする。
 - (b) 長さ、厚さの単位は、特記なき限りmmとする。
1. 4 記号
- (a) 設計図中で使用する記号は、表1.1、表1.2を標準とする。

表1.1 鉄筋の断面表示

区分	径	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
建築		●	×	◇	●	○	◎	⊗	⊙

表1.2 各階伏図における記号

記号	説明	記号	説明
○	スラブの配筋種別	⊕	杭の位置
◇	スラブ厚さ	⊙	試験杭の位置
○	階段の配筋種別	▨	打増しの範囲
SO	土間コンクリート	⊠	スラブ開口
□	コンクリートブロック壁（CB壁）	⊕	ボアリング位置
▨	梁・スラブの上がり下りの範囲	(±)	FLからの上がり下がり
E100 EK100	耐力壁の種類		

表1.3 梁貫通孔記号

区分	径	50	75	100	125	150	175	200	225	250	275	300	325	350	375	400
建築		○	×	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+	+

表1.4 スリーブ材質の凡例

管名	鋼管	溶融亜鉛めっき鋼板	硬質塩化ビニル管（薄肉管）	つば付き鋼管（黒管）
記号（建築用）	SP（白管）	GA	VU	RS

建築用以外のスリーブ材質は各工事による。

構造関係共通図（配筋標準図）

1 鉄筋の加工

(a) 鉄筋の折曲げ内法直径及びその使用箇所は、表1.1を標準とする。

表1.1 鉄筋の折曲げ形状及び寸法

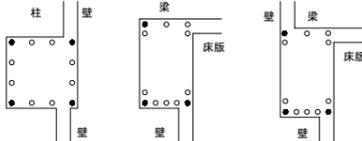
折曲げ角度	折曲げ図	折曲げ内法直径(D)		
		SD295, SD345	SD390	
180°		D16以下	D19~D38	D19~D38
135°		3d以上	4d以上	5d以上
90°		3d以上	4d以上	5d以上
135°及び90° (幅止め筋)		4d以上	4d以上	4d以上

(注) 1. 片持ちスラブ先端、壁筋の自由端側の先端で90°フック又は135°フックを用いる場合は、余長を4d以上とする。
2. 90°未満の折曲げの内法直径は構造図による。

2 異形鉄筋の末端部

(a) 次の部分に使用する異形鉄筋の末端部にはフックを付ける。

- (1) 柱の四隅にある主筋（図2.1の●）で、重ね継手の場合及び最上階の柱頭にある場合
- (2) 梁主筋の重ね継手が、梁の出隅及び下端の両端（図2.1の●）にある場合（基礎梁を除く）



- (3) 煙突の鉄筋（壁の一部となる場合を含む）
- (4) 杭基礎のベース筋
- (5) 帯筋、あばら筋及び幅止め筋

3 鉄筋の継手及び定着

3. 1 継手及び定着

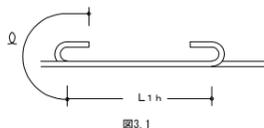
(a) 鉄筋の重ね継手

- (1) 原則として、D35以上の異形鉄筋については、重ね継手を用いない。
- (2) 鉄筋の重ね継手の長さは、表3.1による。
- (3) 径が異なる鉄筋の重ね継手の長さは、細い鉄筋の径による。
- (4) 柱及び梁の主筋並びに耐力壁の鉄筋の重ね継手の長さは、特記による。耐力壁の鉄筋の重ね継ぎ手の場合、特記がなければ、40d（軽量コンクリートの場合は60d）と表3.1の重ね継手長さのうち大きい値とする。

表3.1 鉄筋の重ね継手の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm ²)	L ₁ (フックなし)	L _{1h} (フックあり)
SD295	18	45d	35d
	21	40d	30d
	24 27	35d	25d
	30 33 36	35d	25d
SD345	18	50d	35d
	21	45d	30d
	24 27	40d	30d
	30 33 36	35d	25d
SD390	21	50d	35d
	24 27	45d	35d
	30 33 36	40d	30d

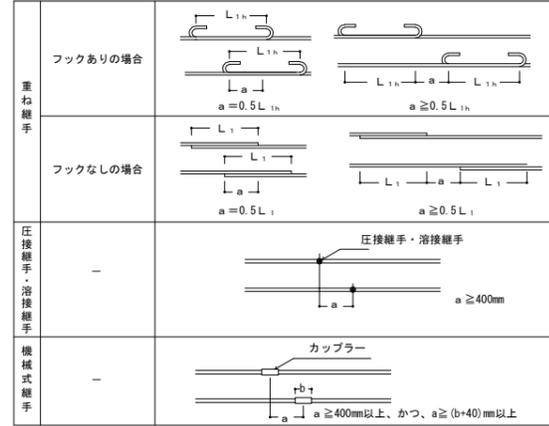
(注) 1. L₁, L_{1h} : フックなし重ね継手の長さ及びフックあり重ね継手の長さ
2. フックありの場合のL_{1h} は、図3.1に示すようにフック部分Qを含まない。



3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

- (3) 隣り合う継手の位置は、表3.2による。ただし、壁の場合及びスラブ筋でD16以下の場合を除く。なお、先組み工法等で、柱、梁の主筋の継手を同一箇所には、構造図による。

表3.2 隣り合う継手の位置



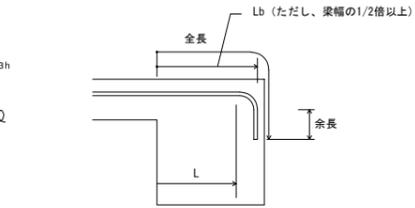
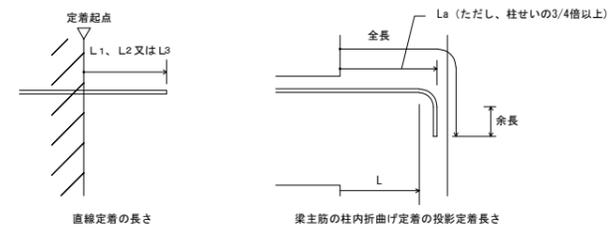
(b) 鉄筋の定着

- (1) 鉄筋の定着の長さは、表3.3による。

表3.3 鉄筋の定着の長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm ²)	直線定着の長さ						フックあり定着の長さ						
		L ₁	L ₂	L ₃		L _{1h}	L _{2h}	L _{1h}		L _{2h}				
SD295	18	45d	40d	小梁	スラブ	10d かつ 150mm 以上	35d	30d	10d	-	-	-		
	21	40d	35d										30d	25d
	24 27	35d	30d										25d	20d
	30 33 36	35d	30d										25d	20d
SD345	18	50d	40d	20d	10d かつ 150mm 以上	35d	30d	10d	-	-	-			
	21	45d	35d									30d	25d	
	24 27	40d	35d									30d	25d	
	30 33 36	35d	30d									25d	20d	
SD390	21	50d	40d	20d	10d かつ 150mm 以上	35d	30d	10d	-	-	-			
	24 27	45d	40d									35d	30d	
	30 33 36	40d	35d									30d	25d	

- (注) 1. L₁, L_{1h} : 2. 以外の直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
 - L₂, L_{2h} : 割壊破壊のおそれのない箇所への直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ
 - L₃ : 小梁及びスラブの下端筋の直線定着長さ。（基礎耐力スラブ及びこれを受ける小梁を除く。）
なお、片持ち小梁及び片持ちスラブの場合は、20d及び10dを25d以上とする。
 - L_{3a} : 小梁の下端筋のフックあり定着の長さ
 - フックあり定着の場合は、図3.2(イ)に示すようにフック部分Qを含まない。また、中間部での折曲げは行わない。
 - 軽量コンクリートを使用する場合は、表3.3の値に5dを加えたものとする。
 - L₂, L_{2h} : 構造計算ルート1及びルート2の仕様規定による場合は、40d以上と確保する。（令73条3項）
- (2) 梁主筋の柱内定着の方法は図3.2による。
なお、仕口内に縦に折り曲げて定着する鉄筋の定着長さLが、表3.3のフックあり定着の長さを確保できない場合は、全長を表3.3に示す直線定着の長さとし、かつ、余長を8d以上、仕口面から鉄筋外面までの投影定着長さを表3.4に示す長さ（かつ、梁主筋の柱内定着においては、原則として、柱せいの3/4倍以上、小梁の場合は1/2以上）をのみ達させる。
(注) 1. La, Lb は、表3.4の鉄筋の投影定着長さを示す。



(イ) 直線定着の長さ及びフックあり定着の長さ (ロ) 折曲げ定着の方法

図3.2 定着の方法

表3.4 鉄筋の投影定着長さ

鉄筋の種類	コンクリートの設計基準強度 Fc (N/mm ²)	La	Lb
SD295	18	20d	15d
	21	15d	15d
	24 27	15d	15d
	30 33 36	15d	15d
SD345	18	20d	20d
	21	20d	20d
	24 27	20d	15d
	30 33 36	15d	15d
SD390	21	20d	20d
	24 27	20d	20d
	30 33 36	20d	15d

(注) 1. La : 梁主筋の柱内折曲げ定着の投影定着長さ（基礎梁、片持ち梁及び片持ちスラブを含む。）
2. Lb : 小梁及びスラブの上端筋の梁内折曲げ定着の投影定着長さ（片持ち小梁及び片持ちスラブを除く。）
3. 軽量コンクリートの場合は、表の値に5dを加えたものとする。

(c) その他の鉄筋の継手及び定着

- (1) 溶接金網の継手及び定着は、図3.3による。
なお、L₁ は表3.2にL₂ 及びL₃ は表3.3の（注）による。

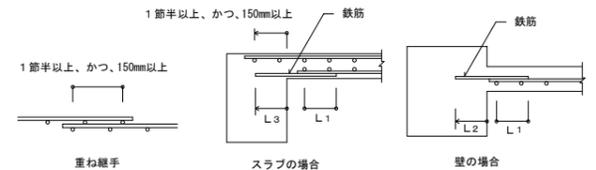


図3.3 溶接金網の継手及び定着

- (2) スパイラル筋の継手及び定着は、図3.4による

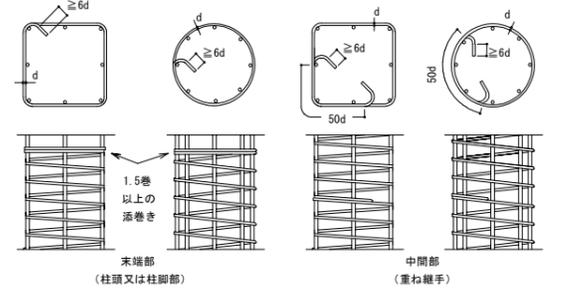


図3.4 スパイラル筋の継手及び定着

4 鉄筋のかぶり及び間隔

4. 1 最小かぶり厚さ

- (a) 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さは、表4.1による。
ただし、柱及び梁の主筋にD29以上を使用する場合は、主筋のかぶり厚さを径の1.5倍以上確保するように最小かぶり厚さを定める。

表4.1 鉄筋及び溶接金網の最小かぶり厚さ(単位: mm)

土に接しない部分	構造部分の種類		最小かぶり厚さ
	スラブ、耐力壁以外の壁	仕上げあり 仕上げなし	
土に接する部分	柱、梁、耐力壁	屋内	20
		屋外	30
	擁壁、耐力スラブ		40
	柱、梁、スラブ、壁		*40
煙突等高温を受ける部分	基礎、擁壁、耐力スラブ		*60
	煙突等高温を受ける部分		60

- (注) 1. *印のかぶり厚さは、普通コンクリートに適用し、軽量コンクリートの場合は構造図による。
- 「仕上げあり」とは、モルタル塗り等の仕上げのあるものとし、鉄筋の耐久性上有効でない仕上げ（仕上塗材、塗装等）のものを除く。
- スラブ、梁、基礎及び擁壁で、直接土に接する部分のかぶり厚さには、捨コンクリートの厚さを含まない。
- 杭基礎の場合のかぶり厚さは、杭先端からとする。
- 埋塞を受けるおそれのある部分等、耐久性上不利な箇所は、構造図による。
- 柱、梁等の鉄筋の加工に用いるかぶり厚さは、最小かぶり厚さに10mmを加えた数値を標準とする。
- 鉄筋組立後のかぶり厚さは、最小かぶり厚さ以上とする。
- 鉄筋相互のあきは図4.1により、次の値のうち最大のもの以上とする。

- (1) 粗骨材の最大寸法の1.25倍
- (2) 25mm
- (3) 隣り合う鉄筋の平均径（呼び名の数値）の1.5倍

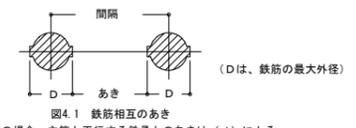
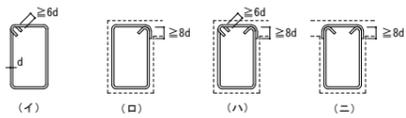


図4.1 鉄筋相互のあき

- (e) 鉄骨鉄筋コンクリート造の場合、主筋と平行する鉄骨とのあきは(d)による。
- (f) 貫通孔に接する鉄筋のかぶり、厚さは(c)による。

7. 2 あばら筋 (5.2基礎梁のあばら筋以外に限る) の組立の形及び割付け等

(a) あばら筋組立の形及びフックの位置

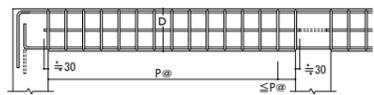


- (注) 1. (イ)形を標準とする。ただし、L形梁の場合は、(ロ)又は(ハ)、T形梁の場合は、(ロ)～(ニ)とすることができる。
2. フックの位置は、(イ)の場合は交互とし、(ロ)の場合は、L形ではスラブの付く側、T形では交互とする。なお、(ハ)の場合は床板の付く側を90°折り曲げとする。

図7.5 あばら筋組立の形

(b) あばら筋の割付け

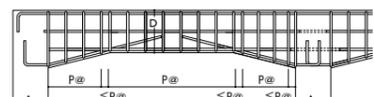
(1) 間隔が一律で、ハンチのない場合



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.6 あばら筋の割付け (その1)

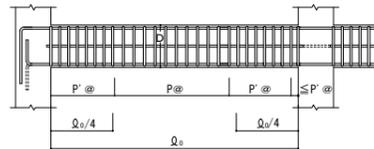
(2) 間隔が一律で、ハンチがある場合



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置及びハンチに切り替わる位置から割り付ける。
2. 図中のP@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.7 あばら筋の割付け (その2)

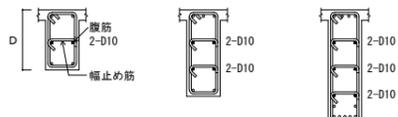
(3) 梁の端部で間隔の異なる場合



- (注) 1. あばら筋は、柱面の位置から割り付ける。
2. 図中のP@、P'@は、特記されたあばら筋の間隔を示す。

図7.8 あばら筋の割付け (その3)

(c) 腹筋及び幅止め筋



- (注) 1. 腹筋に継手を設ける場合の継手長さは、150mm程度とし、柱等へののみみこみ長さは図7.6Iによる。
2. 幅止め筋及び受け用幅止め筋は、D10-1,000@程度とする。

図7.9 腹筋及び幅止め筋

7. 3 小梁主筋の継手、定着及び余長

(a) 連続小梁の場合

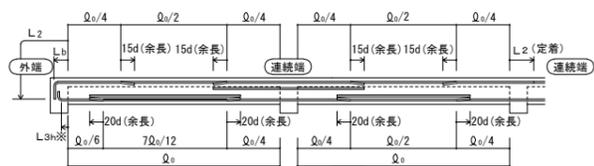


図7.10 小梁主筋の継手、定着及び余長 (その1)

(b) 単独小梁の場合

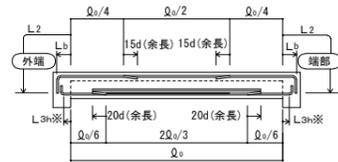
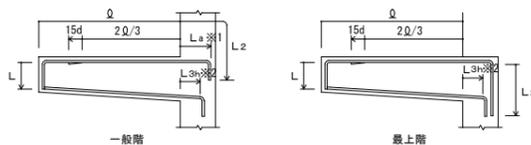


図7.11 小梁主筋の継手、定着及び余長 (その2)

- (注) 1. 印は、余長位置を示す。
2. 梁内の定着筋において梁せいが小さく垂直で余長がとれない場合、斜めにしてもよい。
3. 図示のない事項は、5.1及び7.1Iに準ずる。
※ L3hを確保できない場合は、図3.2(ロ)によることができる。

7. 4 片持梁主筋の継手、定着及び余長

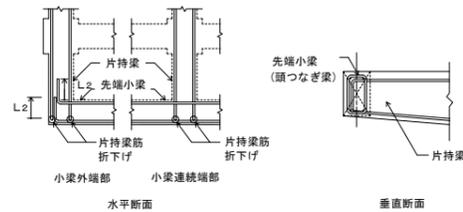
(a) 先端に小梁のない場合



- (注) 1. 印は、余長位置を示す。
2. 先端の折曲げの長さLは、梁せいからかぶり厚さを除いた長さとする。
3. 図示のない事項は、7.1Iによる。
※1 Lhの数値は原則として柱せいの3/4以上とする。
※2 L3hを確保できない場合は、図3.2(ロ)によることができる。

図7.12 片持梁主筋の定着及び余長

(b) 先端に小梁がある場合



- (注) 1. 図示のない事項は、(a)による。
2. 先端小梁終端部の主筋は、片持梁内に水平定着する。
3. 先端小梁の連続端は、片持梁の先端を貫通する通し筋としてよい。

図7.13 片持梁主筋の定着

8 壁及びその他の配筋

(a) 開口部補強

(b) 開口部補強

種類	縦筋及び横筋	断面図 (mm)
W12	D10-200@シングル	120
W15A	D10-150@シングル	150
W15B	D10-100@シングル	150
W18A	D10-200@ダブル	180
W18B	D10-150@ダブル	180
W20A	D10-200@ダブル	200
W20B	D10-150@ダブル	200

(注) 壁筋の配筋順序は、規定しない。

(a) 開口部補強

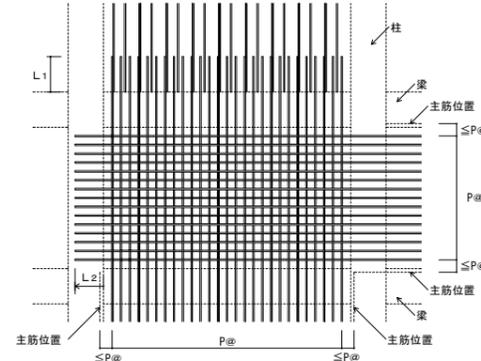
(b) 開口部補強

種類	縦筋及び横筋	断面図 (mm)	階段の配筋種類 (表10.1)
KW1	縦筋	D13-200@ダブル	KA1
	横筋	D10-200@ダブル	KA3
KW2	縦筋	D13-150@ダブル	KA2
	横筋	D10-200@ダブル	KA4

(注) 縦筋は、横筋の外側に配筋する。

8. 2 壁の継手及び定着

(a) 壁の継手及び定着の一般事項



- (注) 1. 図中のP@は、特記された壁筋の間隔を示す。
2. 壁配筋の重ね継手はL1とする。
3. 壁配筋の定着長さはL2とする。
4. 幅止め筋は、縦横ともD10-1,000@程度とする。
5. 原則として、柱及び梁内に、壁筋の継手を設けてはいけない。

図8.1 壁の配筋

8. 3 壁の交差部及び端部の配筋

(a) 壁の交差部及び端部の配筋は図8.2Iによる。

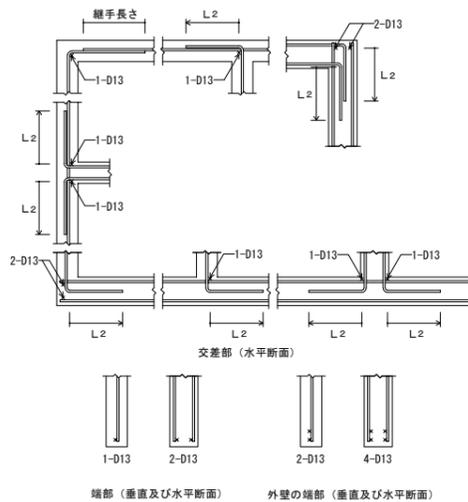


図8.2 壁の交差部及び端部の配筋

8. 4 壁の開口部補強

(a) 耐力壁を除く壁開口部の補強筋は、A形は表8.3、B形は表8.4とし、適用は構造図による。

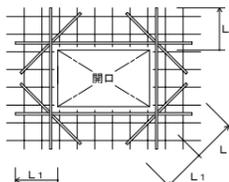
表8.3 壁開口部補強筋 (A形)

壁の種類	補強筋	
	縦横	斜め
W12、W15	1-D13	1-D13
W18、W20	2-D13	2-D13

表8.4 壁開口部補強筋 (B形)

壁の種類	補強筋	
	縦横	斜め
W12、W15	2-D13	1-D13
W18、W20	4-D13	2-D13

(b) 壁開口部補強筋の定着長さは図8.3Iによる。



- (注) 1. 開口部は柱及び梁に接する部分又は鉄筋を縦やに曲げることにより開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。

図8.3 壁開口部補強筋の定着長さ

8. 5 パラベット

(a) パラベットの配筋は図8.4Iによる。

(b) コンクリート厚さ、縦筋、横筋の径及び間隔は構造図による。

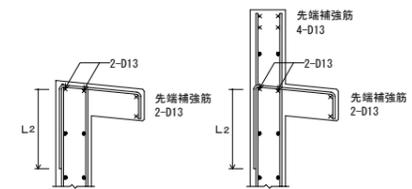


図8.4 パラベットの配筋

9 スラブの配筋

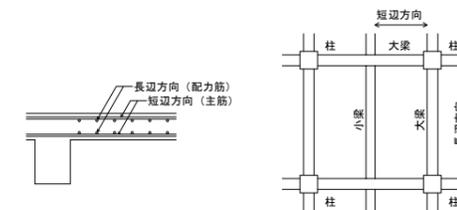
(a) スラブ筋の配筋

(b) スラブ筋の配筋

配筋種類	短辺方向 (主筋) 全域		長辺方向 (配力筋) 全域	
	短辺方向 (主筋) 全域	長辺方向 (配力筋) 全域	短辺方向 (主筋) 全域	長辺方向 (配力筋) 全域
S 1	D13-100@	D13-100@	D13-100@	D13-100@
S 2	同上	D13-150@	D13-150@	D13-150@
S 3	同上	D10、D13-150@	D10、D13-150@	D10、D13-150@
S 4	D13-150@	D13-150@	D13-150@	D13-150@
S 5	同上	D10、D13-150@	D10、D13-150@	D10、D13-150@
S 6	同上	D10-150@	D10-150@	D10-150@

配筋種類	短辺方向 (主筋) 全域		長辺方向 (配力筋) 全域	
	短辺方向 (主筋) 全域	長辺方向 (配力筋) 全域	短辺方向 (主筋) 全域	長辺方向 (配力筋) 全域
S 7	D10、D13-150@	D10、D13-150@	D10、D13-150@	D10、D13-150@
S 8	D10、D13-150@	D10-150@	D10-150@	D10-150@
S 9	同上	D10-200@	D10-200@	D10-200@
S10	D10、D13-200@	D10、D13-200@	D10、D13-200@	D10、D13-200@
S11	同上	D10-200@	D10-200@	D10-200@
S12	同上	D10-250@	D10-250@	D10-250@
S13	D10-200@	D10-200@	D10-200@	D10-200@
S14	同上	D10-250@	D10-250@	D10-250@

(注) 上端筋、下端筋とも同一配筋とする。



- (注) 1. 配筋の割付けは、中央から行い、端部は定められた間隔以下とする。
2. 鉄筋の重ね継手長さはL1とする。

図9.1 スラブの配筋

9. 2 スラブ筋の定着及び受け筋

(a) スラブ筋の定着及び受け筋は図9.2Iによる。引き通すことができない場合は、図9.3により梁内に定着する。

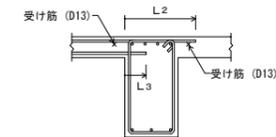


図9.2 スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その1)

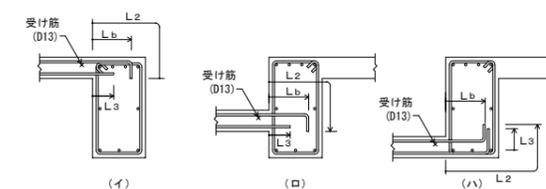


図9.3 スラブ筋の定着長さ及び受け筋 (その2)

設計番号	04584-010	工事名称	新発田地域広域事務組合 新庁舎建設工事 (建築)	種別	S-005
図面名	庁舎棟 構造関係共通事項 (3)	図尺	A3: -	担当者	
一級建築士事務所	登録番号 東京都第1033号	一級建築士事務所	登録番号 東京都第267567号 河田 健	担当者	
建設コンサルタント	登録番号 建01第843号	建設コンサルタント	登録番号 建01第843号	担当者	
建築士事務所	登録番号 東京都第5840号 渡邊 朋宏	建築士事務所	登録番号 東京都第2304号 是永 恒久	担当者	
構造設計一級建築士	登録番号 東京都第5840号 渡邊 朋宏	構造設計一級建築士	登録番号 東京都第2304号 是永 恒久	担当者	

9.3 片持ちスラブの配筋

配筋種別	主筋	配筋種別	主筋
CS1	上 D13-100#	CS5	上 D10-200#
	下 D13-200#		下 D10-400#
CS2	上 D13-150#	CS6	上 D10, D13-200#
	下 D13-300#		下 —
CS3	上 D10, D13-150#	CS7	上 D10-200#
	下 D10, D13-300#		下 —
CS4	上 D10, D13-200#		
	下 D10-200#		

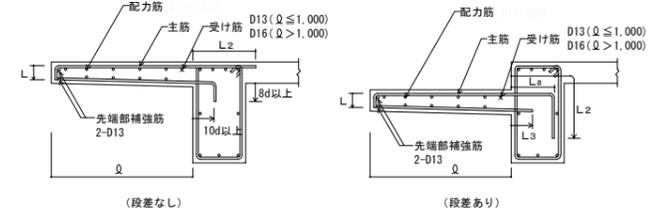


図9.4 片持ちスラブの配筋 (CS1からCS5)

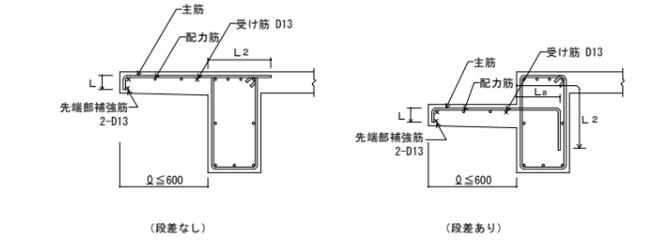


図9.5 片持ちスラブの配筋 (CS6及びCS7)

9.4 片持ちスラブの先端に壁が付く場合の配筋

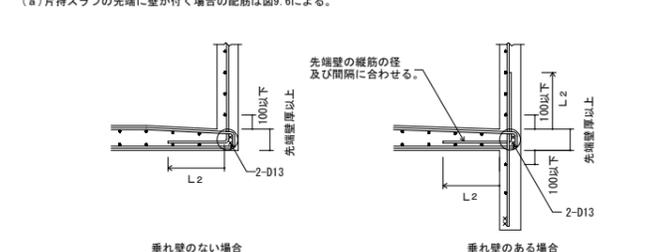


図9.6 先端に壁が付く場合の配筋

9.5 スラブの開口部の補強

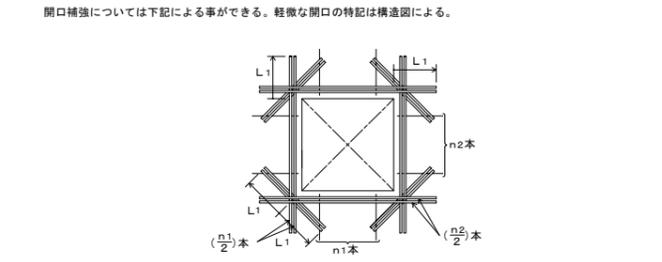
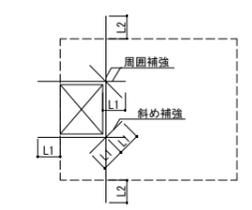


図9.7 スラブ開口部の補強配筋

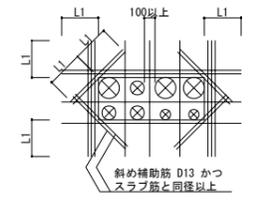
- (注) 1. スラブ開口によって切られる鉄筋と同量の鉄筋を周囲を補強し、隅角部に斜め方向に2-D13 (Q ≧ 2L1) シングルを上下筋の内側に配筋する。
 2. スラブ開口の最大径が両方向の配筋間隔以下で、鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋できる場合は、補強を省略することができる。
 3. 開口のサイズ700mm角以下を適用範囲とする。

b) 開口が700mmを超える場合



- ・補強筋は特記による。
- ・補強筋は周囲の案内に定着させること。
- ・上記補強方法を計画し、監督職員の承諾を得ること。

c) 小開口が連続する場合



- ・開口間には2-D13を入れること。
- ・開口間のあきは、原則として100mm以上とする。
- ・開口によって切断される鉄筋と同本数以上の鉄筋を左右に振り分けて配置すること。(上下筋共)
- ・上記補強方法を計画し、監督職員の承諾を得ること。

9.6 出隅部及び入隅部の補強

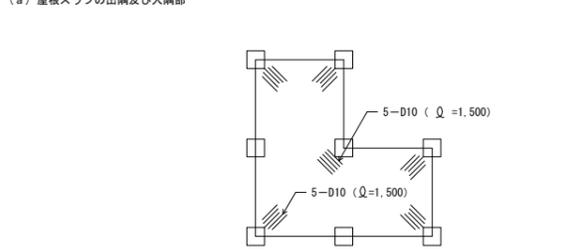


図9.8 出隅及び入隅部の補強配筋

(b) 片持ちスラブの出隅部

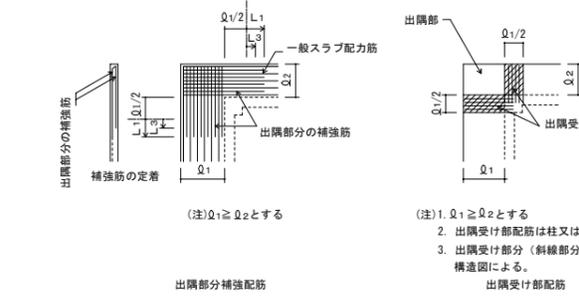


図9.9 片持ちスラブ出隅部の補強配筋

9.7 スラブの打継ぎ補強等

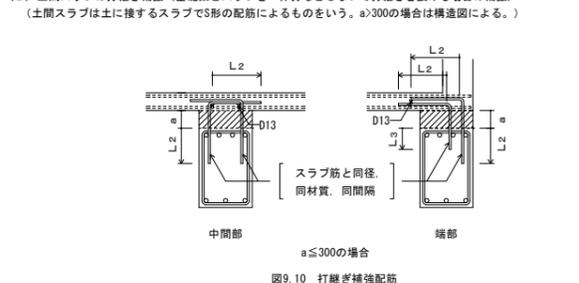


図9.10 打継ぎ補強配筋

(b) 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

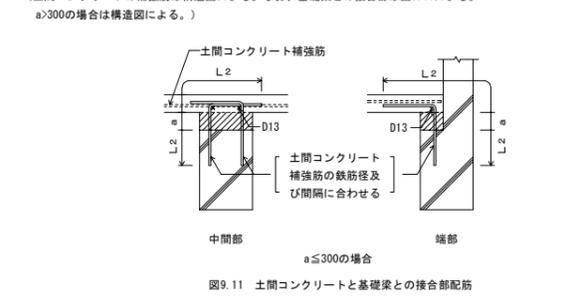


図9.11 土間コンクリートと基礎梁との接合部配筋

- (注) 1. 土間コンクリートの打継ぎ補強 (基礎梁とスラブを一体打ちとしないで打継ぎを設ける場合の補強) (土間スラブは土に接するスラブでS形の配筋によるものをいう。a>300の場合は構造図による。)

10 階段の配筋

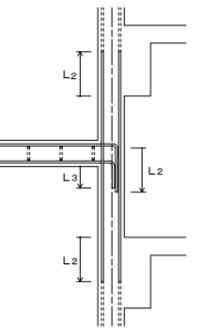
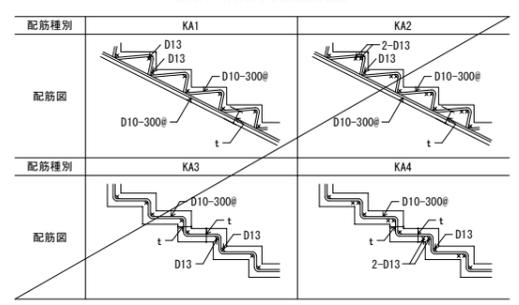


図10.1 片持ちスラブ階段配筋の定着

- (注) 1. 片持ちスラブ階段を受ける壁配筋は、8.1(b)による。
 2. 階段主筋は、壁の中心線を越えてから縦に下ろす。
 3. スラブ配力筋の継手及び定着の長さは、表3.3のL3とする。

種別の適用、スラブ厚さ等は構造図による。

配筋種別	上端筋、下端筋とも (全域)
KB1	D13-200#
KB2	D13-150#
KB3	D13-100#
KB4	D13, D16-150#
KB5	D16-150#
KB6	D16-125#
KB7	D16-100#

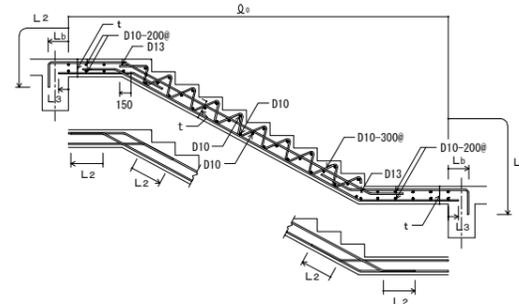


図10.2 二辺固定スラブ階段配筋 (その1)

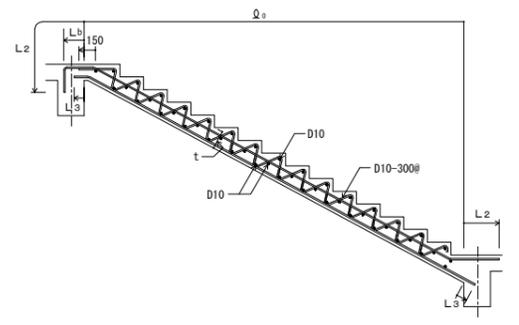
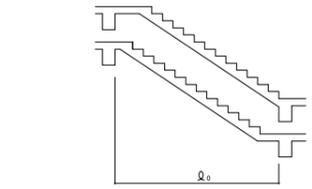


図10.3 二辺固定スラブ階段配筋 (その2)



11 梁貫通孔その他の配筋

11.1 梁貫通孔の配筋

- (a) 梁貫通孔補強筋の名称等は図11.1による。
- (b) 孔の径は、梁せいの1/3以下とし、孔が円形でない場合はこれの外接円とする。
- (c) 孔の上下方向の位置は梁せい中心付近とし、梁中央部下端は梁下端より1/30の範囲には設けてはならない。
- (d) 孔は、柱面から、原則として、1.5D (Dは梁せい) 以上離す。ただし、基礎梁は柱面から1.0mの範囲は開口を設けてはならない。
- (e) 孔が並列する場合の中心間隔は、孔の径の平均値の3倍以上とする。
- (f) 縦筋及び上下縦筋は、あばら筋の形に配筋する。
- (g) 補強筋は、主筋の内側とする。また、鉄筋の定着長さは、図11.2による。
- (h) 孔の径が梁せいの1/10以下、かつ、150mm未満のもの (軽微な開口) で鉄筋を緩やかに曲げることにより、開口部を避けて配筋出来る場合において構造図に特記されたものは、補強を省略することができる。
- (i) 溶接金網の余長は1格子以上とし、突き出しは10mm以上とする。
- (j) 溶接金網の貫通孔部分には、鉄筋13φのリング筋を取り付ける。なお、リング筋は、溶接金網に4箇所以上溶接する。
- (k) 溶接金網の割付始点は、横筋ではあばら筋の下側とし、縦筋では貫通孔の中心とする。

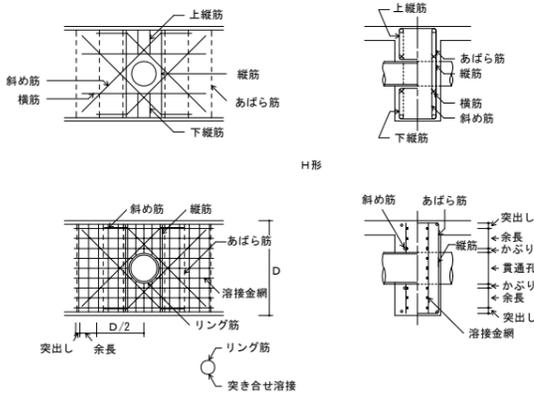


図11.1 梁貫通孔補強筋の名称等

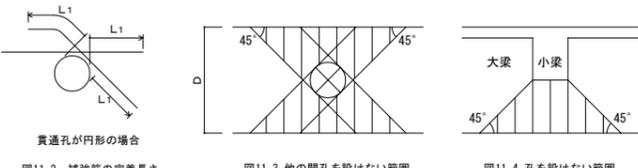


図11.2 補強筋の定着長さ

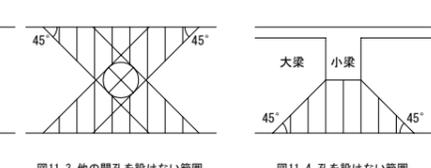


図11.3 他の開口を設けない範囲

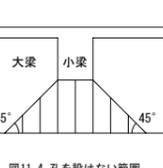


図11.4 孔を設けない範囲

孔の上下方向の位置の限度	500 ≤ D < 700	700 ≤ D < 900	900 ≤ D
d	d ≥ 175	d ≥ 200	d ≥ 250

図11.5 孔の上下方向の位置の限度

11.1 梁貫通孔の補強形式

(a) 梁貫通孔の補強形式は表11.1～表11.3により、種類の適用、箇所数等は構造図による

表11.1 H形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	横筋	上下縦筋	配筋図
H1	2-2-D13	なし	なし	なし	
H2		2-2-D13			
H3	4-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	2-2-D13	
H4	4-2-D16				
H5	4-2-D16	4-2-D13	2-2-D13	3-2-D13	
H6	4-2-D19				
H7	4-2-D22				

(注) ---- は、一般部分のあばら筋を示す。

表11.2 M形配筋

配筋種別	縦筋	溶接金網	配筋図
M1	2-2-D13	なし	
M2	4-2-D13		
M3	4-2-D13	2-6φ-100φ	
M4	6-2-D13		

(注) ---- は、一般部分のあばら筋を示す。

表11.3 MH形配筋

配筋種別	斜め筋	縦筋	溶接金網	配筋図
MH1	2-2-D13	なし	なし	
MH2		2-2-D13		
MH3	2-2-D13	2-2-D13	2-6φ-100φ	
MH4	4-2-D13			
MH5	4-2-D16	4-2-D13	2-6φ-100φ	
MH6	4-2-D16			
MH7	4-2-D19			

(注) ---- は、一般部分のあばら筋を示す。

11.3 コンクリートブロック帳壁との取合い

(a) 控壁の配筋は、図11.3とし、控壁の配置は意匠図による。

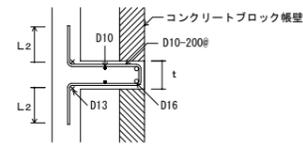


図11.3 控壁の配筋（水平、垂直とも）

(b) 帳壁が土間コンクリート上に設置される場合の補強は図11.4により、帳壁の配筋の定着長等は意匠図による。

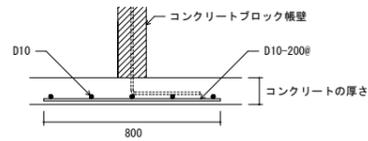


図11.4 壁付き土間コンクリートの補強配筋

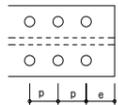
構造関係共通図(鉄骨標準図)

1 縁端距離及びボルト間隔等

(1) 縁端距離及びボルト間隔
縁端距離及びボルト間隔は、表1.1による。ただし、引張材の接合部分において、せん断力を受けるボルトが応力方向に3本以上並ばない場合の縁端距離は、特記による。特記がなければ、ボルト軸径の2.5倍以上とする。また、アンカーボルトの縁端距離は特記による。

表1.1 縁端距離及びボルト間隔 (単位: mm)

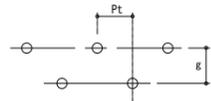
ねじの呼び	縁端距離 e	ボルト間隔 p
M12	40	60
M16		
M20		
M24		
M24	45	70



(2) 千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔
千鳥打ちのゲージ及びボルト間隔は、表1.2による。

表1.2 千鳥のゲージ及びボルト間隔 (単位: mm)

ゲージ g	千鳥打ちのボルト間隔 Pt		
	ねじの呼び		
	M12, M16, M20, M22	M24	
35	50	65	
40	45	60	
45	40	55	
50	35	50	
55	25	45	
60	-	40	



(3) 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径
形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径は、表1.3による。

表1.3 形鋼のゲージ及びボルトの最大軸径 (単位: mm)

A又はB	g ₁	g ₂	最大軸径	B			最大軸径	B			最大軸径
				g ₁	g ₂	最大軸径		g ₁	g ₂	最大軸径	
45	25	12	100	56	16	50	30	12			
50	28	16	125	75	16	65	35	20			
60	35	16	150	90	22	70	40	20			
65	35	20	175	105	22	75	40	22			
70	40	20	200	120	24	80	45	22			
75	40	22	250	150	24	90	50	24			
80	45	22	300	150	24	100	55	24			
90	50	24	350	140	24						
100	55	24	400	140	24						
125	50	35	24								
130	50	40	24								
150	55	55	24								
175	60	70	24								
200	60	90	24								

※1 千鳥打ちとした場合

(4) ボルト記号

表1.4 高力ボルト径の記号

区分	径	M12	M16	M20	M22	M24
高力ボルト (F10T, S10T)		●	◆	◆	◆	◆
溶融亜鉛めっき高力ボルト (F8T相当)						

表1.5 普通ボルト径の記号

区分	径	M12	M16	M20	M22	M24
普通ボルト		○	○	○	○	○

2 溶接記号

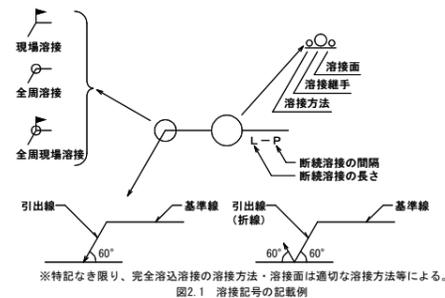
設計図中で使用する記号は、表2.1、表2.2、図2.1を標準とする。

表2.1 溶接方法、溶接継手及び溶接面の分類記号

溶接方法	分類		記号
	溶接方法	溶接継手	
溶接方法	アーク手溶接、ガスシールドアーク半自動溶接、セルフシールドアーク半自動溶接		H
	サブマージアーク自動溶接		A
	エレクトロslag溶接		E
溶接継手	完全溶込み溶接	突合せ継手	B
		T型継手	T
		かど継手	L
	隅肉溶接		F
	部分溶込み溶接		P
	フラア溶接		F.L
溶接面	片面溶接		1
	両面溶接		2

表2.2 溶接の補助記号

区分	補助記号
現場溶接	⤴
全周溶接	○
全周現場溶接	⦿
断続溶接の長さ及び間隔	L-P



※特記なき限り、完全溶込溶接の溶接方法・溶接面は適切な溶接方法等による。
図2.1 溶接記号の記載例

3 溶接継手の種類別開先標準

突合せ継手の開先標準 (単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 6		t ≤ 12	
6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 22	
19 < t ≤ 40		22 < t ≤ 40	
D1 = 2(t-2)/3 D2 = (t-2)/3		D1 = (t-6)/2 D2 = (t-6)/2	

T型継手の開先標準 (単位: mm)

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 6		t ≤ 12	
6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 22	
19 < t ≤ 40		22 < t ≤ 40	
D1 = 2(t-2)/3 D2 = (t-2)/3		D1 = (t-6)/2 D2 = (t-6)/2	

部材が直交しない場合の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	
6 < t ≤ 40	6 < t ≤ 19	19 < t ≤ 40
1/4 t ≤ S ≤ 10	1/4 t ≤ S ≤ 10	1/4 t ≤ S ≤ 10

かど継手の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		A (サブマージアーク自動溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
t ≤ 6		t ≤ 12	
6 < t ≤ 19		12 < t ≤ 19	
19 < t ≤ 40		19 < t ≤ 40	
D1 = 2(t-2)/3 D2 = (t-2)/3 1/4 t ≤ S ≤ 10		D1 = (t-6)/2 D2 = (t-6)/2 1/4 t ≤ S ≤ 10	

隅肉溶接の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)		
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)	
t ≤ 16	t ≤ 16	16 < t ≤ 40
S		

隅肉溶接のサイズ

t	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	19	22	25	28	32	36	40
S	3	4	5	5	6	7	8	8	9	10	10	11	12	12	13	15	17	19	21	24

部分溶込み溶接の開先標準

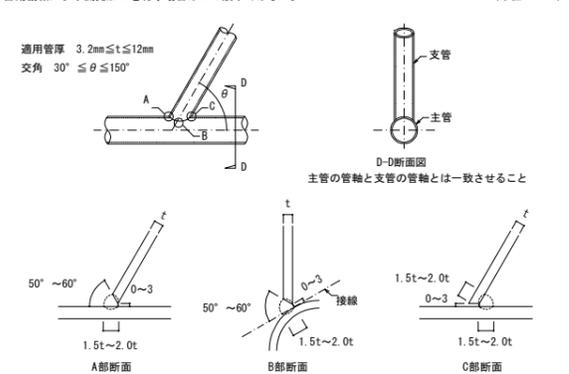
H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)	
1 (片面溶接)	2 (両面溶接)
12 ≤ t ≤ 40	16 ≤ t ≤ 40
S, D1, D2	
D1 = (t-2)/2 D2 = (t-2)/2 1/4 t ≤ S ≤ 10	

フラア溶接の開先標準

H (被覆アーク溶接、ガスシールドアーク溶接及びセルフシールドアーク溶接)			
1 (丸頭等片面溶接)	2 (丸頭等両面溶接)	3 (軽量形V形溶接)	4 (軽量形傾レ形溶接)
d/2, d/2	d/2, d/2	t	t
t ≥ 3のとき S = t t < 3のとき S = 3			

4 鋼管分岐継手

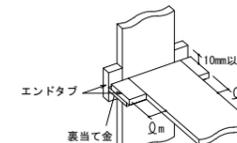
自動機械により開先加工を行う場合はこの限りではない。



5 鉄骨溶接施工

(1) エンドタブ等

① エンドタブの形状は母材と同厚・同開先のものとする。



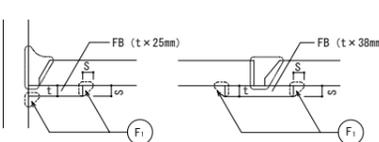
エンドタブの長さ (単位: mm)	
溶接方法	Q _m
手溶接	35以上
半自動溶接	38以上
自動溶接	70以上

② エンドタブの鋼種、引張り強さによる区分は、母材と同等とする。
③ スプラインプレートの材質、鋼種、引張り強さによる区分は、母材と同等とする。
④ フィラープレートの材質は、SS400とする。

(2) 裏当て金

裏当て金の溶接

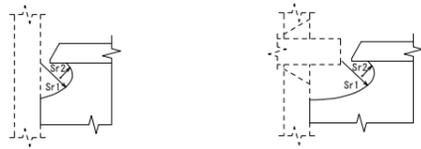
① 裏当て金の組み立て溶接は、接合部に影響を与えないように、エンドタブの位置又は梁フランジ幅の1/4の位置に行い、梁フランジ両端から10mm以内の位置に行ってはならない。
② 完全溶込み位置溶接の片面溶接に用いる裏当て金は原則としてフランジの内部に設置する。
裏当て金の鋼種、引張り強さによる区分は、母材と同等とする。



裏当て金の厚さ (単位: mm)	
溶接方法	t
手溶接	6以上
半自動溶接	9以上
自動溶接	12以上

溶接のサイズ (単位: mm)	
裏当て金の厚さ	S
t ≤ 9	5
t > 9	9

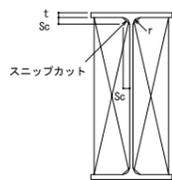
- (3) スクラップ
改良型スクラップ
①スクラップ半径Sr1は35mmとする。Sr2は10mmとする。
②スクラップ円弧の曲線は、フランジに滑らかに接するように加工し、複合円は滑らかに仕上げる。



- 従来型スクラップ
①スクラップ半径Srは35mmとする。



- (4) スニップカット
①スニップカット部は溶接により埋めるものとする。

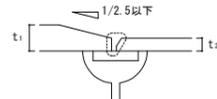


スニップカットの寸法 (単位: mm)

t	6	9	12	16以上
Sc	10	12	14	15

※ただし、既製形鋼のスニップカットについては、 $Sc=r+2$ により求めるものとする。

- (5) 溶接部分の段差
①完全溶込み溶接を行う部分の板厚の差による段差が10mmを超える場合



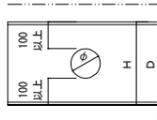
- (7) 鋼材と溶接材料の組み合わせと溶接条件

鋼材の種類	溶接材料	入熱 (KJ/cm)	パス間温度 (°C)
400級鋼	JIS Z 3211	40以下	350以下
	YGW-11, 15		
	YGW-18, 19		
	JIS Z 3214		
490級鋼	YGA-50W, 50P	40以下	350以下
	JIS Z 3211		
	YGW-11, 15		
	YGW-18, 19		
520級鋼	JIS Z 3214	30以下	250以下
	YGA-50W, 50P		
	YGW-18, 19		
	YGW-11, 15		
400級STKR, BCR及びBCP	YGW-18, 19	40以下	350以下
	YGW-18, 19		
490級STKR, 及びBCP	YGW-18, 19	30以下	250以下
	YGW-18, 19		

注) 材質・強度の異なる鋼材の溶接部については、高い強度の種類とすること。

6 梁貫通孔補強

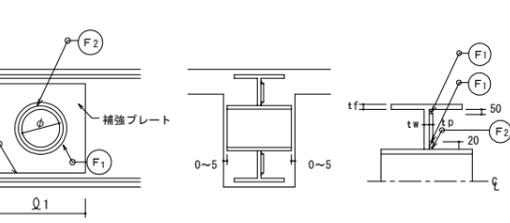
- (1) 鉄骨造及び鉄骨鉄筋コンクリート造の鉄骨梁ウェブ部分に貫通孔を設ける場合で貫通孔部分を補強する場合に適用する。
(2) 貫通孔の内径寸法は、鉄骨せいの1/2以下かつ鉄筋コンクリート梁せいの1/3以下とする。
(3) 貫通孔間隔は、両側の貫通孔径の平均値の、鉄骨造で2倍以上、鉄骨鉄筋コンクリート造で3倍以上確保する。
(4) 梁貫通孔位置の限度は以下による。



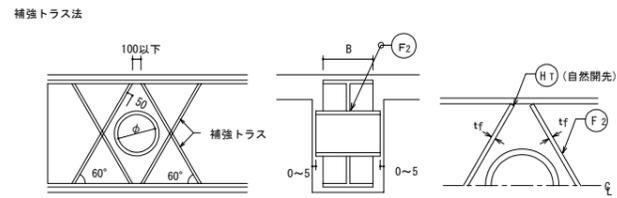
梁貫通孔位置の限度 (単位: mm)

H: 鉄骨せい
D: はりせい
φ: 貫通孔内径寸法 (φ ≦ H/2かつφ ≦ D/3)

※ 梁端に貫通孔を設ける場合は、原則として、梁端から貫通孔の中心まで1.2D以上離し、梁継手位置等にも留意する。



Q1は3φまたはQ2のうち小さい方とする。(φ ≧ Hとする)
e: 材端と補強プレートとの間隔



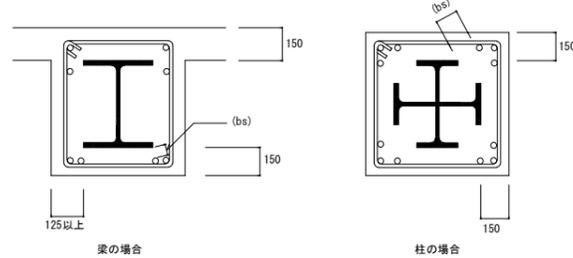
7 広幅平鋼の取り扱い

- (1) BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スライズプレートは、PL表記であってもFB又はPLとする。
(2) BH材のフランジ及びフランジに使用する外側スライズプレートの適用幅及び厚さは下表による。

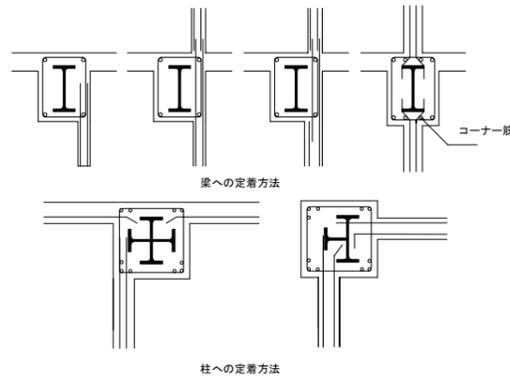
幅	厚さ										
	6	9	12	16	19	22	25	28	32	36	40
100	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
125	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
150	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
175	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
200	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
250	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
300	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
350	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
400	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
450	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
500	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

8 鉄骨と鉄筋コンクリート部分の取合い

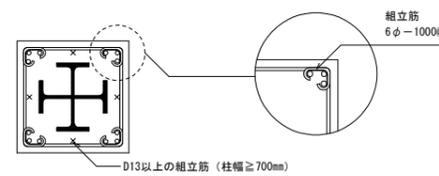
- (1) 鉄骨のかぶり厚さ
鉄筋と鉄骨相互のあき (bs) は、粗骨材の最大寸法の1.25倍以上とする。



- (2) 壁筋の周辺部材への定着
鉄筋を折り曲げる場合は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上直線に定着後、緩やかに折り曲げる。

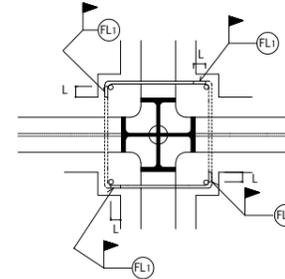


- (3) 柱組立筋



- (4) 仕口部内の帯筋の加工及び組立

方面溶接の有効長さ (L) は、鉄筋の呼び名の数値の10倍以上とする。ただし、溶接によらない場合は135° 曲げフックとする。



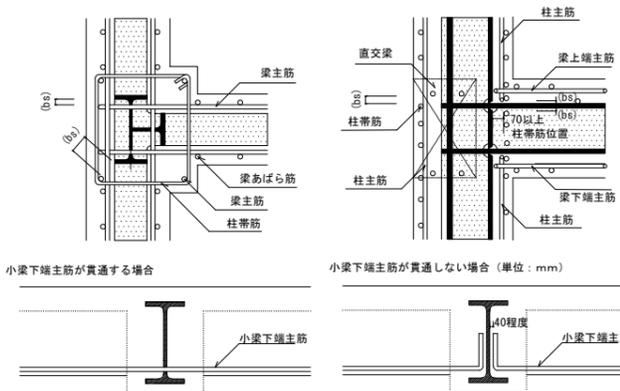
- (5) 鉄筋貫通孔の径及び位置

鉄筋貫通孔の径
①主筋の鉄筋貫通孔は、最大孔径に統一する。
②鉄骨フランジには、鉄筋貫通孔を設けないものとする。

(単位: mm)

鉄筋の呼び名	D10	D13	D16	D19	D22	D25	D29	D32
鉄筋貫通孔の径	21	24	28	31	35	38	43	46

鉄筋貫通孔の位置 (単位: mm)



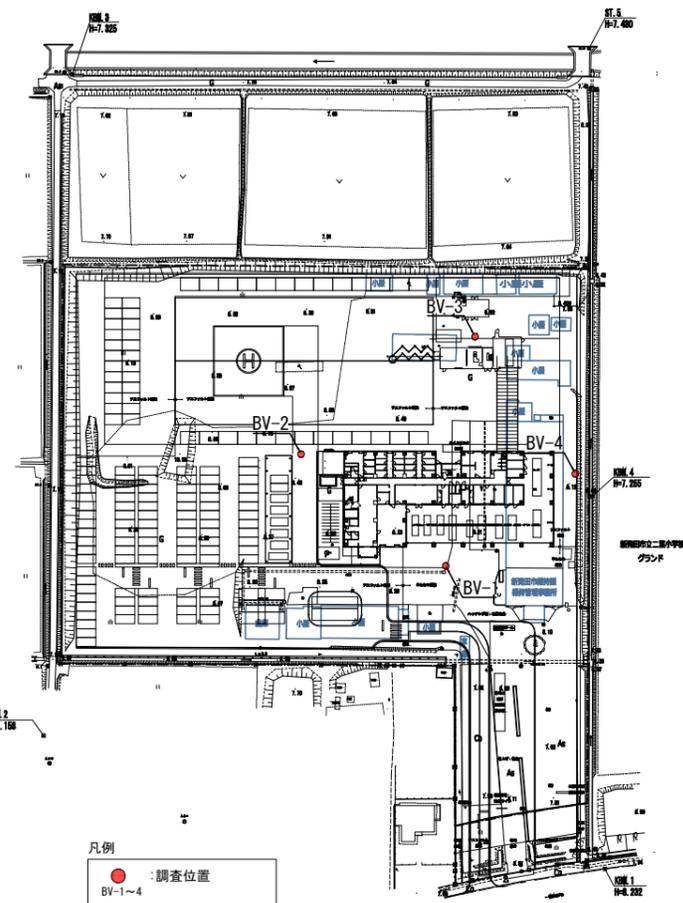
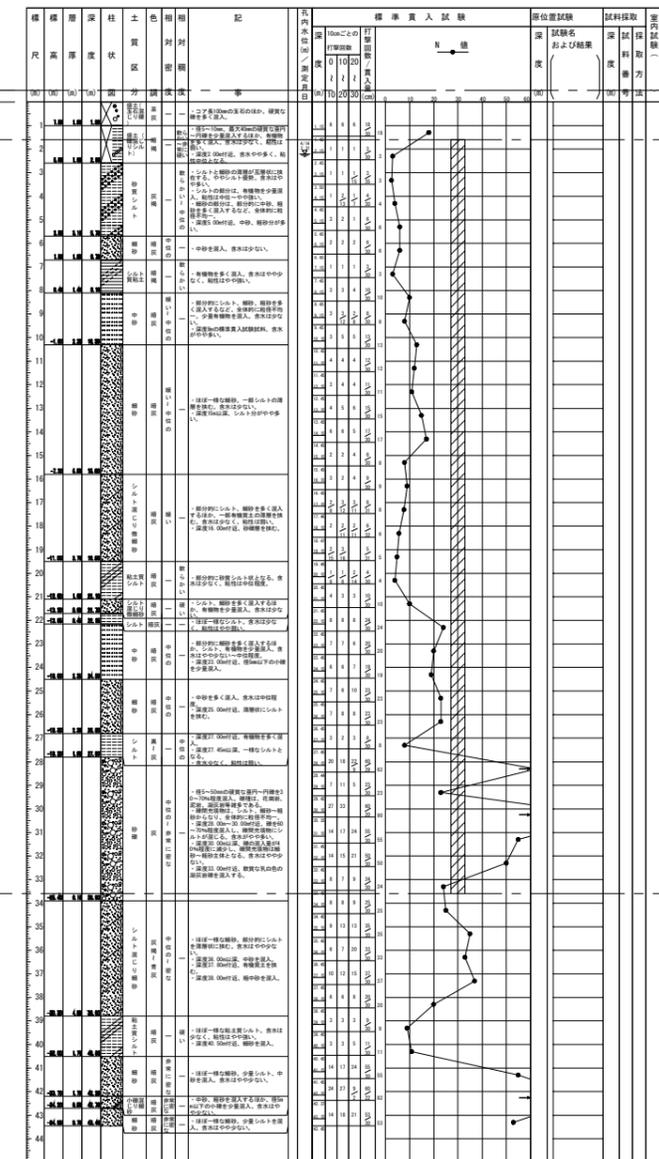
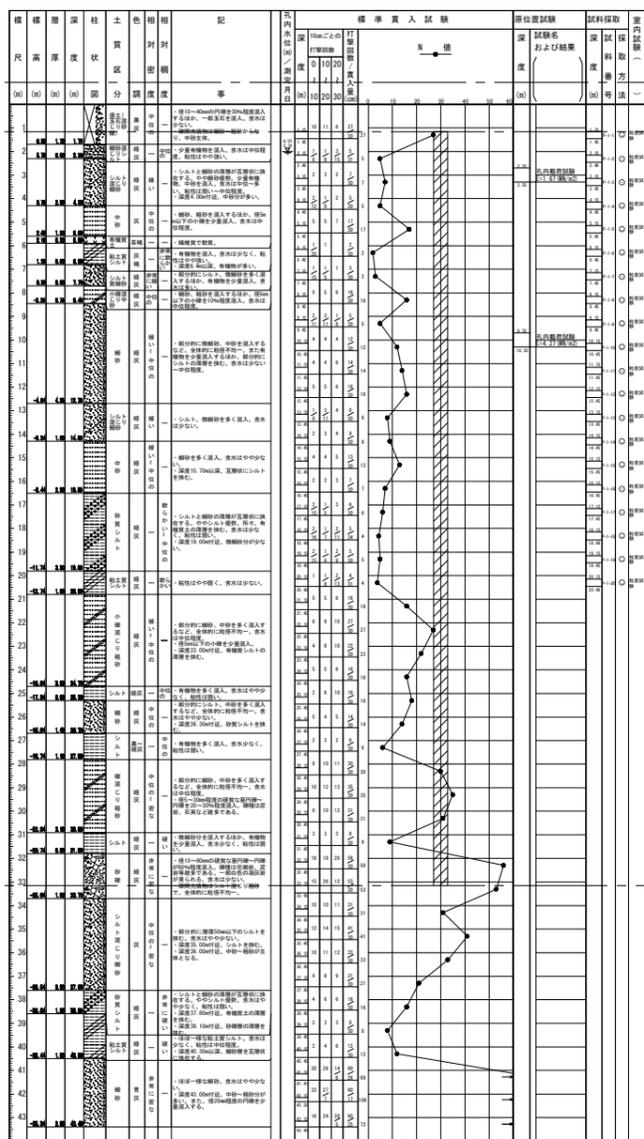
小梁下端主筋が貫通する場合 / 小梁下端主筋が貫通しない場合 (単位: mm)

ボーリング柱状図

ボーリング柱状図

調査名	新発田地域広域事務組合 新庁舎建設事業 地質調査業務委託		ボーリングNo.	1
事業・工事名	令和4年度 広域19号		シートNo.	1
ボーリング名	BV-1	調査位置	新発田新発田市中田町 地内	
発注機関	新発田地域広域事務組合	調査期間	令和 5年 4月 21日 ~ 5年 5月 1日	
調査業者名	株式会社 新発田地質	主任技師	大澤 一夫	
代表者	田巻 純野	調査者	田巻 純野	
試験機	カノー KR-500R	ハンマー	落下用長	
ポンプ	エンジン ヤンマー NF0-8	ポンプ	半自動落下装置	
試験機	カノー	ポンプ	V5-P	

調査名	新発田地域広域事務組合 新庁舎建設事業 地質調査業務委託		ボーリングNo.	2
事業・工事名	令和4年度 広域19号		シートNo.	1
ボーリング名	BV-2	調査位置	新発田新発田市中田町 地内	
発注機関	新発田地域広域事務組合	調査期間	令和 5年 4月 14日 ~ 5年 4月 20日	
調査業者名	株式会社 新発田地質	主任技師	大澤 一夫	
代表者	田巻 純野	調査者	田巻 純野	
試験機	カノー KR-500R	ハンマー	落下用長	
ポンプ	エンジン ヤンマー NF0-8	ポンプ	半自動落下装置	
試験機	カノー	ポンプ	V5-P	



- 凡例
- : 調査位置
 - BV-1~4
 - : 新築建物位置
 - : 既存建物位置
 - : 敷地境界

AXS 佐藤総合計画 + 巧設計

設計番号	04584-010	工事名称	新発田地域広域事務組合 新庁舎建設工事 (建築)	種別	S-010
調査名	庁舎棟 ボーリング柱状図 (1)				
一級建築士事務所	登録番号 東京都第1033号	経理	一級建築士第267567号 河田 健	担当	通し番号
建設コンサルタント	登録番号 建01第843号	経理	法適合確認結果等 設備関係規定に適合することを確認した	作成日	
構造設計一級建築士第5840号 渡邊 朋宏	設備設計一級建築士第2304号 是永 恒久				

静的締固め砂杭工法 特記仕様書

1. 工事概要

本地業は、液状化対策を目的とした静的締固め砂杭工法（φ700mm）による地盤改良工事である。本工法は、強制昇降装置を用いてケーシングパイプ（φ400mmの中空の単管）を回転圧入することにより、振動エネルギーを用いずに静的な圧入力による打ち戻し施工により地盤中に締め固められた砂杭を造成するものである。

2. 一般事項

本工事は、本特記仕様書によるほか、液状化判定に際しては、「建築基礎構造設計指針」（2019年11月 日本建築学会）および「建築基礎のための地盤改良設計指針案」（2006年11月 日本建築学会）による。

3. 特記事項

- (1) 本工法の改良深度、本数、配置等は設計図書によるものとする。ただし、施工条件・地盤条件により変更が適切と判断された場合は監督職員と協議の上、変更する。
- (2) 静的締固め砂杭工法は、（財）国土技術研究センター（建設技術審査証明協議会会員）による技術審査証明を取得している工法とする。
- (3) 本工事施工業者は、SAVEコンポーザー工法研究会に属するものとする。
- (4) 本工法による改良地盤の要求性能は以下の通りとする。

表-1 改良地盤の要求性能

加速度	マグニチュード	改良目標値
200gal	7.5	改良範囲の全深度において、液状化に対する安全率FL>1.0
350gal	7.5	改良範囲内において、地表面最大水平変位Dcy≤5、もしくは液状化指数PL≤5

- ・地表面最大水平変位Dcyの算定は「建築基礎構造設計指針」（2019年11月 日本建築学会）による。
- ・液状化指数PLの算定は「建築基礎のための地盤改良設計指針案」（2006年11月 日本建築学会）による。

- (5) 要求性能を満足する地盤改良の仕様は、「建築基礎のための地盤改良設計指針案」（2006年11月 日本建築学会）に示される方法Dによるものである。静的締固め砂杭工法は、液状化対策として方法Dに基づいた改良効果が検証されている工法とする。
- (6) 本工事は、液状化対策工事であり地盤の締め固めを目的としていることから、ケーシングパイプにスパイラルを装着するなど、地盤を緩めるような機構での砂杭の造成方法としてはならない。

4. 材 料

本工法に使用する中詰材は以下の条件を満足するものとする。

- 1) 締固め砂杭に使用する中詰材には、原則として砂を使用する。
砂以外の材料を用いる場合は、材料の特性や品質について監督職員に承諾を受ける。
- 2) 中詰材に使用する砂は、細粒分含有率が15%以下のものとする。
- 3) 中詰材に使用する単粒度砕石は、JIS A 5001のS-13（6号）またはS-5（7号）に規定される粒度分布の範囲のものとする。
- 4) 中詰材の使用に先立ち、ふるい分け試験を実施して、その結果を見本とともに監督職員に提出し承諾を受ける。
中詰材は、2000m³ に1回の割合でふるい分け試験を行い、結果を監督職員に提出し、承諾を受ける。

5. 施工計画

- (1) 本工事施工は、本工法の施工技術に精通した施工業者による。
- (2) 施工計画書
工事に先立ち、施工計画書を監督職員に提出し、承諾を受ける。施工計画書には次の事項を明記する。
 - 1) 工法概要
 - 2) 工事内容
 - 3) 工程表
 - 4) 現場組織表
 - 5) 使用機械（施工機・使用機械構成等）
 - 6) 施工方法（施工フロー・砂杭造成・施工手順等）
 - 7) 施工管理（工程管理・管理システムの概要等）
 - 8) 品質出来形管理（品質管理・出来形管理等）
 - 9) 安全対策

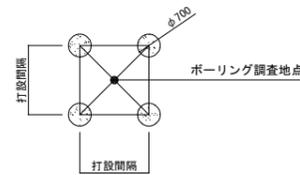
6. 施工管理

砂杭による締固め工法は、所定の深度までの貫入、また所定の中詰材の投入量を確認することが最も重要であることから、以下に示す管理計器を用いて確認する。
 GL計：ケーシングパイプ先端の深度と時間の関係を連続記録する。この記録によってケーシングパイプが所定の深さまで達したことを確認する。
 砂面計：ケーシングパイプの中詰材の高さを計測できる装置を有し、押し出された中詰材の量を砂杭圧入比で除した値を用いることで打戻し量を自動制御でき、単位長さ当たりの中詰材の量を連続的に記録できる機能を有するものとする。
 なお、本施工に先立ち、管理計器の作動確認を監督職員立会いのもとで行い承諾を得る。確認方法については別途計画書を提出し承諾を得る。

7. 品質管理

施工後にボーリング調査を実施して所定の改良効果が得られていることを確認し、監督職員に報告書を提出の上承諾を受ける。

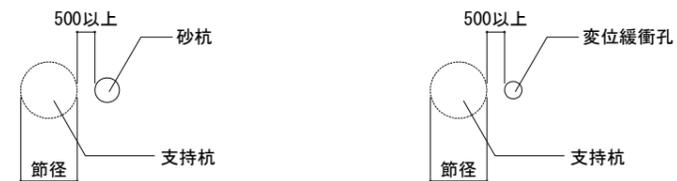
- (1) ボーリングの調査位置は下記の位置とする。



- (2) 調査方法は、機械式ボーリング（孔径66mm）による。
調査時期は砂杭施工後、地盤改良が安定したエリアで実施すること。
- (3) 調査項目
 標準貫入試験：φ700mmの造成長に対し、深さ方向に1.0m間隔で実施する。
 粒度試験：標準貫入試験と同数とする。
 調査位置：監督職員と協議の上決定する。
 調査箇所数：4箇所
- (4) 合否判定
 標準貫入試験によるN値と粒度試験による細粒分含有率Fcにより、液状化判定をおこない、表-1の要求性能を満足することを確認する。
 ただし、土層の物性に設計時と著しい変化が確認された場合は、液状化およびN値の再評価をおこなうこととし、この限りではない。

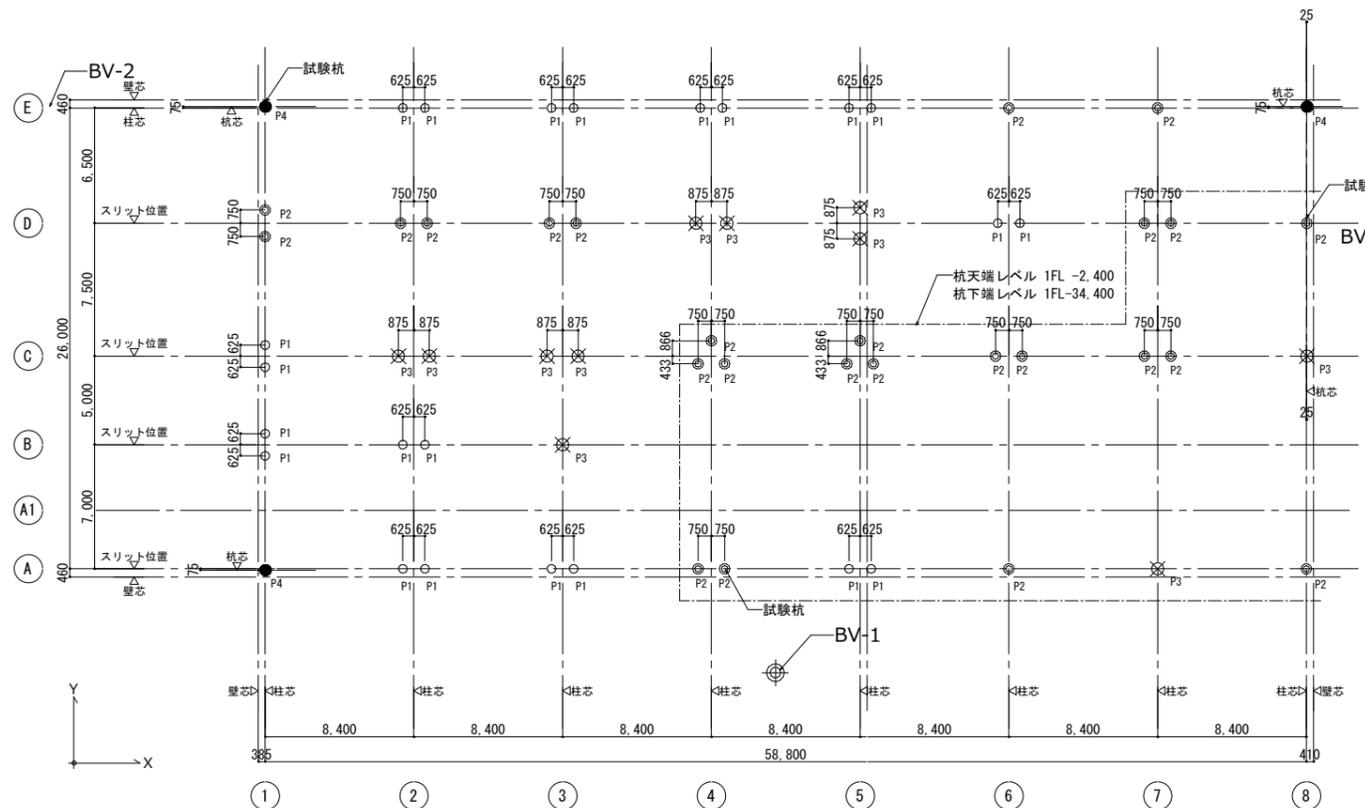
8. その他

- (1) 本工法による施工時の周辺への影響については、本工事着工前に周辺地盤、周辺構造物（埋設物含む）等の有無を調査して変位の影響について検討を行い、対策が必要と判断された場合は監理者と協議の上、その対策について検討する。
- (2) 山留め・杭工事等其他関連工事により、砂杭の配置・仕様変更が生じる場合は、監督職員の指示と承諾を得る。
- (3) 砂杭および変位緩衝孔と支持杭の離隔距離は下図による。



設計番号	04584-010	工事名称	新発田地域広域事務組合 新庁舎建設工事（建築）		種別	S-012
図面名	庁舎棟 静的締固め砂杭 特記仕様書			縮尺	A1: -	
一級建築士事務所	登録番号	東京都第1033号	総務	一級建築士第267567号	河田 健	通し番号
建設コンサルタント	登録番号	建01第843号	監理			
法適合確認結果等	構造関係規定に適合することを確認した	法適合確認結果等	設備関係規定に適合することを確認した	作成日		
構造設計一級建築士	第5840号	渡邊 朋宏	設備設計一級建築士	第2304号	是永 恒久	

AXS 佐藤総合計画 + 巧設計

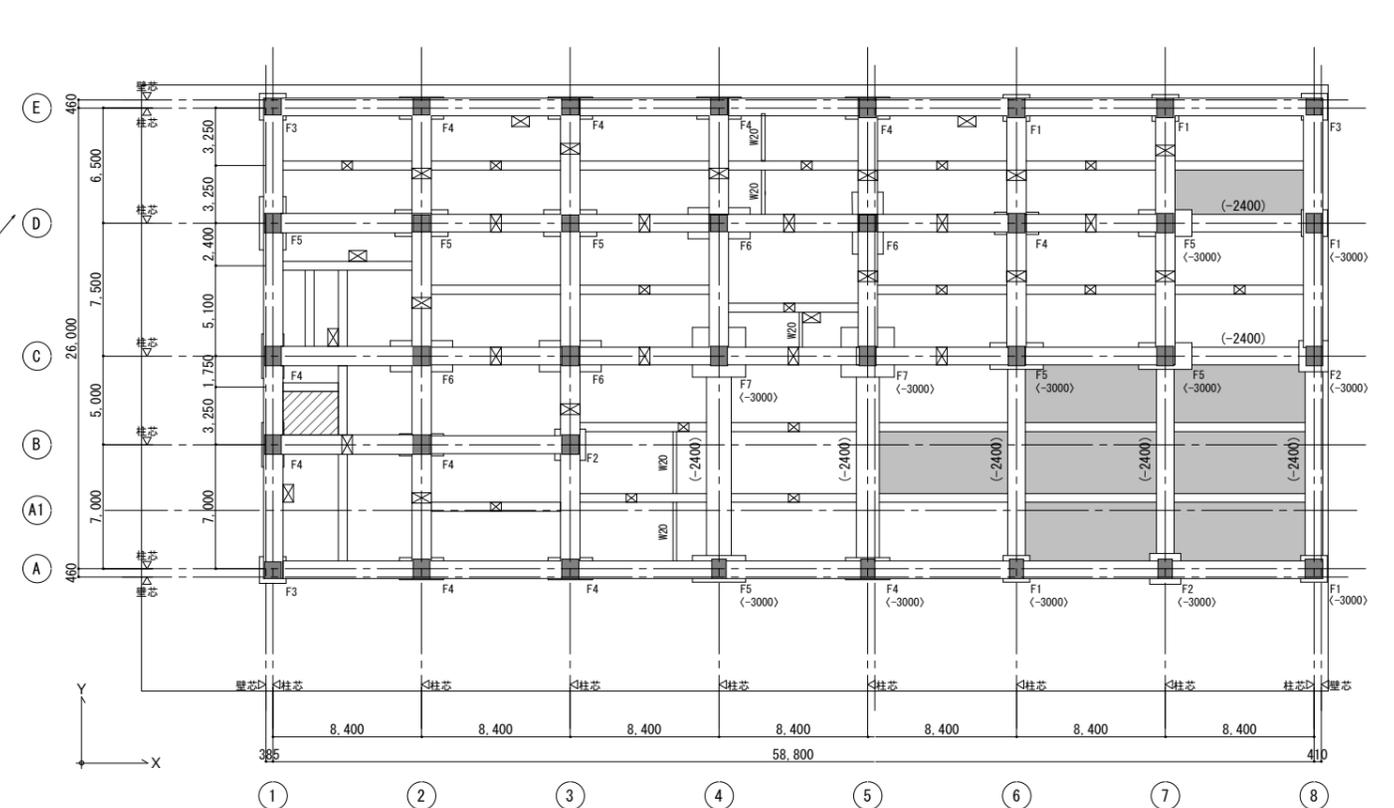


杭伏図(見下げ図) 1:200

- 特記なき限り下記による
- 設計GL=TP+9.0mとする
 - 1FL=設計GL+100とする
 - 杭天端レベル=1FL-2200
杭下端レベル=1FL-34200
- < > 内数値は1FLからの杭天端レベルを示す
() 内数値は1FLからの杭下端レベルを示す
4. ⊙ はボーリング位置を示す

凡例

符号	記号	上杭		中杭		下杭		杭全長 (m)	杭本数
		杭種別	杭径 (D)	杭径 (D)	杭径 (D)	杭径 (D)	杭径 (D)		
P1	○	HiSC105	500	5065	BF105	5065	5065	15.0	22
P2	◎	HiSC105	600	6075	BF105	6075	6075	15.0	25
P3	⊗	HiSC105	700	7090	BF105	7090	7090	15.0	11
P4	●	HiSC105	600	6075	BF-DAM105	6075	6075	15.0	3

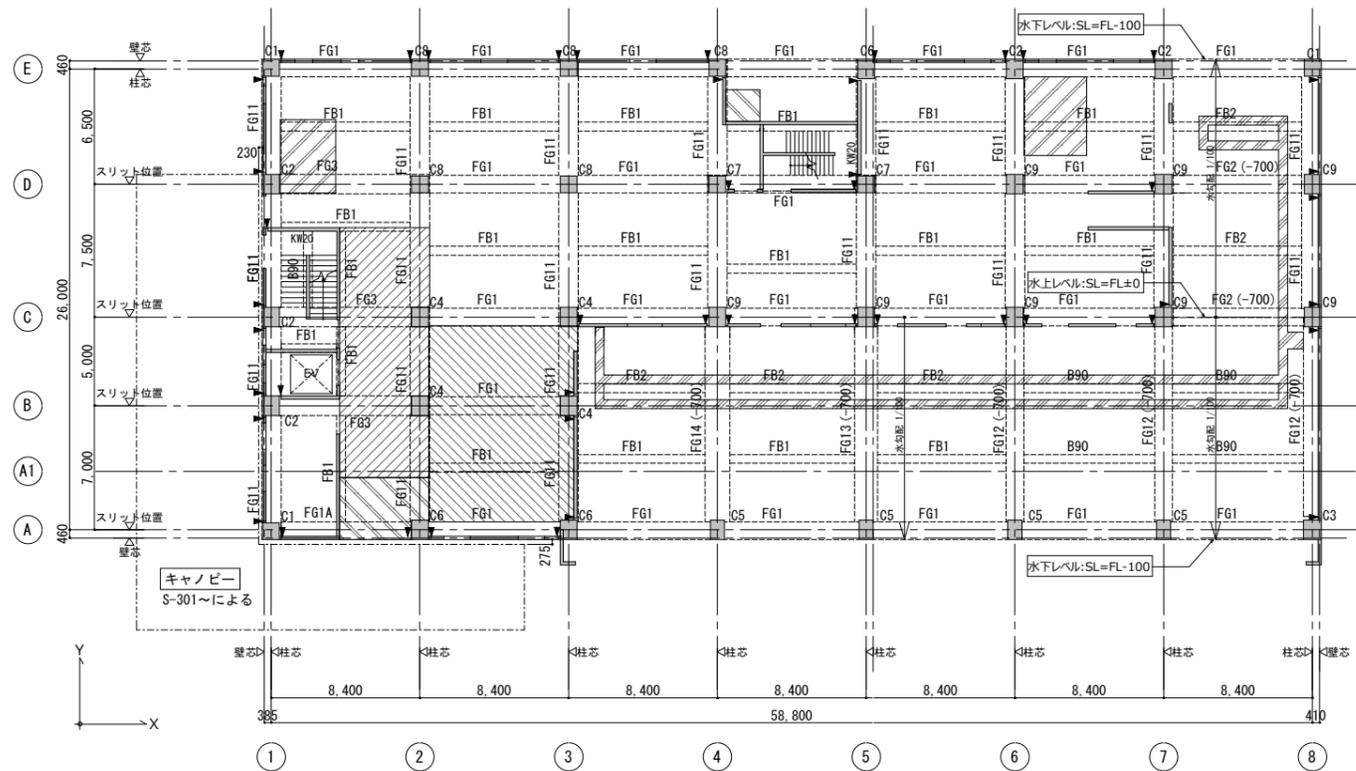


基礎伏図(見下げ図) 1:200

- 特記なき限り下記による
- 基礎底レベル=1FL-2800
 - 基礎梁下端レベル=1FL-2200
() 内数値は1FLからの基礎梁下端レベルを示す
 - 耐圧スラブ下端レベル=1FL-2200
 - 耐圧スラブはFS25とする
 - スラブ天端レベル
1FL -1250
 - 印は埋め戻しを示す
 - 印はファシを示す
 - 印は人入口(600φ)を示す
 - 印は釜場(W1200xL900xH600)を示す

AXS 佐藤総合計画 + 巧設計

設計番号 04584-010	工事名称 新発田地域広域事務組合 新庁舎建設工事(建築)	種別 S-014
図面名称 庁舎棟 杭伏図・基礎伏図	縮尺 A1:1/200 A3:1/400	
一級建築士事務所 登録番号 東京都第1033号 建設コンサルタント 登録番号 建01第843号	総務 一級建築士第267567号 河田 健	
法適合確認結果等 構造関係確認に適合することを確認した 構造設計一級建築士第5840号 渡邊 明宏	設備関係確認に適合することを確認した 設備設計一級建築士第2304号 是永 恒久	作成日

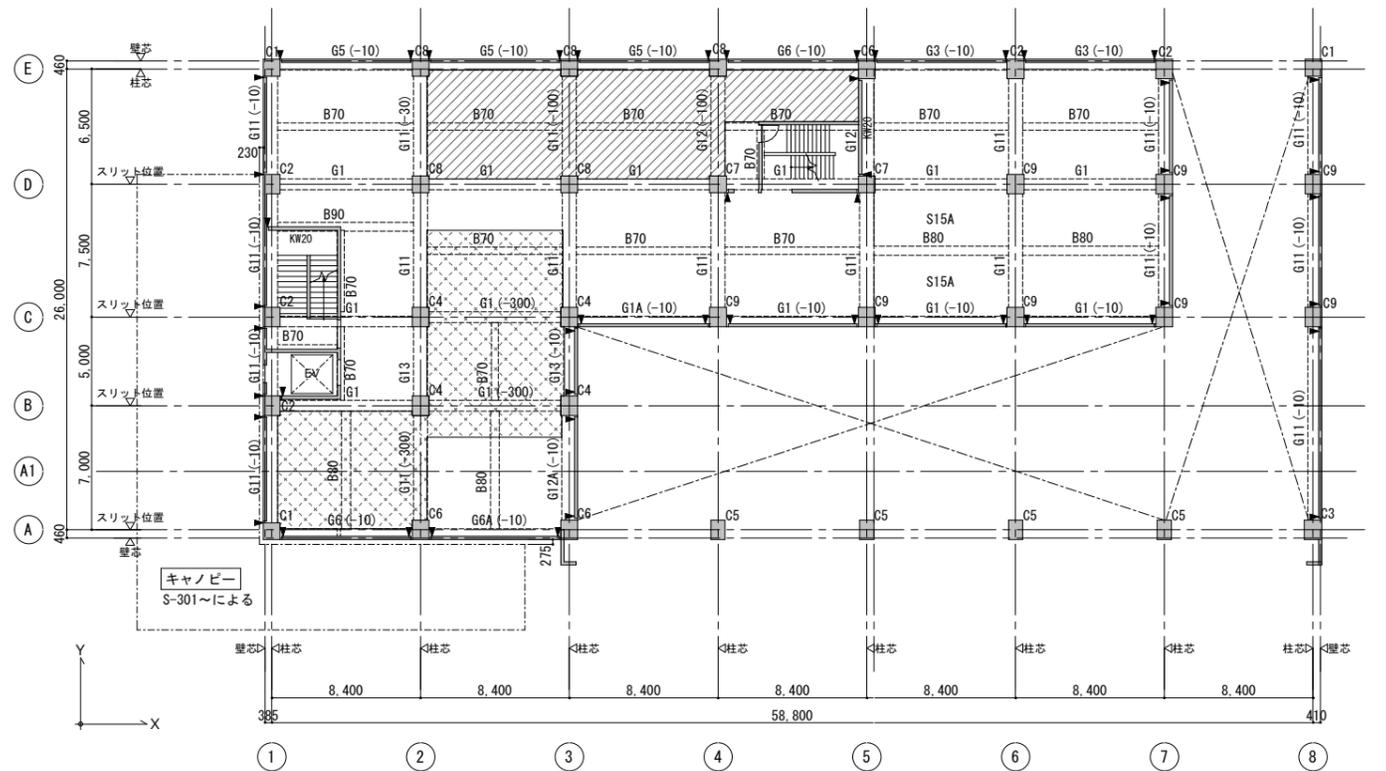


1階床伏図(見下げ図) 1:200

特記なき限り下記による

1. 設計GL=TP+9.0mとする
2. 1FL=設計GL+100とする
3. 梁天端レベル=1FL-200
()内数値は1FLからの梁天端レベルを示す
4. スラブ天端レベル

	1FL -10
	1FL -30
	1FL -50
	1FL -100
	1FL -200
5. は排気風道部を示す
6. 小梁レベルはスラブレベルと同じとする
(スラブレベルが複数ある場合は深いレベルに合わせ、上部は打ち増しとする)
7. スラブはS20とする
8. 壁はW18とする
9. ▼印は構造スリット(完全スリット)を示す
10. 印はフカシを示す
11. Saは土間コンクリートとする
12. : 点検口を示す
13. : マンホールを示す

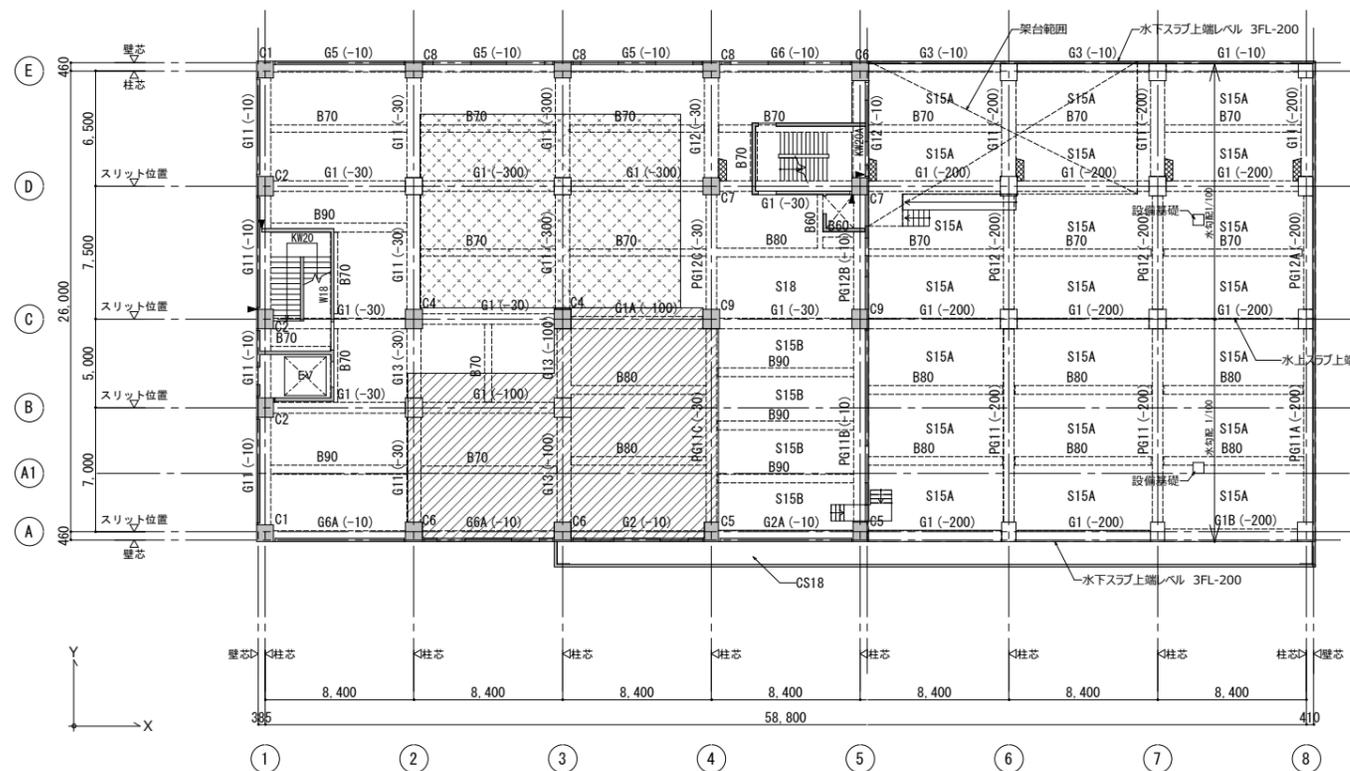


2階床伏図(見下げ図) 1:200

特記なき限り下記による

1. 2FL= 設計GL+4100 とする
2. 梁天端レベル=2FL-30
()内数値は2FLからの梁天端レベルを示す
3. スラブ天端レベル

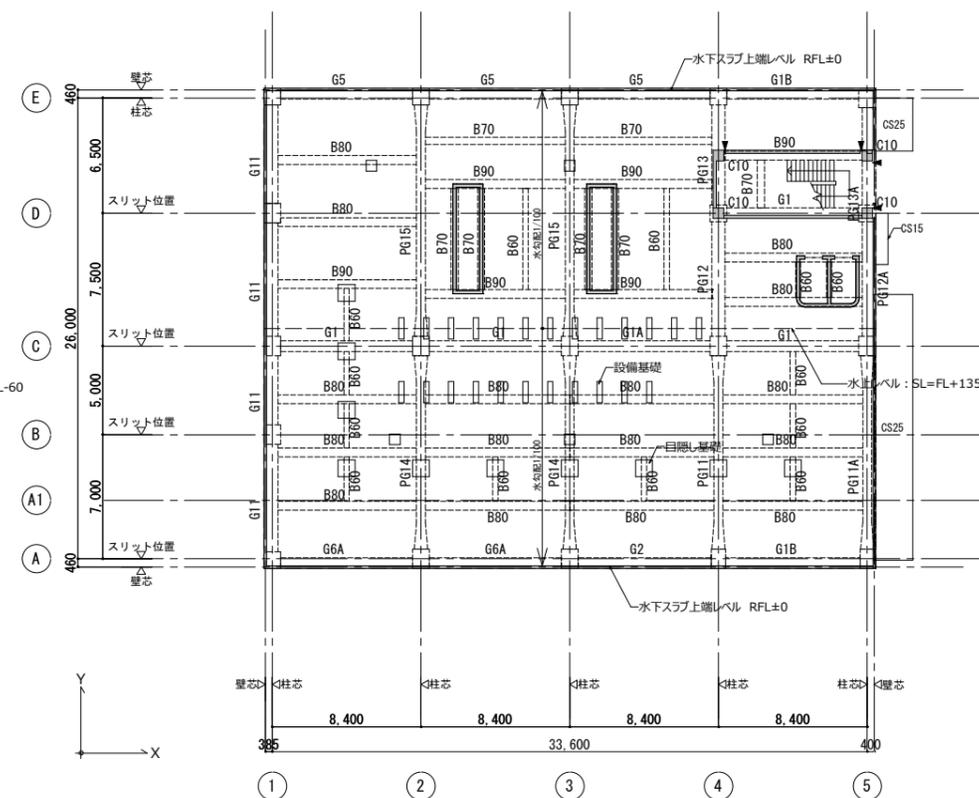
	2FL -10
	2FL -100
	2FL -300
4. 小梁レベルはスラブレベルと同じとする
(スラブレベルが複数ある場合は深いレベルに合わせ、上部は打ち増しとする)
5. スラブはS15とする
6. 壁はW18とする
7. ▼印は構造スリット(完全スリット)を示す
8. 印はフカシを示す
9. : 点検口を示す



3階床伏図(見下げ図) 1:200

- 特記なき限り下記による
- 3FL=設計GL+8100 とする
 - 梁天端レベル=3FL-30
()内数値は3FLからの梁天端レベルを示す
 - スラブ天端レベル

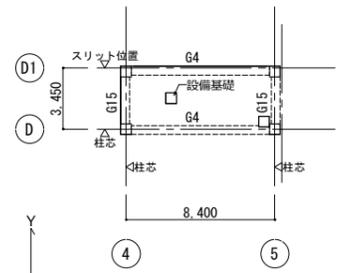
□	3FL-10
▨	3FL-100
▩	3FL-300
 - 小梁レベルはスラブレベルと同じとする
(スラブレベルが複数ある場合は深いレベルに合わせ、上部は打ち増しとする)
 - スラブはS15とする
 - 壁はW18とする
 - ▼印は構造スリット(完全スリット)を示す
 - ▩印はファシを示す



R階床伏図(見下げ図) 1:200

- 特記なき限り下記による
- 梁天端レベル=RFL-10
()内数値はRFLからの梁天端レベルを示す
 - スラブ天端レベル

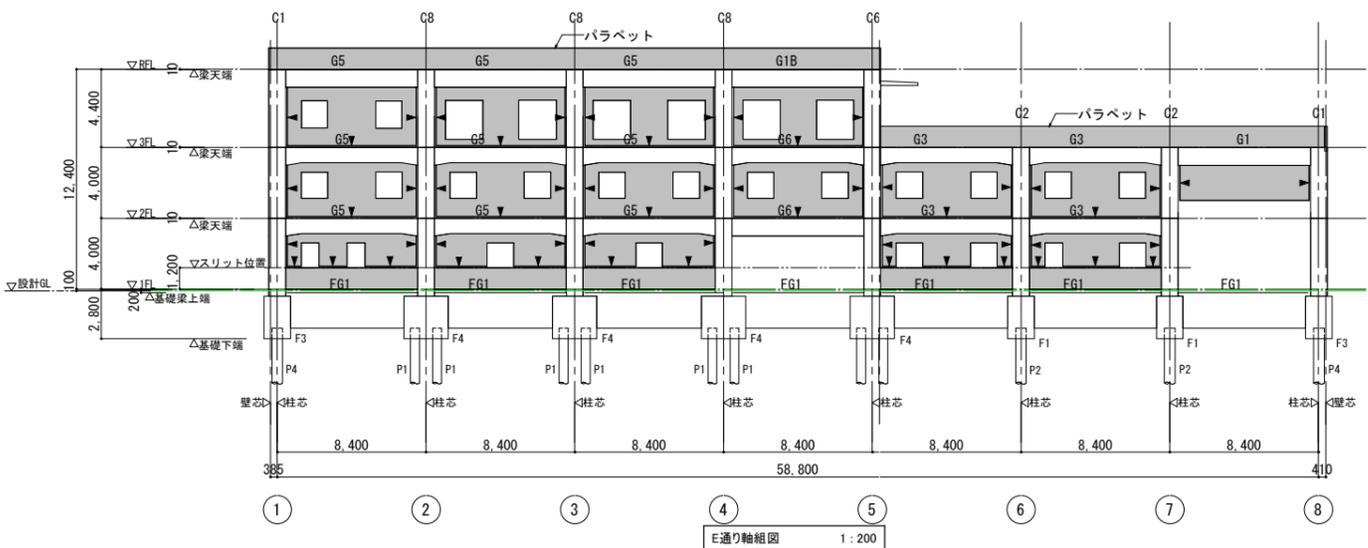
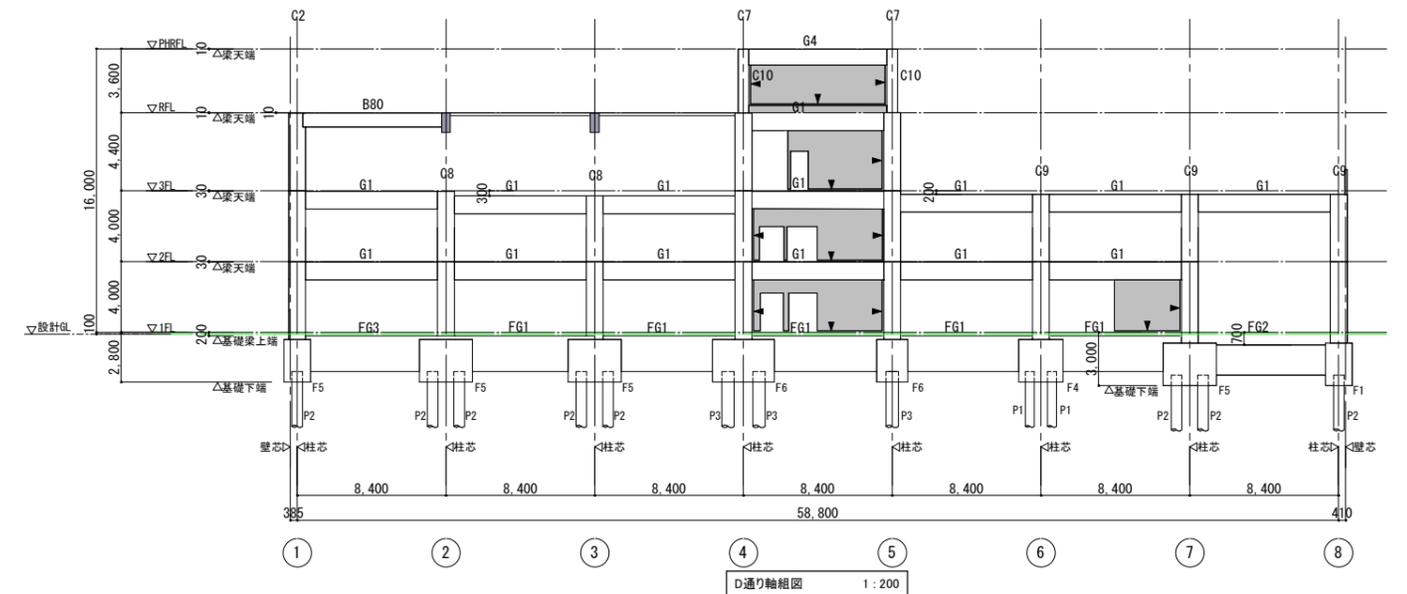
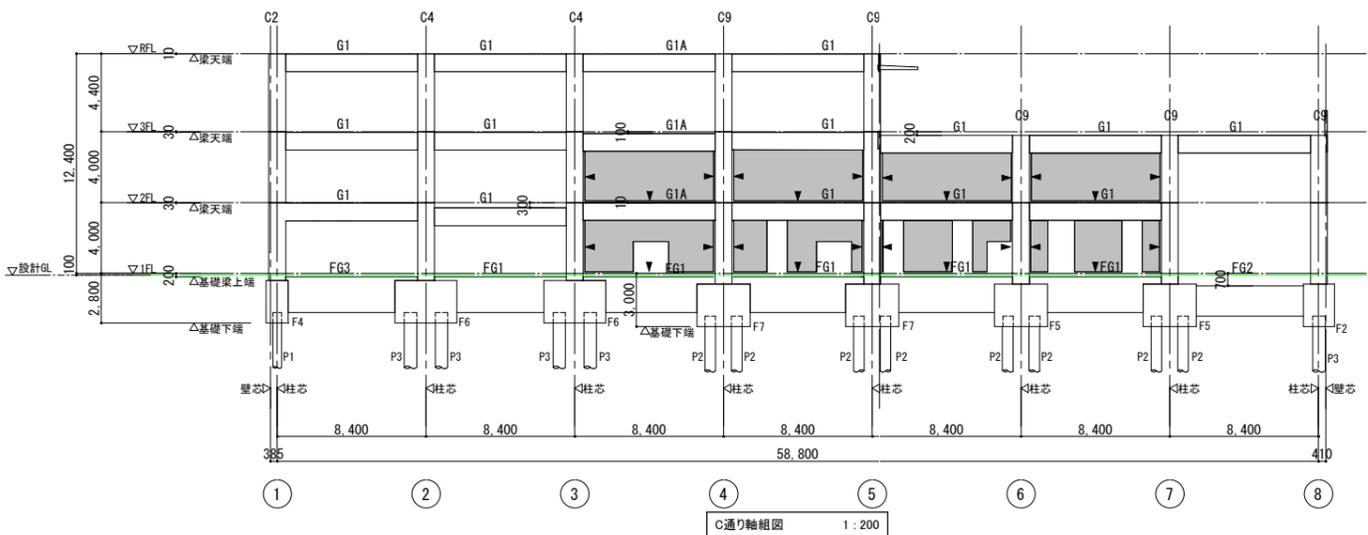
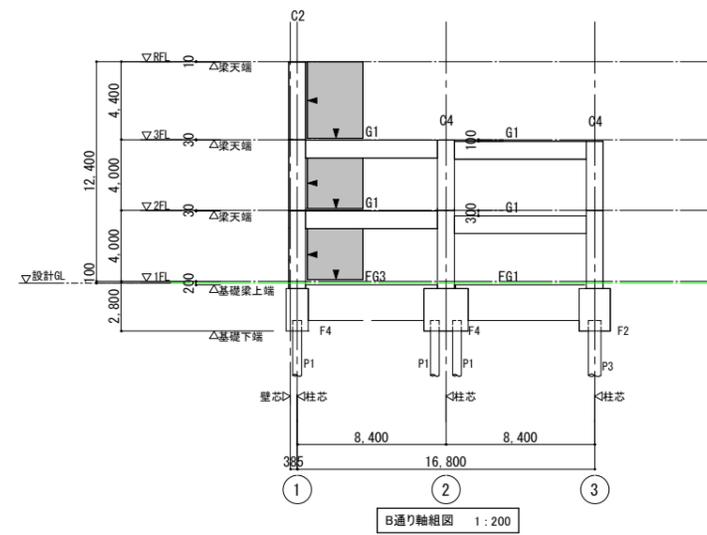
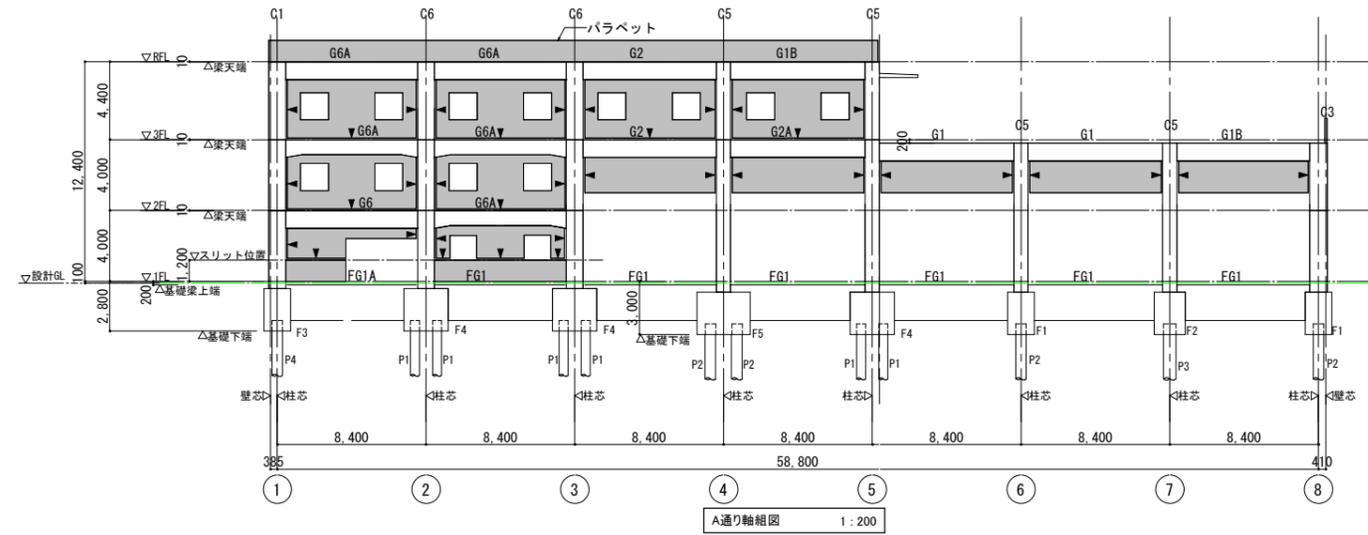
□	水勾配なり
---	-------
 - 小梁レベルはスラブレベルと同じとする
(スラブレベルが複数ある場合は深いレベルに合わせ、上部は打ち増しとする)
 - スラブはS15とする
 - 壁はW18とする
 - ▩印はバラベツを示す



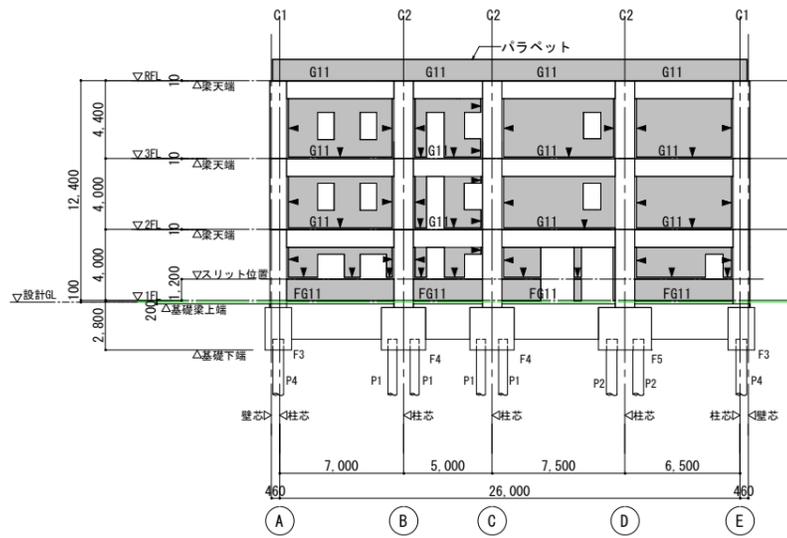
PHR階床伏図(見下げ図) 1:200

- 特記なき限り下記による
- 梁天端レベル=PHRFL-10
()内数値はPHRFLからの梁天端レベルを示す
 - スラブ天端レベル

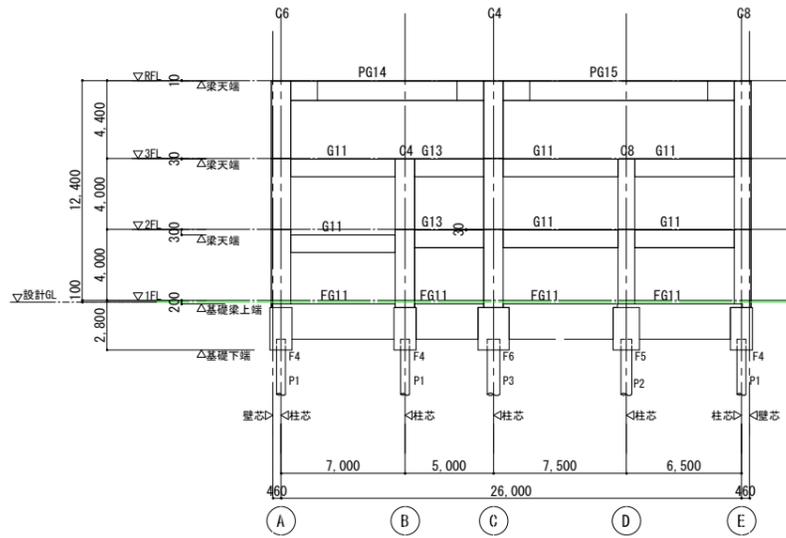
□	水勾配なり
---	-------
 - 小梁レベルはスラブレベルと同じとする
(スラブレベルが複数ある場合は深いレベルに合わせ、上部は打ち増しとする)
 - スラブはS15とする
 - ▩印はバラベツを示す



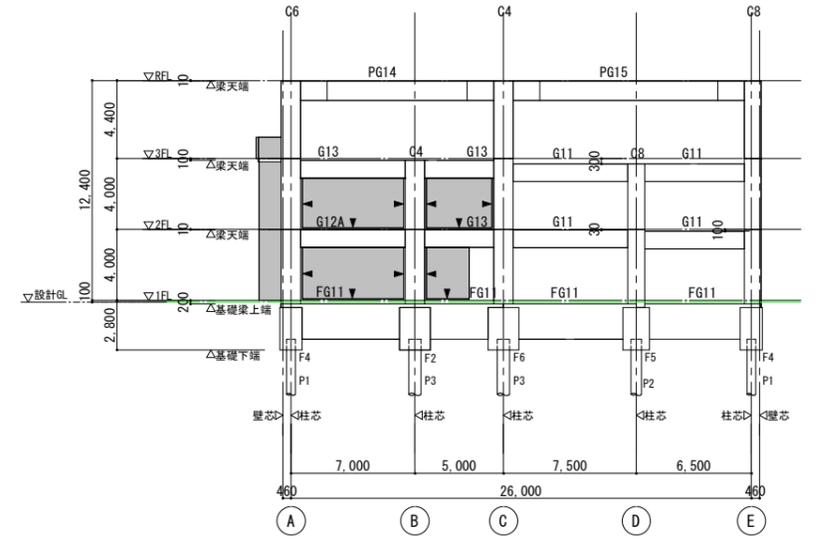
- 特記なき限り下記による
1. 壁はW18を示す。
 2. は打増しを示す。
 3. は構造スリット(完全スリット)を示す。
 4. () 内数値はFLからの梁天端レベルを示す。



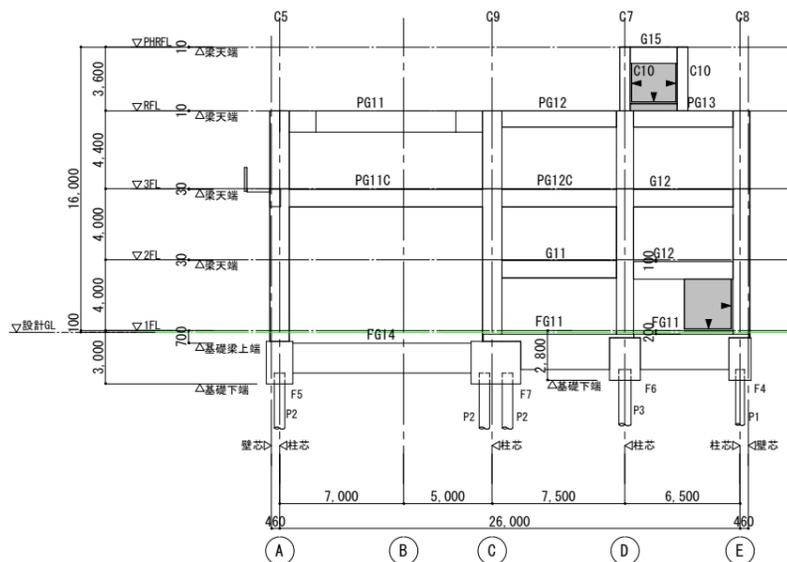
1通り軸組図 1:200



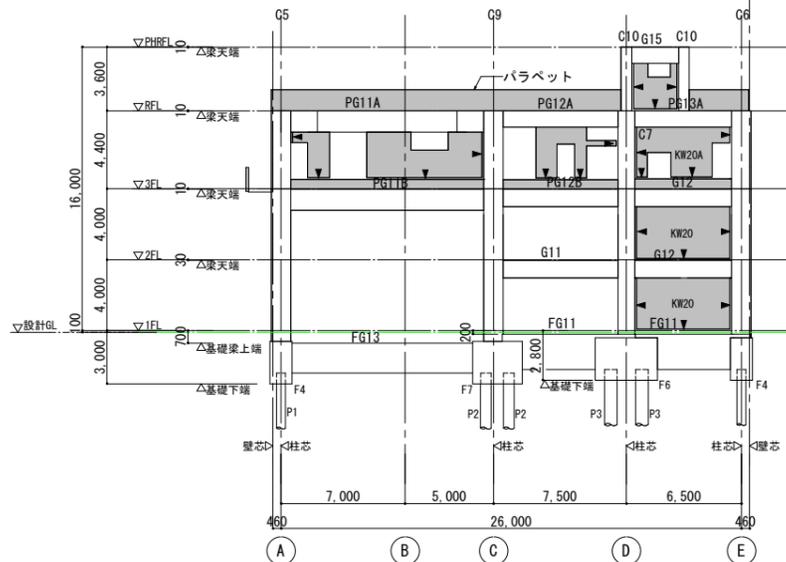
2通り軸組図 1:200



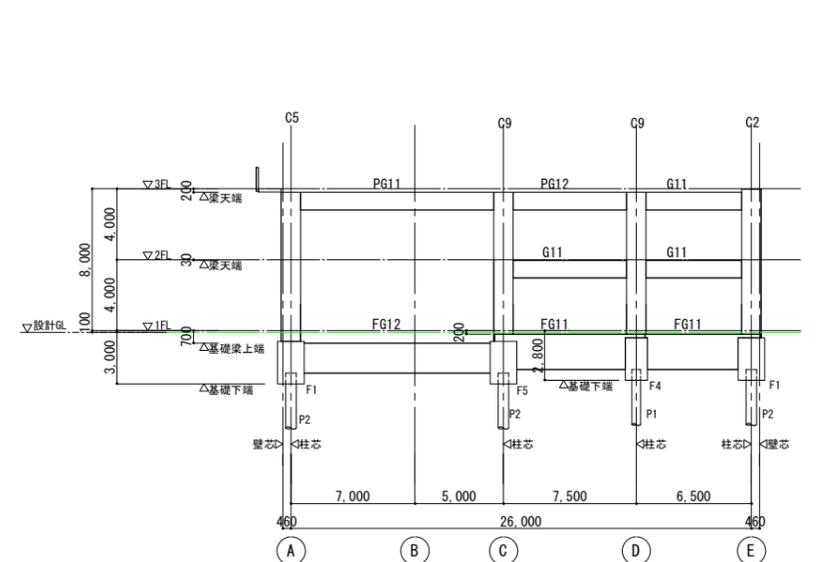
3通り軸組図 1:200



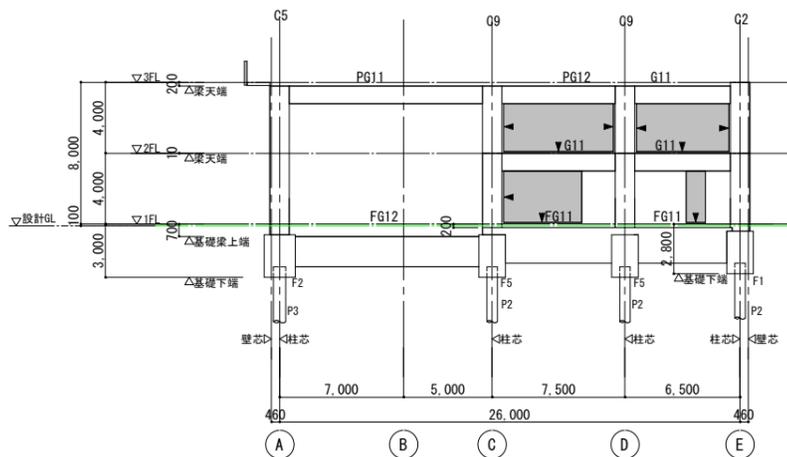
4通り軸組図 1:200



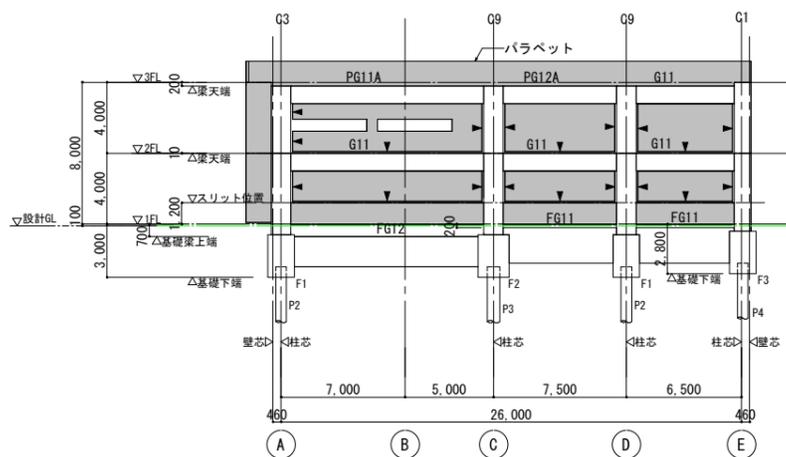
5通り軸組図 1:200



6通り軸組図 1:200



7通り軸組図 1:200



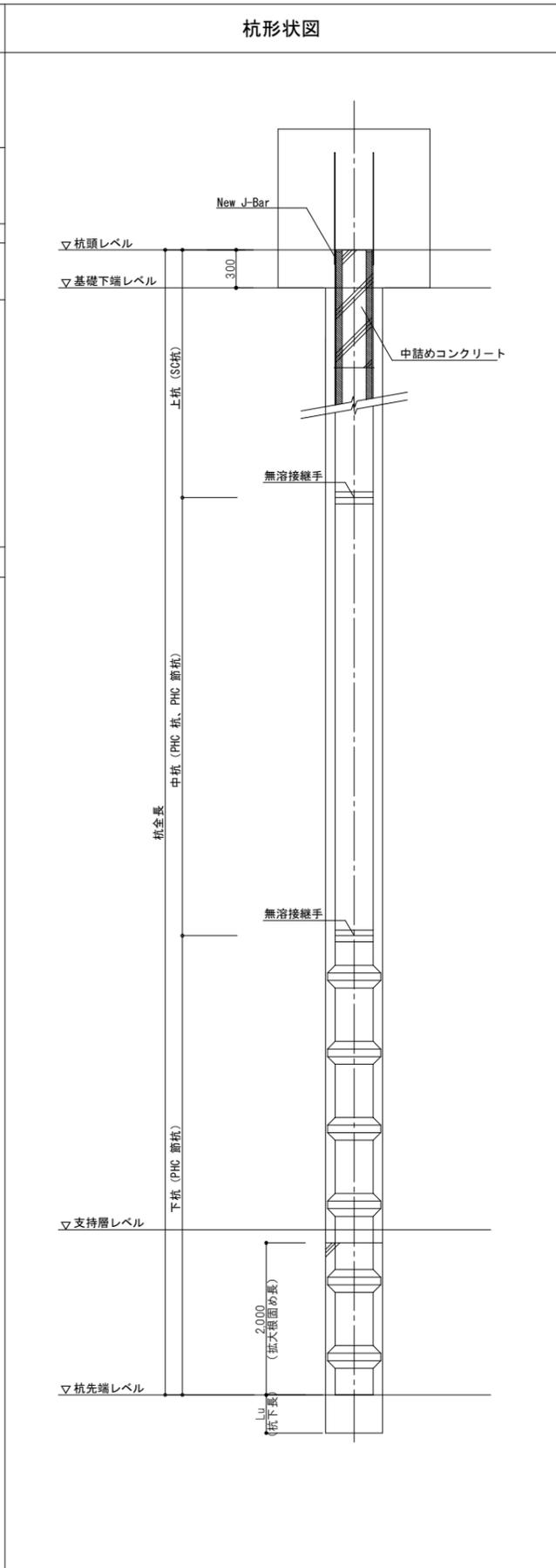
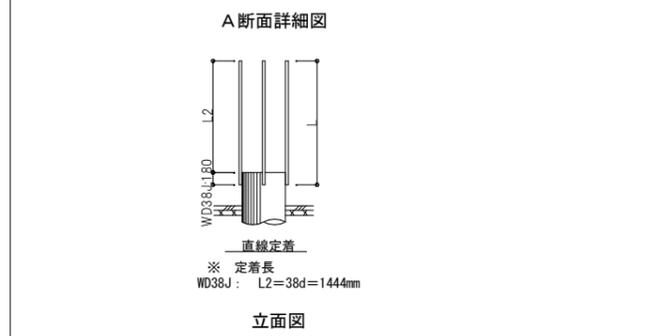
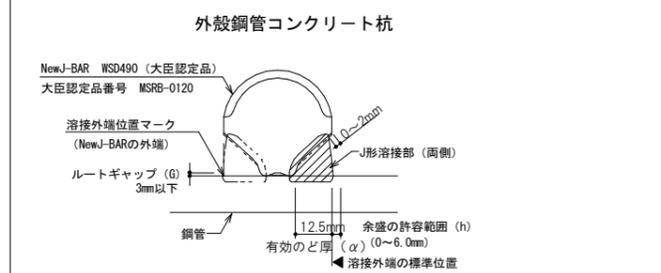
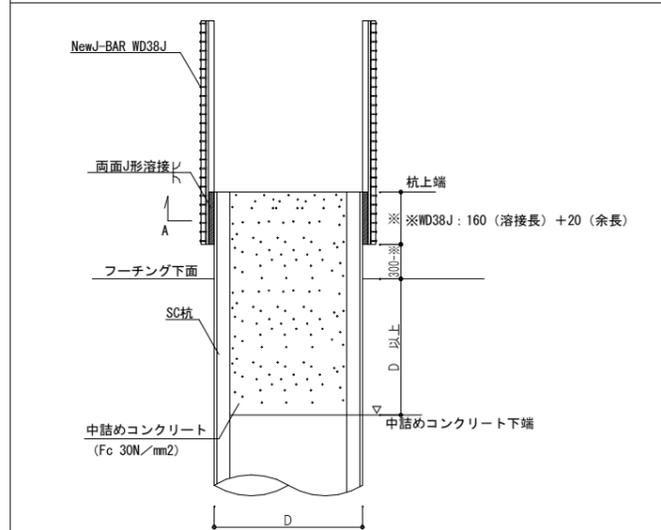
8通り軸組図 1:200

特記なき限り下記による

1. 壁はW18を示す。
2. は打増しを示す。
3. は構造スリット(完全スリット)を示す。
4. () 内数値はFLからの梁端レベルを示す。

杭工事特記仕様書		
工法	工法名称 認定番号 先端根固め 杭周固定	プレボーリング拡大根固め工法 (Hybridリーディング工法[摩擦強化型] (認定工法)) TACP-0541、TACP-0542 認定条件に準拠すること。 認定条件に準拠すること。
既成杭	コンクリート 鋼管 その他	Fc=105N/mm ² SKK490 ・既成品は性能評価取得品を使用すること。 ・下杭は工法で指定される杭を用いること。
継手工法	工法名称	無溶接継手評定工法
外周鉄筋	工法 認定番号 鉄筋	New J-Bar MSRB-0120 WD38J (WSD490)
施工管理	想定支持層 試験杭 杭芯ずれ 鉛直精度 外周鉄筋溶接部 その他	・杭先端は支持層であるDg1層(洪積砂礫層1)に到達させ、支持層に1m以上貫入させること。 ・試験杭(本設杭兼用とする)を行い、掘削速度・鉛直精度 施工管理対策等が十分であるか確認すること。 ・100mm以下とすること。 ・杭芯にずれが生じないよう施工に注意すること。 ・杭芯位置の実測を行い監督職員に報告し、必要に応じて補強方法等の指示を受けること。 ・1/200以下とする。 ・施工記録を監督職員に提出すること。 ・全数に対して外観検査を行い監督職員に報告すること。

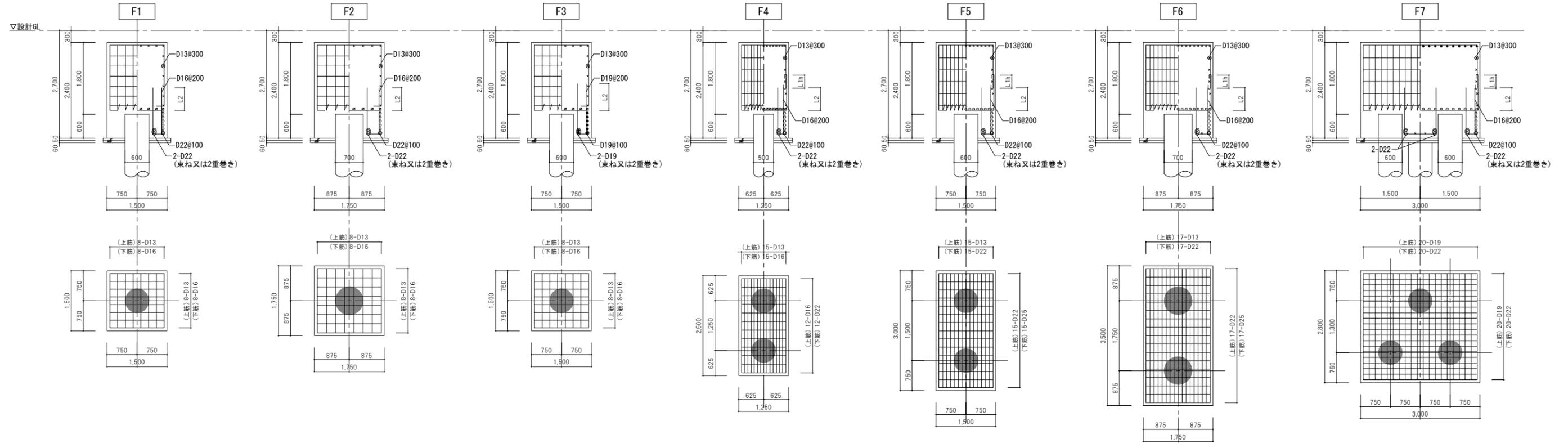
杭頭接続筋詳細図



杭部材表

符号	上杭					中杭					下杭					杭全長 (m)	New J-Bar	設計掘径比	杭下長 (標準寸法) Lu	杭本数	
	杭種別	杭径 (D)	鋼管厚 (t)	肉厚	杭長 (m)	杭種別	杭径 (D)	杭種	肉厚	杭長 (m)	杭種別	杭径 (D)	杭種	杭長 (m)	肉厚						Fc (N/mm ²)
P1	HiSC105	500	14	80	5.0	BF105	5065	B種	80	12.0	BF105	5065	A種	15.0	80	105	32.0	10-WD38J	1.2	認定条件に準拠	22
P2	HiSC105	600	14	90	5.0	BF105	6075	B種	90	12.0	BF105	6075	A種	15.0	90	105	32.0	14-WD38J	1.2	認定条件に準拠	25
P3	HiSC105	700	14	100	5.0	BF105	7090	A種	100	12.0	BF105	7090	A種	15.0	100	105	32.0	16-WD38J	1.2	認定条件に準拠	11
P4	HiSC105	600	16	90	5.0	BF-DAM105	6075	A-D22	90	12.0	BF105	6075	A種	15.0	90	105	32.0	14-WD38J	1.2	認定条件に準拠	3

基礎断面リスト 1:50



基礎梁リスト 1:40

特記なき限り下記による

- 鉄筋：D10・D13 (SD295)・D25 (SD345)・D32 (SD390)
- 幅止め筋：D10@1000以内
- 定着する柱のせい(D)が450mmの場合は水平定着長さLは3/4以上とする。
- 梁主筋：1段筋/2段筋-鉄筋径 5.機械式定着板を採用する場合は評定工法とし、監督職員の承諾を得ること。

基礎小梁リスト 1:40

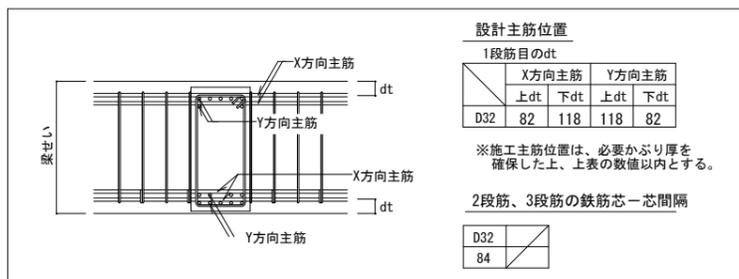
特記なき限り下記による

- 鉄筋：D10・D13 (SD295A)・D22 (SD345)
- 幅止め筋：D10@1000以内
- 梁主筋：1段筋/2段筋-鉄筋径

符号	FG1		FG1A		FG2		FG3		FG11		FG12		FG13		FG14	
	全断面		全断面		全断面		全断面		全断面		端部	中央	端部	中央	端部	中央
位置	全断面		端部	中央	端部	中央	端部	中央								
断面																
上端筋	8/8 - D32		8/2 - D32		8/8 - D32		9/9 - D32		9/9 - D32		8/8 - D32	8/4 - D32	11/11 - D32	11/6 - D32	12/12 - D32	12/6 - D32
下端筋	7/1 - D32		7 - D32		7/1 - D32		8/1 - D32		8 - D32		7/3 - D32	7/3 - D32	10/4 - D32	10/4 - D32	10/8 - D32	10/8 - D32
STP	3 - D13 @100		4 - D13 @100		3 - D13 @100		3 - D13 @100		5 - D13 @100		3 - D13 @100		5 - D13 @100		6 - D13 @100	
腹筋	10-D10		10-D10		8-D10		10-D10		10-D10		8-D10		8-D10		8-D10	

符号	FB1		FB2	
	端部	中央	端部	中央
位置	端部	中央	端部	中央
断面				
上端筋	4/4 - D22	4 - D22	4/4 - D22	4 - D22
下端筋	4 - D22	4/4 - D22	4 - D22	4/4 - D22
STP	2 - D13 @200		2 - D13 @200	
腹筋	10-D10		8-D10	

基礎梁主筋位置



耐圧スラブリスト

特記外 1.バー型スペーサーを使用すること。

符号	スラブ厚	位置	短辺方向(主筋)		長辺方向(配力筋)		備考
			端部	中央	端部	中央	
FS25	250	上	D13@150	D13@150	D13@150	D13@150	モチアミ配筋
		下	D13@150	D13@150	D13@150	D13@150	

階	符号	C1	C2	C3	C4	C5	C6	C7	C8	C9	C10
PHF	断面										
	主筋										
	一般部フープ	(3-3) D13@100									
3	断面			/							/
	主筋	20-D29	22-D29		22-D29	20-D29	20-D29	20-D29	20-D29	20-D29	
	一般部フープ	(4-4) D13@100	(4-4) D13@100	(4-4) D13@100	(5-4) S13@100	(4-4) D13@100	(4-4) D13@100	(4-4) S13@100	(4-4) D13@100	(5-4) S13@100	
2	断面					/					/
	主筋	20-D29	22-D29	20-D29	22-D29		20-D29	20-D29	20-D29	22-D29	
	一般部フープ	(4-4) D13@100	(4-4) D13@100	(4-4) D13@100	(5-4) S13@100	(4-4) S13@100	(4-4) S13@100	(4-4) S13@100	(4-4) S13@100	(5-4) S13@100	
1	断面										/
	主筋	20-D29	22-D29	20-D29	22-D29	20-D29	20-D29	20-D29	20-D29	22-D29	
	一般部フープ	(5-5) D13@100	(4-4) S13@100	(5-5) D13@100	(5-4) S13@100	(6-6) D13@100	(4-4) S13@100	(4-4) S13@100	(4-4) S13@100	(5-4) S13@100	

AXS 佐藤総合計画 + 巧設計

設計番号	04584-010	工事名称	新発田地域広域事務組合 新庁舎建設工事(建築)	種別	S-021
図面名	庁舎棟 柱リスト			縮尺	A1:1/40 A3:1/80
一級建築士事務所	登録番号	東京都第1033号	取組	一級建築士第267567号 河田 健	担当
建設コンサルタント	登録番号	建01第843号			作成日
法適合確認結果等: 構造関係規定に適合することを確認した			法適合確認結果等: 設備関係規定に適合することを確認した		
構造設計一級建築士第5840号 渡邊 明宏			設備設計一級建築士第2304号 是永 恒久		

階	符号	G1	G1A	G1B	G2	G2A	G3	G4	G5	G6	G6A				
PHFL	位置														
	断面														
	上端筋	4 - D25													
	下端筋	4 - D25													
	STP	2 - D13 @150													
R	位置	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央				
	断面														
	上端筋	6/5 - D25	6/1 - D25	6/5 - D25	6/1 - D25	6/1 - D25	6 - D25	6/3 - D25	6 - D25	6/5 - D25	6/1 - D25	6/5 - D25	6/1 - D25		
	下端筋	6/2 - D25	6/5 - D25	6/2 - D25	6/5 - D25	6 - D25	6 - D25	6 - D25	6 - D25	6 - D25	6 - D25	6 - D25	6 - D25		
	STP	3 - D13 @100		3 - D13 @100		3 - D13 @150		3 - D13 @150		3 - D13 @150		3 - D13 @150			
3	位置	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央		
	断面														
	上端筋	6/6 - D25	6/2 - D25	7/7 - D25	7/2 - D25	7/1 - D25	7 - D25	6/5 - D25	6/1 - D25	6/6 - D25	6/6 - D25	6/6 - D25	6/6 - D25	6/6 - D25	6/6 - D25
	下端筋	6/2 - D25	6/6 - D25	7/2 - D25	7/2 - D25	7 - D25	7 - D25	6 - D25	6 - D25	6 - D25	6 - D25	6 - D25	6 - D25	6 - D25	6 - D25
	STP	4 - D13 @100		3 - D13 @100		3 - D13 @100		3 - D13 @150		3 - D13 @150		3 - D13 @150		3 - D13 @150	
2	位置	端部	中央	端部	中央			端部	中央	端部	中央	端部	中央		
	断面														
	上端筋	6/6 - D25	6/2 - D25	6/6 - D25	6/2 - D25			6/6 - D25	6/6 - D25	6/6 - D25	6/2 - D25	6/6 - D25	6/2 - D25		
	下端筋	6/2 - D25	6/6 - D25	6/2 - D25	6/6 - D25			6 - D25	6 - D25	6 - D25	6 - D25	6 - D25	6 - D25		
	STP	4 - D13 @100		4 - D13 @100				3 - D13 @100		3 - D13 @100		3 - D13 @100			

設計番号	04584-010	工事名称	新発田地域広域事務組合 新庁舎建設工事(建築)	種別	S-022
図面名	庁舎棟 大梁リスト(1)				
一級建築士事務所	登録番号 東京都第1033号	経緯	一級建築士第267567号 河田 健	縮尺	A1:1/40 A3:1/80
建設コンサルタント	登録番号 建01第843号	経緯	一級建築士第2304号 是永 恒久	図章	通し番号
法適合確認結果等	構造関係規定に適合することを確認した		法適合確認結果等	設備関係規定に適合することを確認した	
構造設計一級建築士第5840号 渡邊 宏宏	設備設計一級建築士第2304号 是永 恒久		作成日		



大梁リスト-2 1:40

特記なき限り下記による

- 鉄筋：D10・D13 (SD295A), D25 (SD345), S13 (KSS785)
- 幅止め筋：D10@1000以内
- 梁主筋：1段筋/2段筋-鉄筋径

階	符号	G11	G12	G12A	G13	G15
PHFL	位置					全断面
	断面					
	上端筋					4 - D25
	下端筋					4 - D25
	STP					2 - D13 @150
	腹筋					4-D10
R	位置	全断面				
	断面					
	上端筋	7/6 - D25				
	下端筋	7 - D25				
	STP	4 - D13 @100				
	腹筋	4-D10				
3	位置	全断面	全断面		全断面	
	断面					
	上端筋	7/7 - D25	8/7 - D25		7/7 - D25	
	下端筋	7 - D25	7 - D25		7 - D25	
	STP	4 - D13 @100	3 - S13 @100		3 - S13 @100	
	腹筋	4-D10	4-D10		4-D10	
2	位置	全断面	全断面	端部	中央	全断面
	断面					
	上端筋	7/7 - D25	7/7 - D25	8/7 - D25	8/2 - D25	7/7 - D25
	下端筋	7 - D25	7 - D25	7/2 - D25	7/2 - D25	7 - D25
	STP	5 - D13 @100	5 - D13 @100	5 - D13 @100		5 - D13 @100
	腹筋	4-D10	4-D10	4-D10		4-D10

スラブリスト

特記外

- バー型スペーサーを使用すること。
- 土間コンクリート下は十分に締固めを行うこと。

符号	スラブ厚	位置	短辺方向 (主筋)		長辺方向 (配力筋)		備考
			端部	中央	端部	中央	
S15	150	上	D13@200		D10・D13@200		モチアミ配筋
		下	D10・D13@200		D10・D13@200		
S15A	150	上	D13@100		D10・D13@200		モチアミ配筋
		下	D10・D13@200		D10・D13@200		
S15B	150	上	D13@100		D13@200		モチアミ配筋
		下	D13@200		D13@200		
S18	180	上	D13@100		D10@100		モチアミ配筋
		下	D10@100		D10・D13@200		
S20	200	上	D13@200		D10・D13@200		モチアミ配筋
		下	D10・D13@200		D10・D13@200		
CS15	150	上	D13@150		D10@150		片持ち配筋
		下	D10@150		D10@150		
CS18	180	上	D13@100		D10@200		片持ち配筋
		下	D10@200		D10@200		
CS25	250~150	上	D13@100		D10@200		片持ち配筋
		下	D10@100		D10@200		スラブ厚 元端250mm、先端150mm

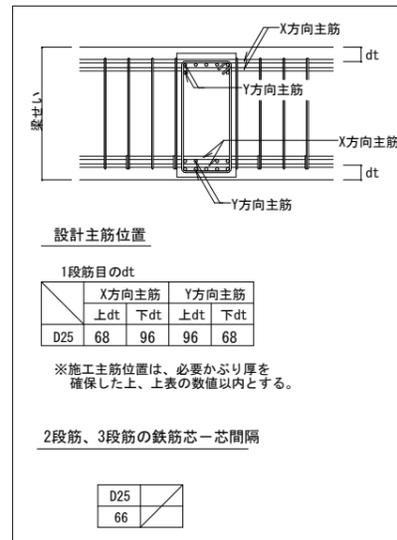
小梁リスト 1:40

特記なき限り下記による

- 鉄筋：D10・D13 (SD295A), D22 (SD345)
- 幅止め筋：D10@1000以内
- 梁主筋：1段筋/2段筋-鉄筋径

符号	B60		B70		B80		B90	
	端部	中央	端部	中央	端部	中央	端部	中央
断面								
上端筋	3/3 - D19	3 - D19	4/4 - D22	4 - D22	5/5 - D22	5 - D22	5/5 - D25	5 - D25
下端筋	3 - D19	3/3 - D19	4 - D22	4/4 - D22	5 - D22	5/5 - D22	5 - D25	5/5 - D25
STP	2 - D10 @200		2 - D13 @200		2 - D13 @200		2 - D13 @100	
腹筋	2-D10		2-D10		2-D10		4-D10	

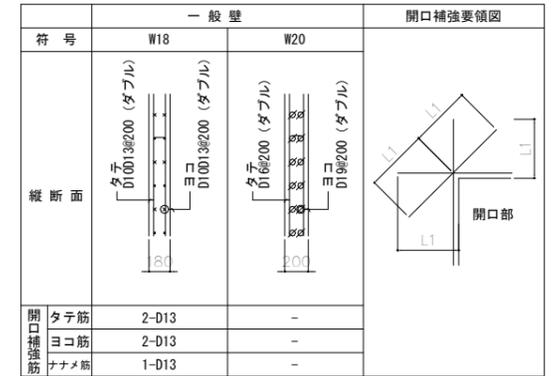
大梁主筋位置



壁リスト 1:30

特記外

- 巾止め筋：D10@1000以内とする。
- D10~D19は重ね継手とし、D22はガス圧継手とする。



場所打ち一体式PC工事特記仕様書

1. 総 則

適用範囲	本仕様書は、本工事のうち、場所打ち一体式プレストレストコンクリート（PC）、プレストレスト鉄筋コンクリート（PRC）造（以下、PC と総称）について適用する。 本仕様書または設計図書に指示されていない事項は下記によること。また、これらに指示されていない事項は、監督職員の指示による。 ・建築基準法、同施行令 ・国総研・建築研究所監修 「プレストレストコンクリート造技術解説及び設計・計算例」（2009年版） ・日本建築学会 「プレストレストコンクリート設計施工規準・同解説」（2022年版） ・日本建築学会 「プレストレスト鉄筋コンクリート（Ⅲ種PC）構造設計・施工指針・同解説」（2003年版） ・日本建築学会 「建築工事標準仕様書・同解説 JASS5 鉄筋コンクリート工事」（2018年版）
構造方式	本構造の方式は、鉄筋コンクリート（以下、RC）部材にPC鋼材を組み合わせた場所打ち一体式PC造である。
プレストレス導入方式	プレストレス導入はポストテンション方式であり、その方式については“6. 緊張”の項に示す。
PC工事施工業者	PC工事の施工については、下記専業社のうち、一社の責任施工とする。 オリエンタル白石株式会社、株式会社 建研、株式会社 ビーエス三菱 ただし、施工の範囲は、PC鋼材の配置、緊張、グラウトまでの材工一式とする。
施工計画	施工の順序・方法・工程などの施工計画は工事着手前によく検討し、その計画書を監督職員に提出して承諾を受ける。

2. 材 料

鉄 筋	鉄筋は、JIS G 3112（鉄筋コンクリート用棒鋼）の規格に適合するものを使用する。
PC鋼材	PC鋼材は、JIS G 3536（PC鋼線及びPC鋼より線）またはJIS G 3109（PC鋼棒）に適合し、有害な傷の無いものを使用しなければならない。
セメント	1) セメントは、JIS R 5210（ポルトランドセメント）に規定する普通ポルトランドセメントを原則とする。 2) その他のセメントを使用する場合は、監督職員の指示を受けること。
混和材料	コンクリート中に表面活性剤等の混和材料を用いる場合は、その品質、使用量について監督職員の指示を受けること。

3. 型 枠

組立て・取外し	1) コンクリートは、打込みの際にセメントペーストが漏れることのないように留意すること。 2) 柱・梁等の型枠については、十分な耐力を持つように留意しなければならない。 3) PC造部分の型枠組立て順序については、PC鋼材の配置に影響されて決定することが多いので注意しなければならない。 4) 型枠の締付けは、フォームタイ、及びボルト等により、十分強固にしなければならない。 5) PC定着具が取り付く柱型枠の締め付け金物、バタ角、単管等は、PC鋼材位置を避けて配置する。 6) 事前にセパレーターの配置計画を行い、PC鋼材（シース）に当たらないようにする。 7) PC造部分の支保工は、横つなぎ・筋交い等を十分に入れ、横力に対して安全な構造としなければならない。 8) 型枠存置期間は、JASS5によるものとする。
---------	---

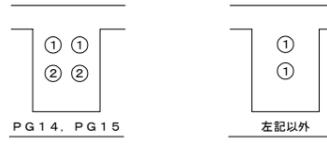
4. 配筋・配線

鉄 筋	1) 鉄筋は正確に配置し、コンクリート打設の際にくずれぬよう、強固に組み立てなければならない。 2) 小梁下端筋やスラブ筋とPC鋼材が交錯する場合は、PC鋼材を優先とする。
PC鋼材	1) PC鋼材（シース）は、支持金物等により、正確かつ強固に取り付けること。 2) 梁端の定着具は、型枠の内面に正確かつ強固に取り付けること。 3) PC鋼材を露天に放置して、錆等で損傷させてはならない。 4) グラウト用孔、及び排気孔は、十分に注意して取り扱い、コンクリート打設時に損傷することのないよう細心の注意をする。 5) PC鋼材の加工・組み立てを行なう場合、加熱または溶接を行なってはならない。 6) PC鋼材定着具の露出部分は、プレストレス導入後すみやかにモルタル等で完全に保護しなければならない。 7) PC鋼材の配置後、コンクリート打設に先立ち、監督職員の検査を受けなければならない。

5. コンクリート

品 質	1) コンクリートの品質は、下記とする。 設計基準強度 30 N/mm ² プレストレス導入時強度 27 N/mm ² 2) コンクリート強度試験用供試体の採取、及び養生は下記による。 この供試体はプレストレス導入時強度確認用として、別途採取すること。 ただし、他の供試体で強度を確認できた場合は、試験を省略することができる。
打 設	1) PC鋼材、鉄筋、型枠、及び定着具が、移動したり損傷したりしないよう注意する。 2) PC鋼材のシース内には、セメントペーストが入ってはならない。 3) シースには、バイブレーターが直接触れないように細心の注意を払うこと。 4) PC鋼材定着部の割製補強筋は、コンクリート打設前に完全に配置しなければならない。 5) コンクリートの打込みは、打設場所にてできる限り近づけて垂直に打ち込み、“片押し打ち”は避けなければならない。 6) 原則として、PC造部分におけるコンクリートの打継ぎは、行なってはならない。ただし、やむを得ない場合は打ち継ぎ位置について監督職員と協議の上、レイタンス処理など十分に行った後、コンクリート打設を行うこと。 7) PC造部分以外に低強度のコンクリートを打設する際は、そのコンクリートがPC造部分内にこぼれないよう留意する。

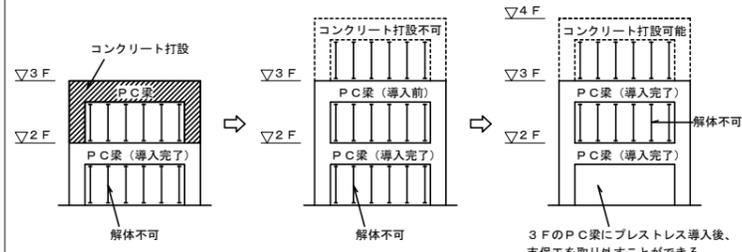
6. 緊 張

準 備	緊張装置は、事前にキャリブレーションを行ない、常に正常な状態にあるよう管理し、コンクリートが所定の強度（プレストレス導入時強度）に達したことを確認のうえ、監督職員の指示によりプレストレス導入作業を行なうこと。										
順 序	1) プレストレス導入順序は、PC梁に対して局部的に完了せず、構造全体にわたって進めなければならない。 原則として、下記の要領でプレストレスを導入すること。 最初に各通り①を緊張（片引き） 次に、各通り②を緊張（片引き） 緊張方向はKEYPLAN参照。 										
緊 張 力	2) 多層の建築物において、特記なき限り、PC梁は直上階のコンクリート打設前にプレストレスを導入すること。 1) 現場におけるPC鋼材の施工時緊張力は、下記による。 <table border="1" data-bbox="1276 1218 1780 1344"> <tr> <th>呼 び 名</th> <th>施工時緊張力</th> </tr> <tr> <td>7-φ15.2 SWPR7BL</td> <td>1,274 kN</td> </tr> <tr> <td>_____</td> <td>_____</td> </tr> <tr> <td>_____</td> <td>_____</td> </tr> <tr> <td>_____</td> <td>_____</td> </tr> </table> 2) 緊張の管理は、緊張装置の圧力計（マノメーター）、及び事前に計算によって求めたPC鋼材の伸び量とによって入念に行なうこと。	呼 び 名	施工時緊張力	7-φ15.2 SWPR7BL	1,274 kN	_____	_____	_____	_____	_____	_____
呼 び 名	施工時緊張力										
7-φ15.2 SWPR7BL	1,274 kN										
_____	_____										
_____	_____										
_____	_____										

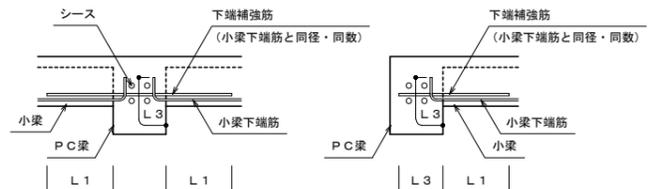
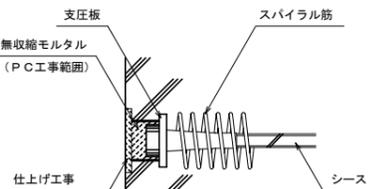
7. グラウト

調 合	1) グラウトの使用材料は、超低粘性プレミックスタイプ（太平洋ハイジェクター又は、同等品）とし、4週圧縮強度は30N/mm ² 以上とする。 2) 水粉体比は、メーカー推奨範囲とし、メーカーの示す目標コンシステンシーを確保すること。 (調合例：温度20℃の場合) ・水 45.0 kg ・ハイジェクター（プレミックスタイプ） 125.0 kg 3) その他の材料を使用する場合は、監督職員と協議のうえ、決定すること。
作 業	グラウト作業は、下記の要領で行なうこと。 1) 排出口から一様なグラウトが排出されるまで、注入口よりグラウト注入を続ける。 2) 排出口から一様なグラウトが排出されたのを確認した後に排出口を閉じ、グラウトポンプの圧力がある程度上げて注入口を閉じる。 3) グラウトが凍結する恐れのある時期は、原則として作業を行なわない。

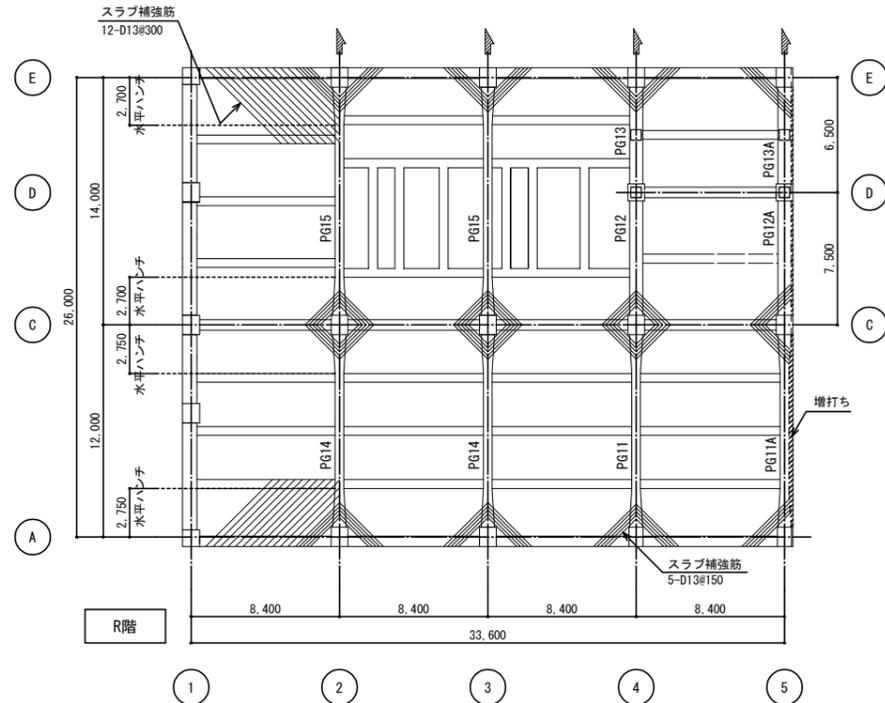
8. 支 保 工

計 画	PC梁は、通常の梁に比べて負担重量が大きいので、変形、耐力等を十分に検討し計画すること。
取 外 し	1) PC梁の支保工取り外しは、監督職員の承諾を得て行なうが、プレストレスの導入が完了するまでは絶対に取り外さないこと。 2) 多層の建築物では、原則として、必ず2層分の支保工を使用し、コンクリート打設荷重をプレストレス導入が完了している2梁で支持すること。（下図参照） 

9. そ の 他

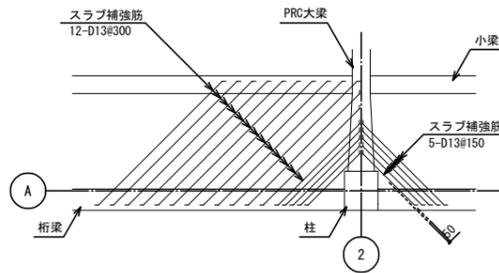
小 梁 配 筋	PC梁に直交する小梁について、下端筋がシースにあたる場合は、原則として下図のように配筋すること。 
スラブ 開口	スラブ補強筋配置位置には、原則としてスラブ開口を設けないこと。
PC梁 貫通孔	1) PC梁に貫通孔を設ける場合には、事前に監督職員と協議の上、計画すること。なお、梁貫通孔断面ではPC規準にない検討を行い、貫通孔補強筋を適宜配置すること。 2) 貫通孔補強筋に既製品を使用する場合は、第三者機関による技術評価を取得したPC造に適用可能な補強工法を使用すること。 例) ダイアレンPC工法（コーヨー建機株式会社）
定着端部の処理	PC鋼材定着具の穴埋めについて、工事範囲は下記の通りとする。 



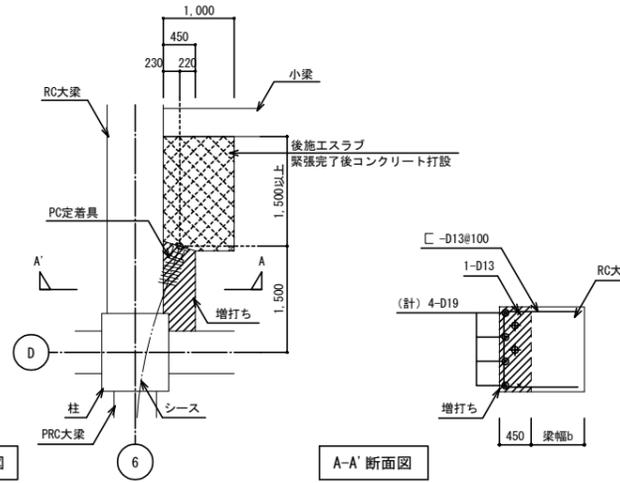


スラブ補強筋要領図 1/100

注) ・スラブ補強筋は、L2定着とする。

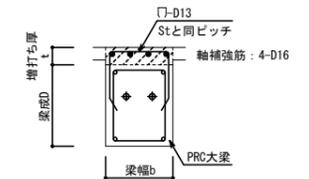


平面図



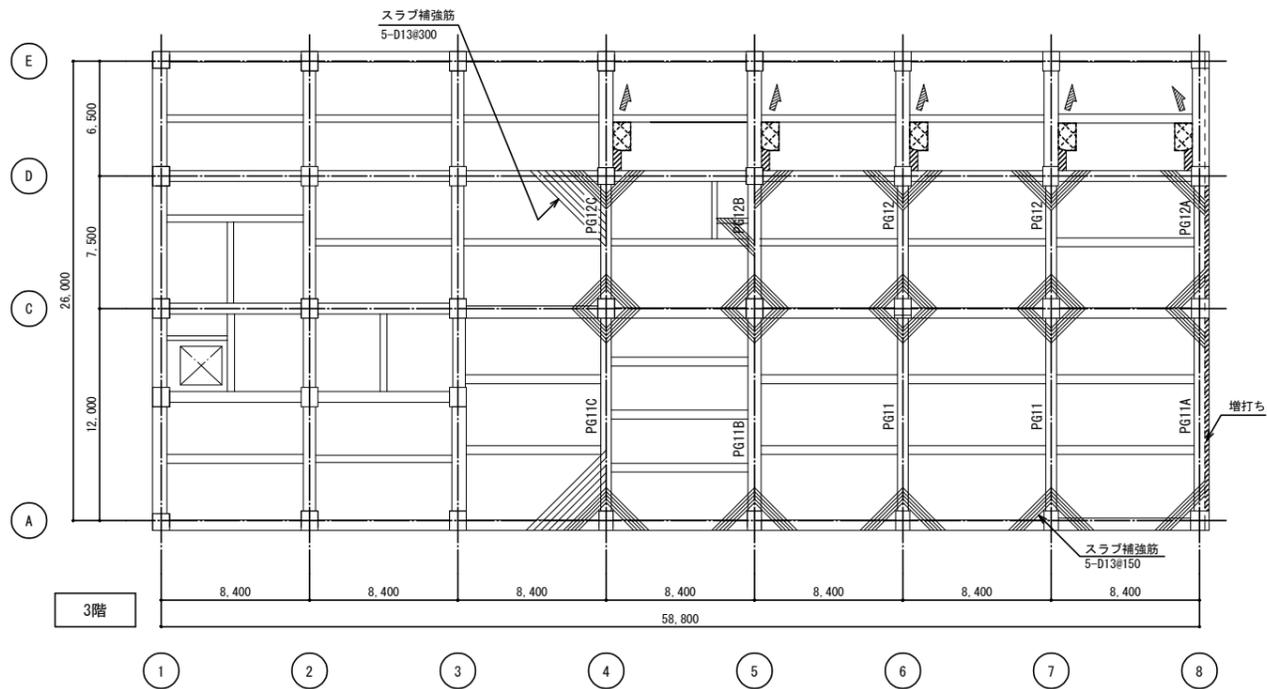
梁側面増打ち筋要領図

注) ・3階 4~8通りは上記要領で緊張 (8通りのみ部屋内側からの緊張) とすること。



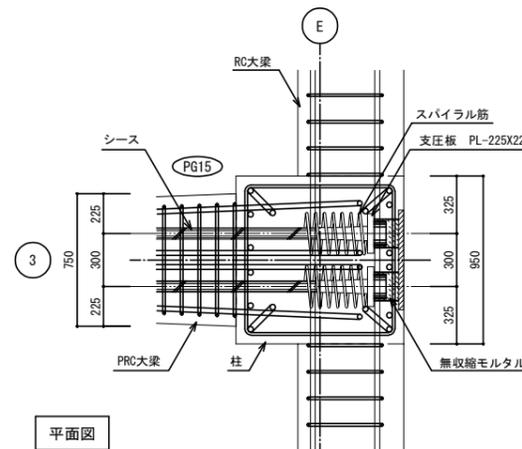
PRC梁上端増打ち筋要領図

注) ・PRC大梁上端にt=70以上の増打ちを設ける場合上記要領で配筋すること。

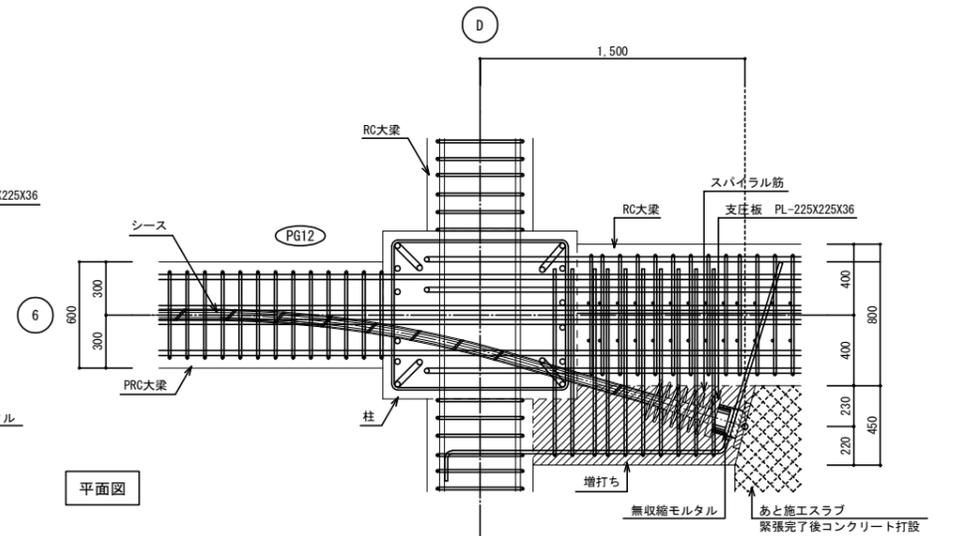


KEY PLAN 1/200

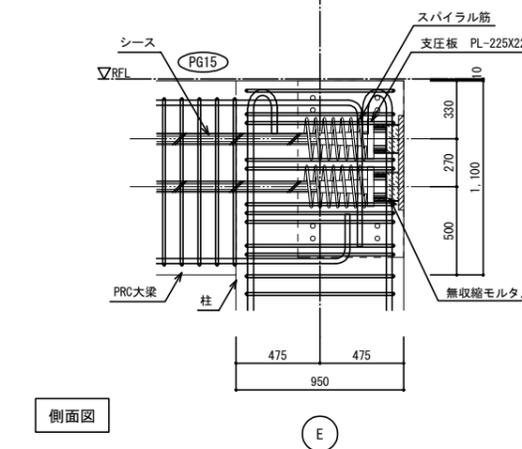
注) ・ は緊張端を示す。
・ は、後施工スラブ範囲を示す。緊張完了後コンクリート打設すること。



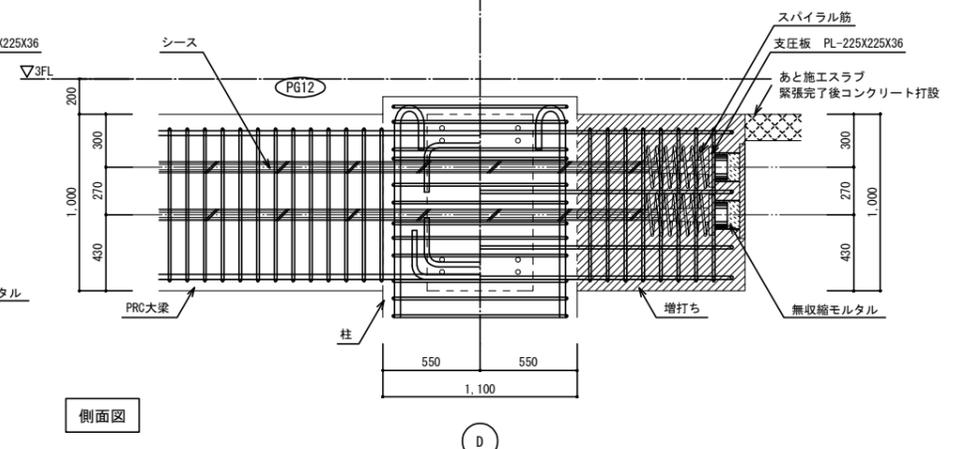
平面図



平面図



側面図



側面図

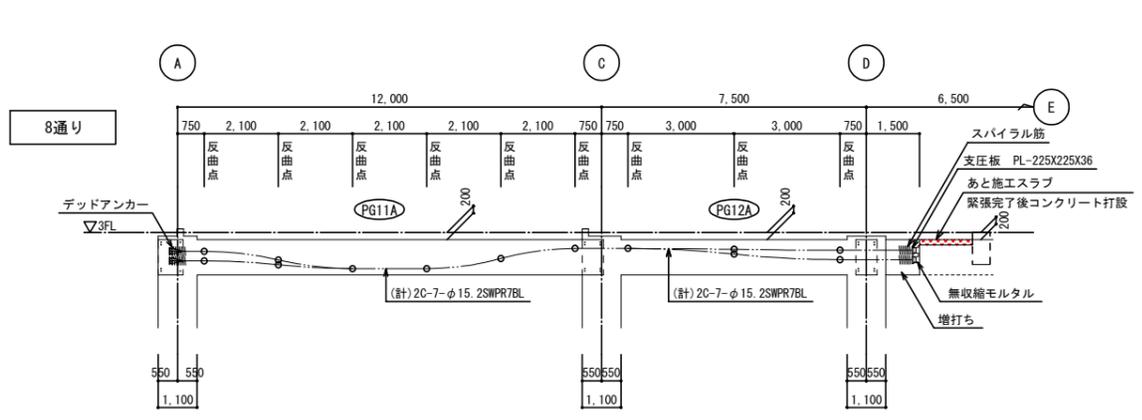
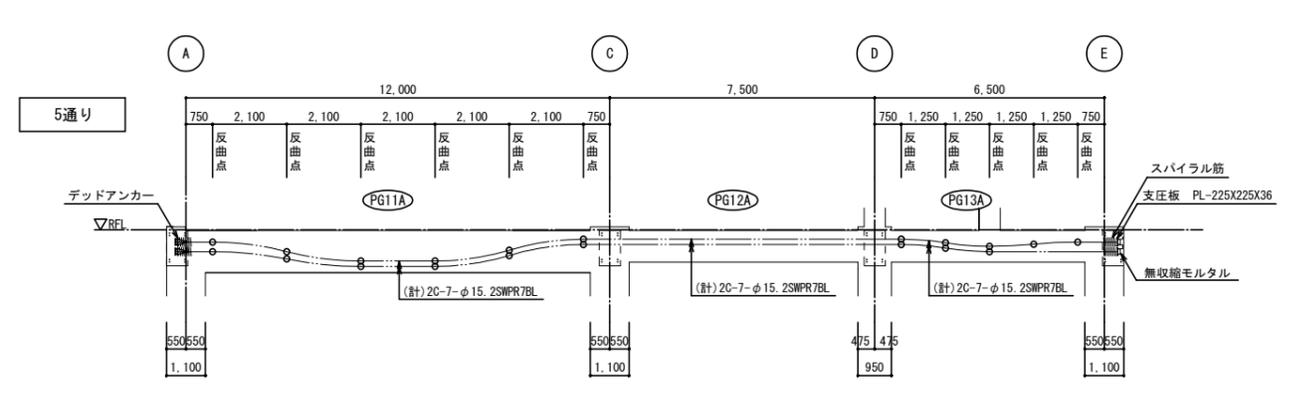
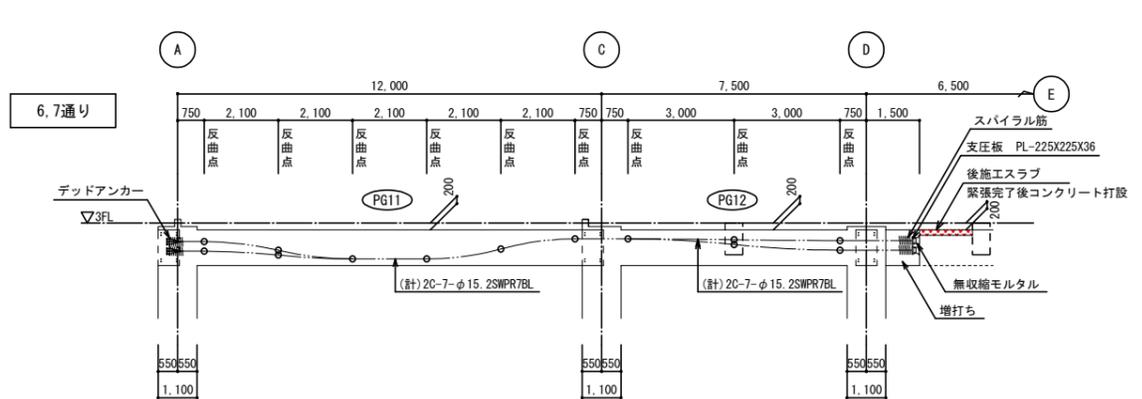
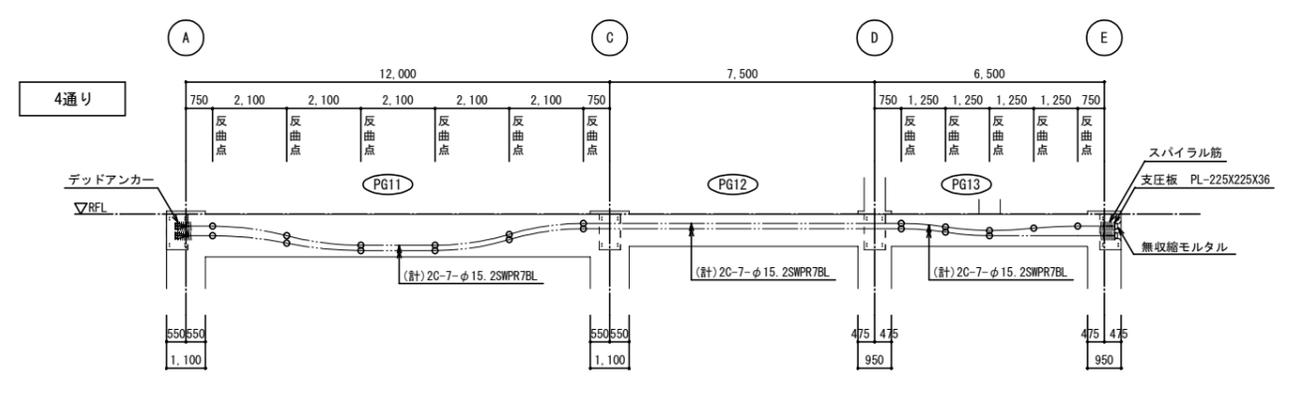
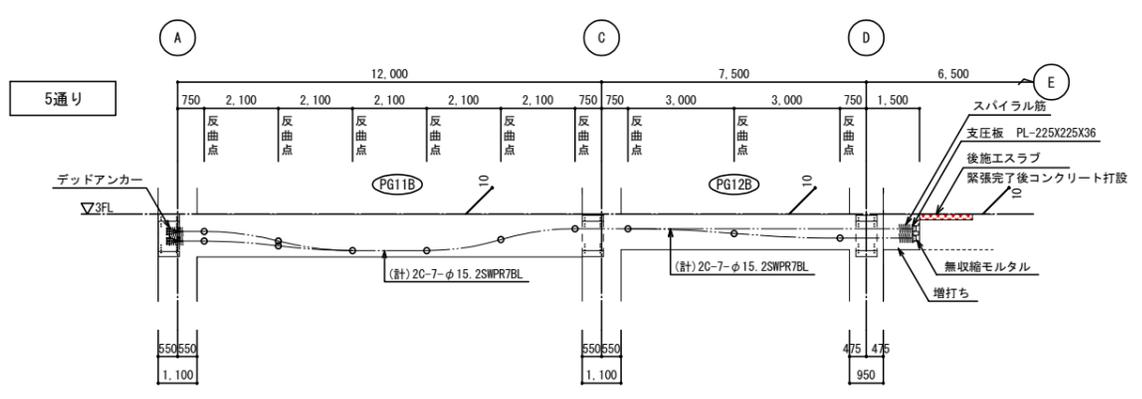
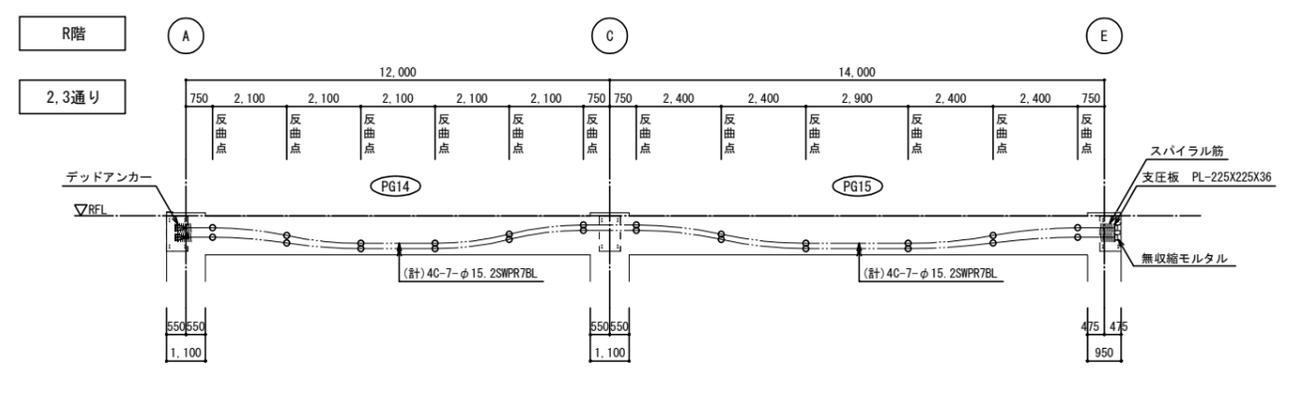
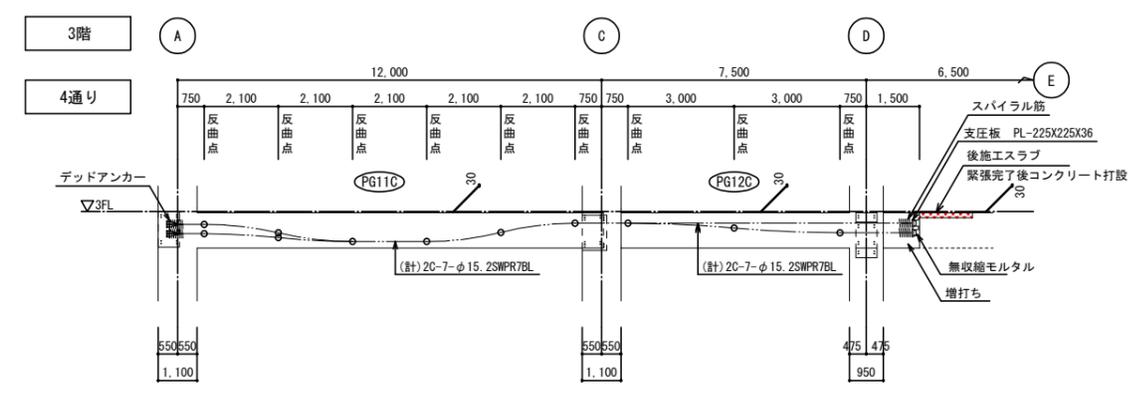
定着具納まり要領図 1/20

注) ・配筋は、各リスト参照のこと。
・柱主筋は、定着具及びスライスの位置を避けて配筋すること。

注) ・巾止め筋は、RC大梁に準ずる。
 ・PC鋼材の水平方向位置は納まりを考慮し変更可能とする。
 ・※印で示す寸法は、施工図にて確認すること。

符号	PG11, PG11A, PG11C			PG12, PG12A, PG12C			PG13, PG13A		
	A端	中央	C端	C端	中央	D端	D端	中央	E端
R階									
PC鋼材	2C-7-φ15, 2SNPR7BL			2C-7-φ15, 2SNPR7BL			2C-7-φ15, 2SNPR7BL		
上端筋	4-D25	4-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	4-D25	4-D25
下端筋	4-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	4-D25
スターラップ	□-D13#100	□-D13#150	□-D13#100	□-D13#100			□-D13#100		
腹筋	6-D13			4-D13			4-D13		
位置	A端	中央	C端	C端	中央	D端	/		
3階									
PC鋼材	2C-7-φ15, 2SNPR7BL			2C-7-φ15, 2SNPR7BL					
上端筋	4-D25	4-D25	5-D25	5-D25	4-D25	4-D25			
下端筋	4-D25	5-D25	5-D25	5-D25	4-D25	4-D25			
スターラップ	□-D13#100	□-D13#150	□-D13#100	□-D13#100					
腹筋	4-D13			4-D13					

符号	PG11B			PG12B			PG14			PG15									
	A端	中央	C端	C端	中央	D端	A端	中央	C端	C端	中央	E端							
R階	/			/			/												
PC鋼材										4C-7-φ15, 2SNPR7BL						4C-7-φ15, 2SNPR7BL			
上端筋										4-D25	4-D25	5-D25	5-D25	4-D25	4-D25	5-D25	5-D25	4-D25	4-D25
下端筋										4-D25	5-D25	5-D25	5-D25	4-D25	4-D25	5-D25	5-D25	5-D25	4-D25
スターラップ										□-D13#100			□-D13#150			□-D13#100			□-D13#100
腹筋	4-D13			4-D13			4-D13												
位置	A端	中央	C端	C端	中央	D端	/												
3階																			
PC鋼材	2C-7-φ15, 2SNPR7BL			2C-7-φ15, 2SNPR7BL															
上端筋	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	4-D25	4-D25													
下端筋	5-D25	5-D25	5-D25	5-D25	4-D25	4-D25													
スターラップ	□-D13#100	□-D13#150	□-D13#100	□-D13#100															
腹筋	6-D13			4-D13															

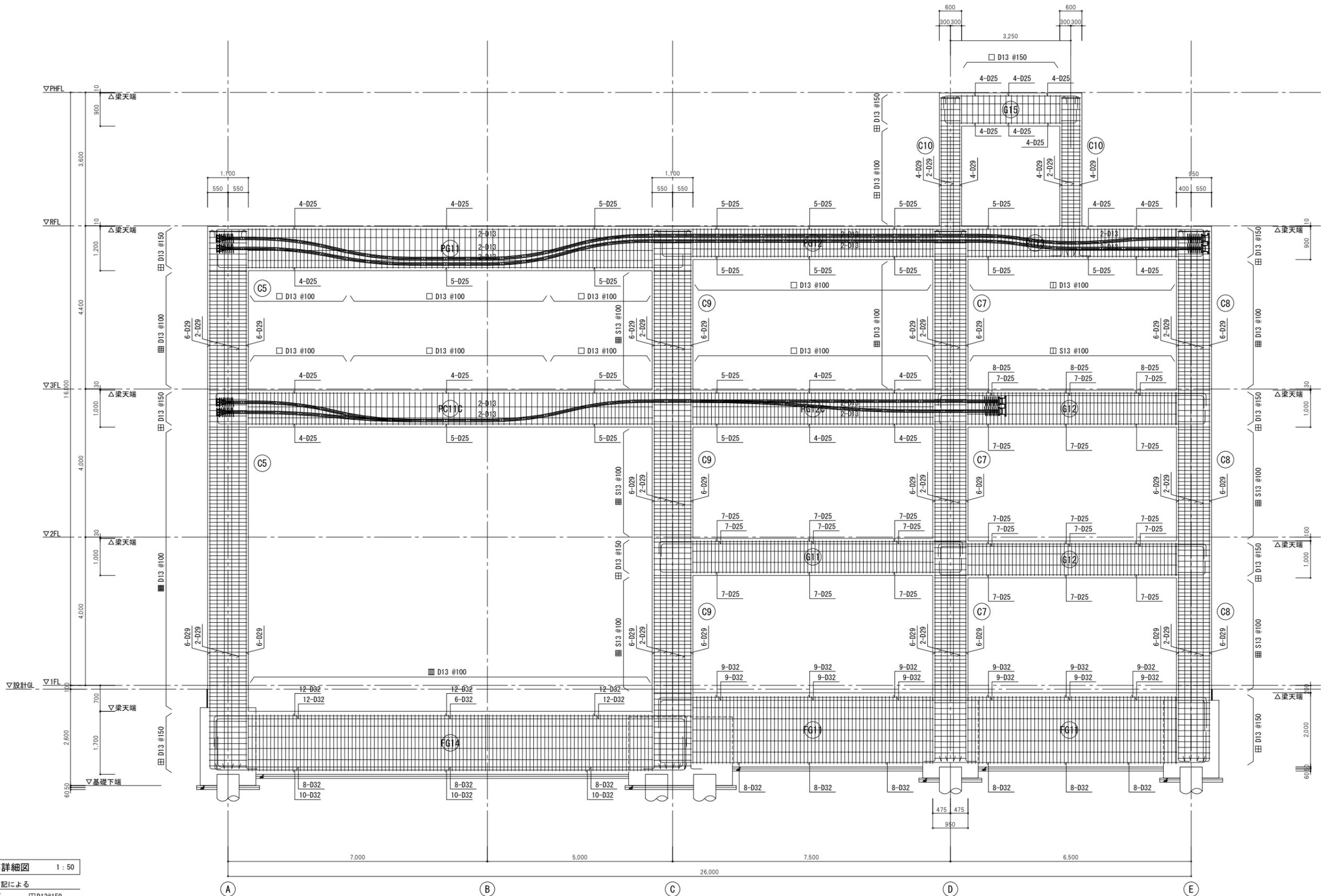


PRC大梁配線図 1/100

注) ・巾止め筋は、RC大梁に準ずる。

設計番号 04684-010		工事名称 新発田広域事務組合 新庁舎建設工事(建築)		図号 S-027
設計者 行幸様		プレストレストコンクリート梁リスト・詳細図 (3)		縮尺 A1:1/100 A3:1/200
一般建築士事務所 登録番号 東京都第1033号	建築士 河田 健	一般建築士事務所 登録番号 東京都第267567号	建築士 河田 健	作成日
建築士事務所 登録番号 東京都第843号	建築士 渡邊 朋宏	建築士事務所 登録番号 東京都第2304号	建築士 星永 恒久	作成日

AXS 佐藤総合計画 + 巧設計



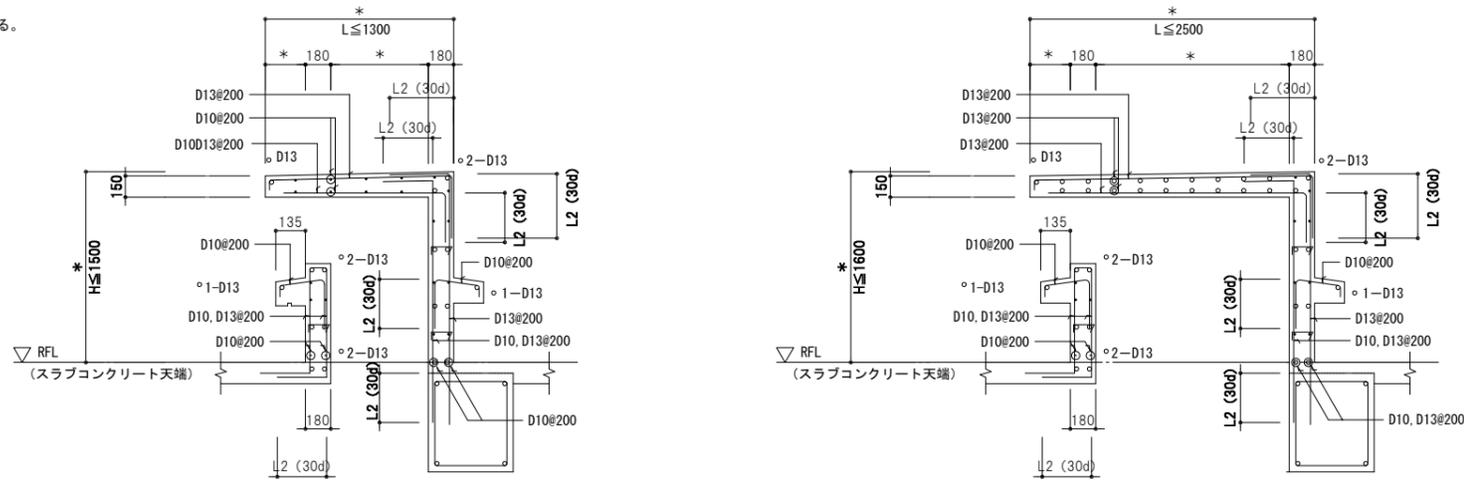
4通り配筋詳細図 1:50

- 特記なき限り下記による
- 1. 仕口内フープ 田 D13@150
 - 2. フープ 罫 S13@100
 - 3. スターラップ 罫 D13@100
 - 4. 腹筋 2-D10

AXS 佐藤総合計画 + 巧設計

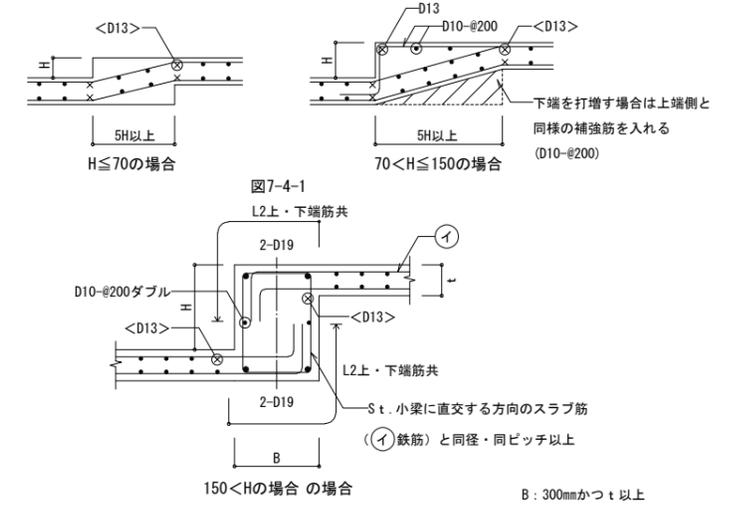
設計番号	04584-010	工事名称	新発田地域広域事務組合 新庁舎建設工事 (建築)	種別	S-028
図面名	庁舎棟 架構配筋詳細図			縮尺	A1:1/50 A3:1/100
一級建築士事務所	登録番号 東京都第1033号	経理	一級建築士第267567号 河田 健	担当	通し番号
建設コンサルタント	登録番号 建01第843号	監理	一級建築士第267567号 河田 健	作成日	
法適合確認結果等	構造関係規定に適合することを確認した	法適合確認結果等	設備関係規定に適合することを確認した	作成日	
構造設計一級建築士第5840号	渡邊 朋宏	設備設計一級建築士第2304号	是永 恒久		

*印は 意匠図による。



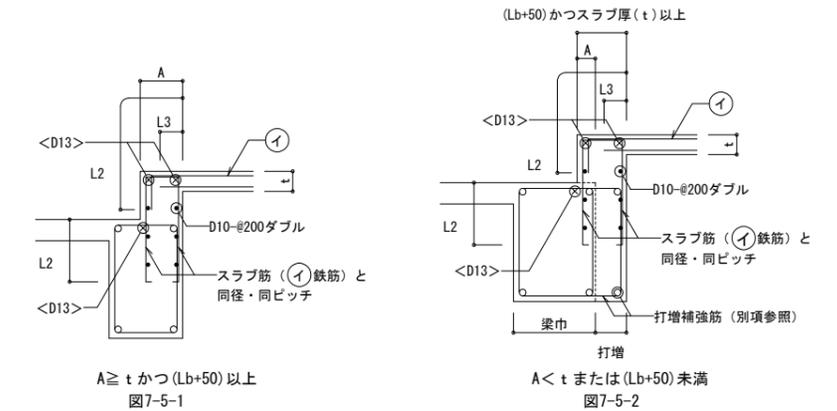
1) 段差のある床版

- ・ 段差 (H) が150mm以下の場合図7-4-1による。
- ・ 段差 (H) が150mmを超える場合は小梁を設ける。小梁断面は図示のない場合は図7-4-2による (監督社員の確認を得る)。



注) 小梁断面の図示が無く図7-4-2を適用する場合、小梁への定着長さは上・下端筋L2とする。

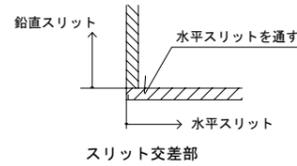
2) 両側の床版に高低差がある場合



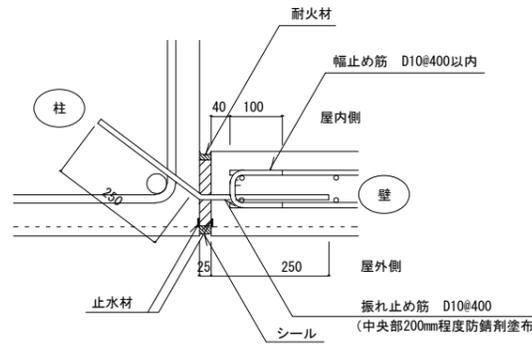
構造スリット

1) 共通事項

- ・ スリット幅は、設計時の層間変形を考慮して定める。
- ・ スリット材は、以下の性能について、所定の性能を確保できるものとする。
 - ・ 層間変形追従性能、耐火性能、水密性能、遮音性能
 (「構造スリット施工管理マニュアル」(BCS)による性能試験に合格したスリット材を採用する。)
- ・ 垂直スリットは完全スリット型、水平スリットは完全スリット型とする。
- ・ スリット材の取合い部の施工に関して、事前に関連する業者 (鉄筋、型枠、コンクリート打込み業者) と打合せを行う。

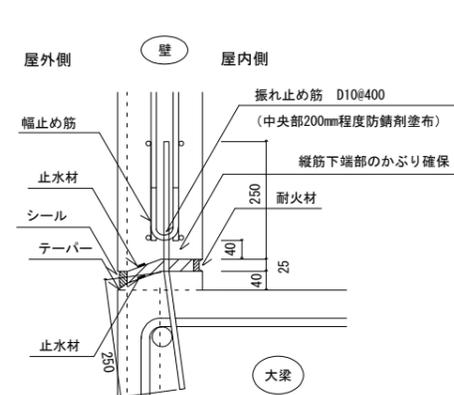


3) 垂直スリット (完全スリット型)



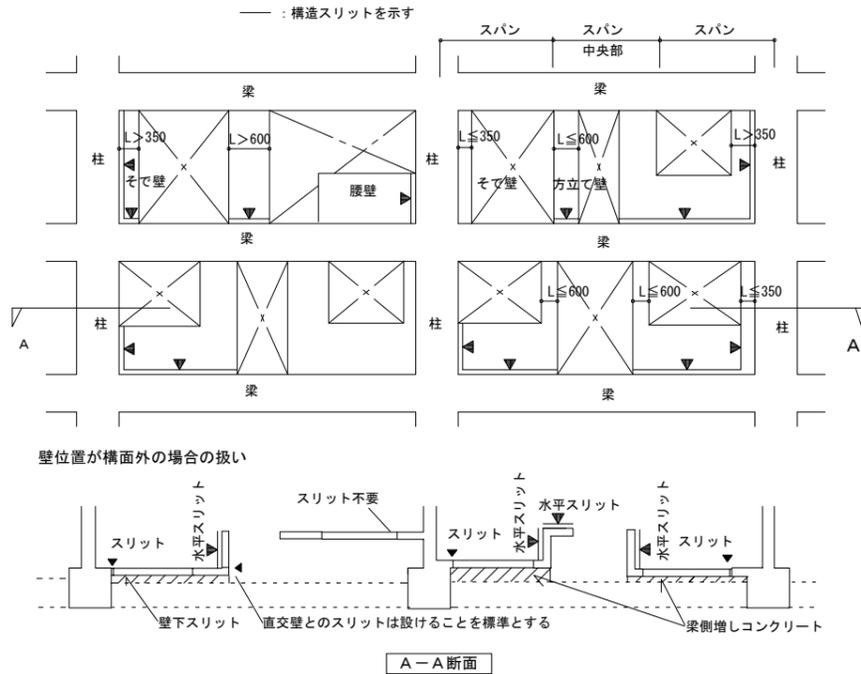
- ・ 直接雨掛りとなる為、止水性の高いタイプを使用する事。
- ・ 垂直スリット部の振れ止め筋の養生材は設けることを標準とする。
- ・ コンクリート打設時の垂直スリット材の曲がり・移動防止のための対策を講じること。

4) 水平スリット (完全スリット型)

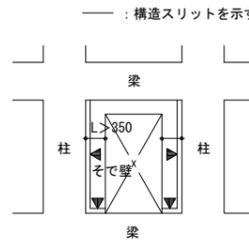


- ・ 直接雨掛りとなる為、止水性の高いタイプを使用する事。
- ・ 水平スリット部の振れ止め筋の養生材は設けることを標準とする。
- ・ 直接雨掛りとならない場合、テーバーは必要ない。

2) 構造スリット配置例

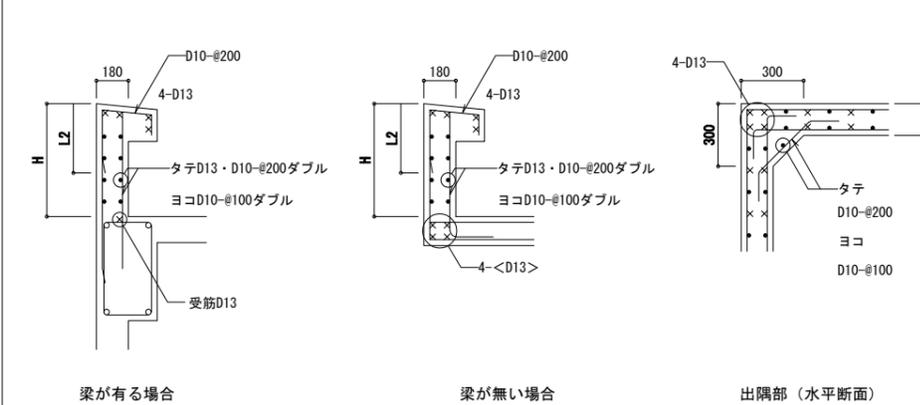


構造スリット配置例



パラペット

パラペット (H ≤ 1200)



設計番号	04584-010	工事名称	新築田地域広域事務組合 新庁舎建設工事 (建築)	種別	S-029	
図面名	庁舎棟 雑配筋詳細図 (1)				縮尺	A3: -
一級建築士事務所	登録番号	東京都第1033号	一級建築士第267567号	河田 健	担当	通し番号
建設コンサルタント	登録番号	建01第843号	一級建築士第267567号	河田 健	作成日	
構造設計一級建築士第5840号	渡邊 朋宏	設計一級建築士第2304号	是永 恒久			

ひび割れ誘発目地要領

- ひび割れ欠損材は、防錆処理（エポキシ塗装もしくはメッキ）を施すこと。
- 誘発目地の深さは、屋外側と室内側の目地深さと欠損材の有効径の合計値で算定し、総壁厚 T の20%以上とする。
- 鉄筋のかぶり厚の算定起点は、目地底とする。（図-2）
- 横目地（打継ぎ目地）の深さと屋外側の縦目地（誘発目地）深さは、同一とし、20mmを原則とする。
- 横目地（打継ぎ目地）により、柱に断面欠損を生じさせてはならない。（図-3）
- 図面上の寸法は設計かぶり厚さを示している。
設計かぶり厚さは、コンクリート打設後の出来上り状態で最小かぶり厚を確保するために施工精度誤差を考慮して最小かぶり厚さに10mm加えた値とする。
- 手摺、バラベツト、窓台、片持ちスラブなどの天端及び窓枠部の隅角部に誘発目地を廻すこと。（図-4）
- 手摺壁、垂れ壁の誘発目地は、3mピッチ以内とする。但し、PCaとした場合は除く。

■目地タイプ
Aタイプ Bタイプ Cタイプ Dタイプ Eタイプ

スラブの開口補強要領図

1) 開口が700mm以下の場合

- 開口 ≤ 150 : かぶり30以上
- $150 < \text{開口} \leq 300$: 斜め補強筋 D13 かつスラブ筋と同径以上
- $300 < \text{開口} \leq 700$: 斜め補強筋 D13 かつスラブ筋と同径以上

2) 開口が700mmを超える場合

- 開口周囲に小梁（ ）を設置する。
- 補強筋は特記による。

3) 小開口が連続する場合

- 外接する長方形の最大寸法により、補強を行うこと。
- 開口間には2-D10を入れること。
- 開口間のあきは、原則として100mm以上とする。

4) マンホール補強

- 斜め筋 各1-D13 シングル配筋とし、スラブ上下筋の内側に配筋する。

外壁ひび割れ補強要領図

共通事項

- 斜め補強筋は、上下梁間に渡り配筋する。
- 斜め補強筋の設置方向は、最下階（地上）、一般階は「ハの字」、最上階は「逆ハの字」とする。
- 柱、梁への定着はL2とする。
- 斜め補強筋は、ダブル配筋とする。
- 壁厚180mm未満で、コンクリートの充填性が阻害される恐れがある場合、監督職員と協議の上、溶接金鋼を使用できるものとする。
- ひび割れ補強筋のかぶり厚さを確保すること。

壁開口部補強要領図

壁開口部の補強は縦・横の枠筋及び斜筋にて行う。ただし、壁開口の最大径が両方向の壁主筋間隔以下の場合で開口部を避けて配筋する場合は、補強を省略することができる。

枠筋、斜筋、補強筋の径および本数は構造図による。
※末端部補強筋の径、本数の図示がない場合は、開口補強縦（枠）筋に同じとする。

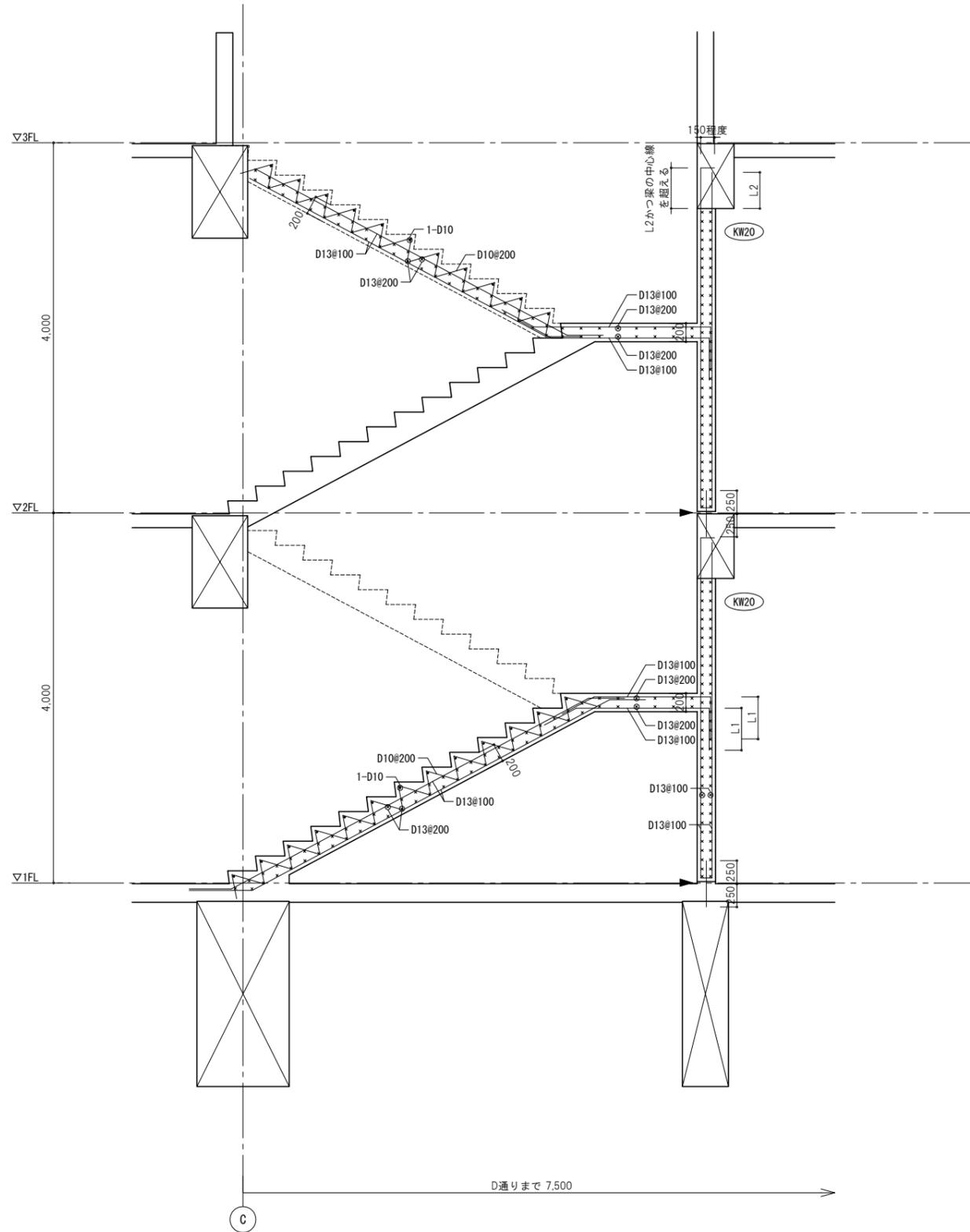
補強筋の名称及びび定着長さ

立ち上がり壁配筋要領図

注) $H \leq 500$ とする

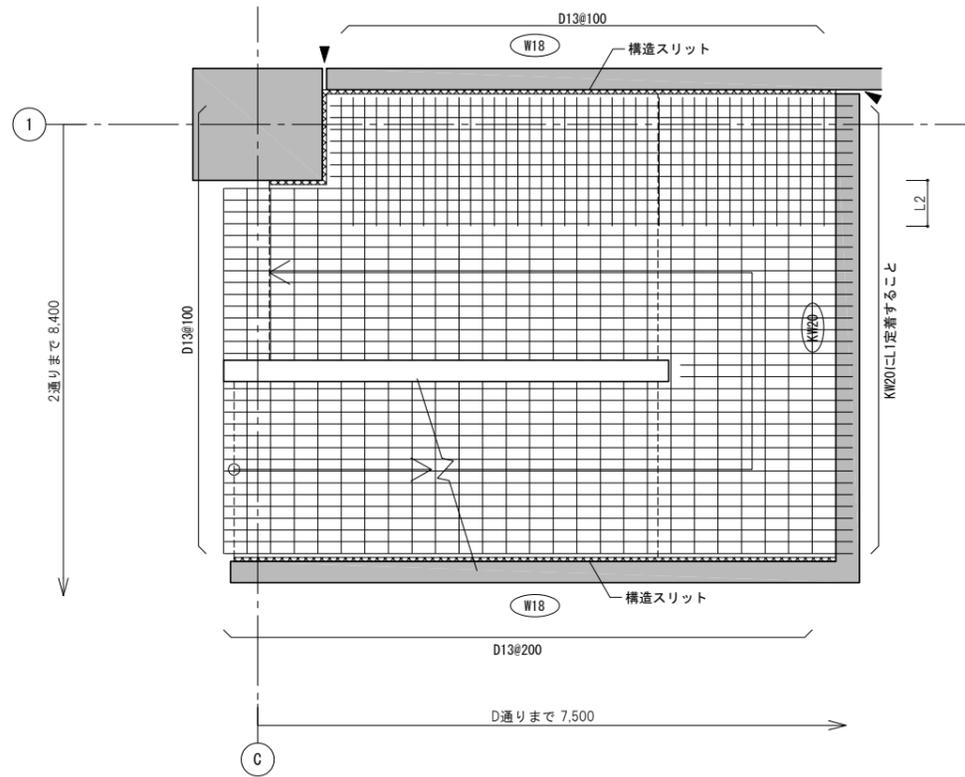
屋根スラブの補強筋要領図

- 範囲は、スラブ筋の1/2間隔配筋とする。
- 又は、スラブ筋上部に溶接金鋼6φ-50x50を配筋すること。



階段(1)要領図(断面)

Key Plan 1/100

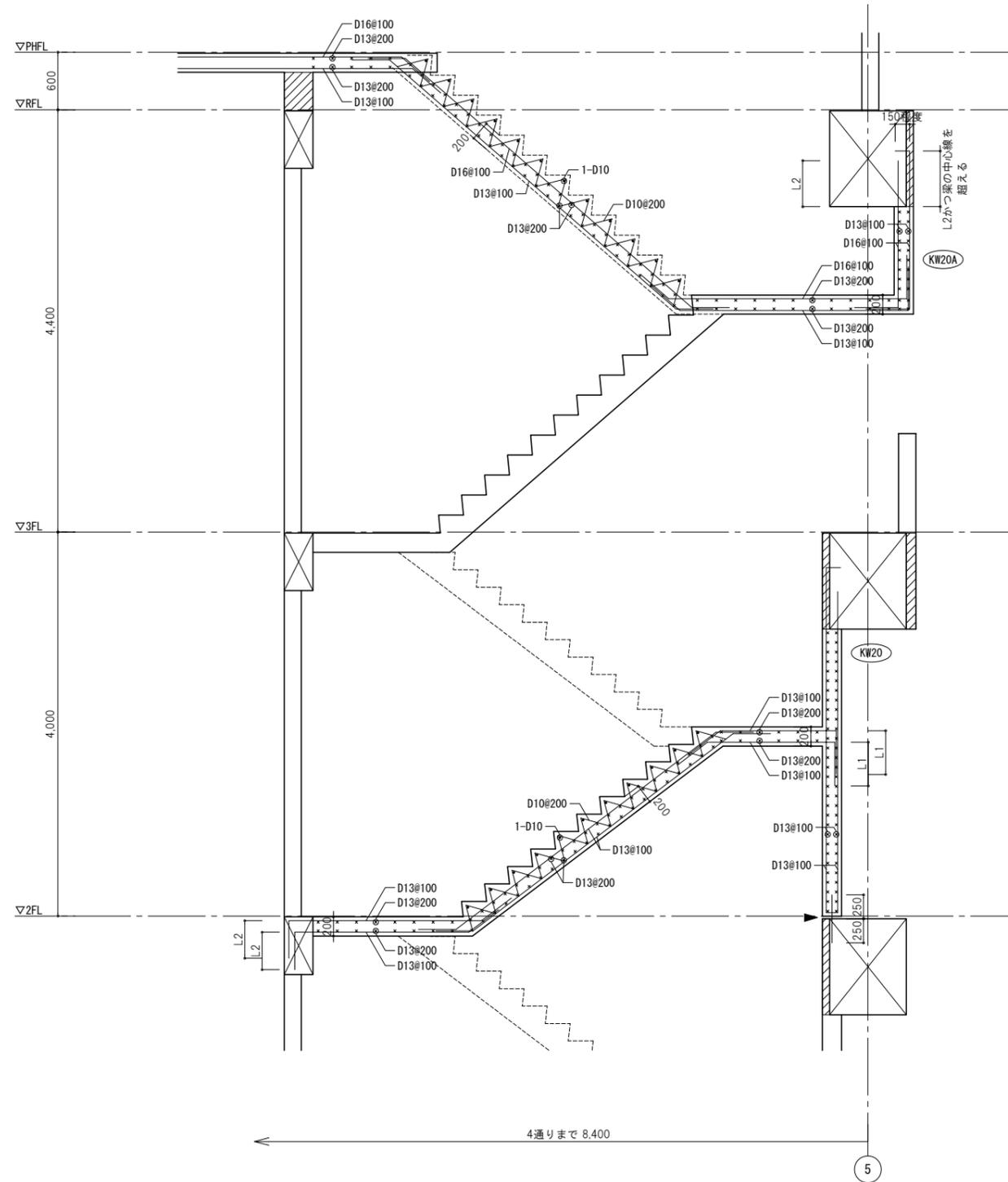


上端筋配筋要領図

特記なき限りは下記による
 ・ ▼ はスリットを示す

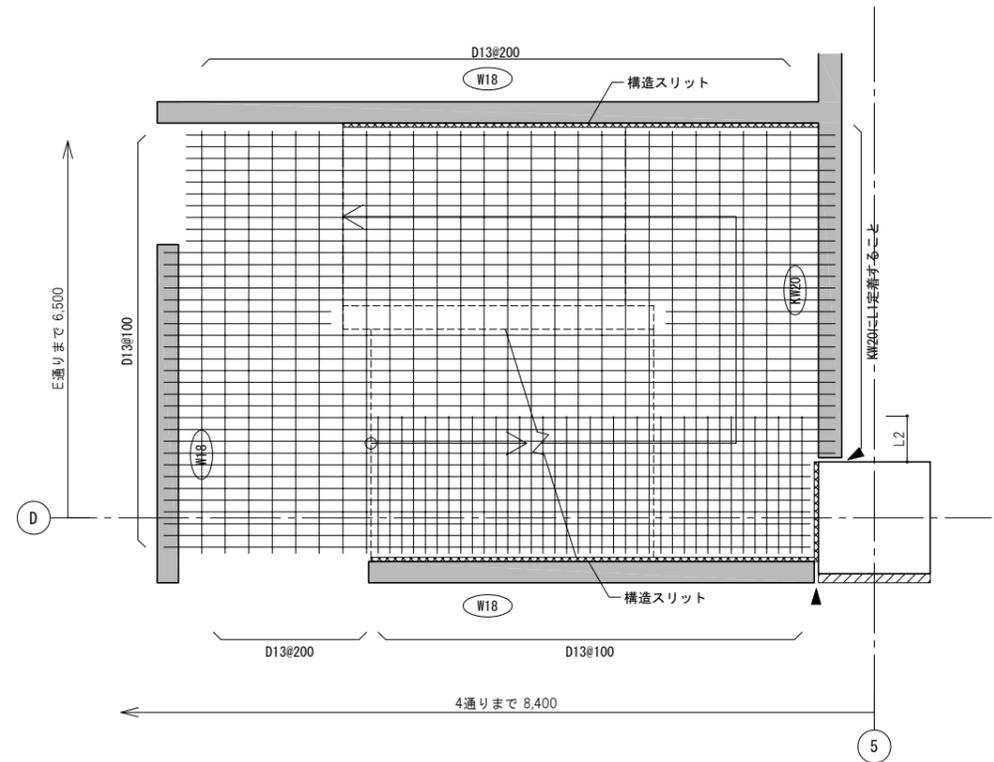
AXS 佐藤総合計画 + 巧設計

設計番号	04584-010	工事名称	新発田地域広域事務組合 新庁舎建設工事 (建築)	種別	S-031	
図面名	庁舎棟 RC階段要領図(1)				縮尺	A1:1/30 A3:1/60
一級建築士事務所	登録番号 東京都第1033号	総務	一級建築士第267567号 河田 健	担当		
建設コンサルタント	登録番号 建01第843号			作成日		
構造設計一級建築士第5840号 渡邊 朋宏		設備設計一級建築士第2304号 是永 恒久				



階段(2)要領図(断面)

Key Plan 1/100

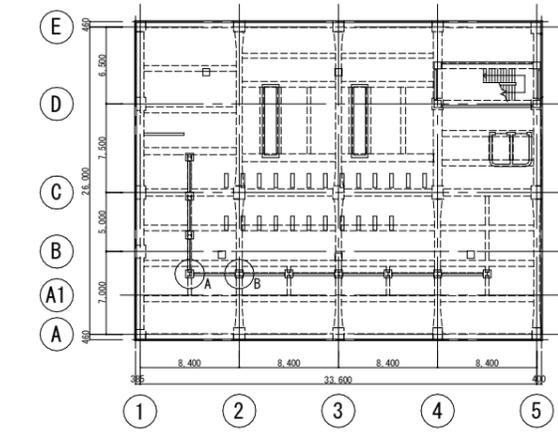


上端筋配筋要領図

特記なき限りは下記による
 ・▼はスリットを示す

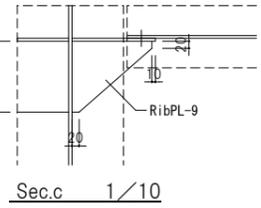
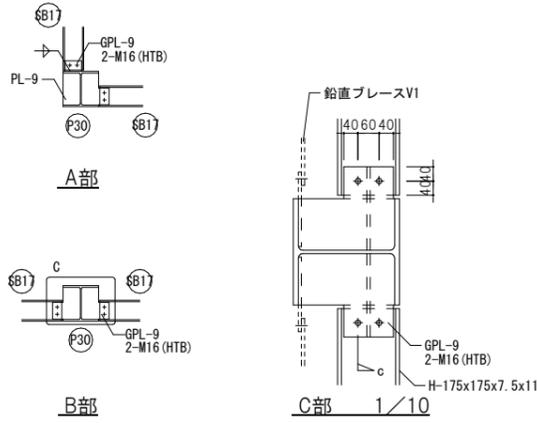
AXS 佐藤総合計画 + 巧設計

設計番号	04584-010	工事名称	新発田地域広域事務組合 新庁舎建設工事(建築)		種別	S-032	
図面名	庁舎様 RC階段要領図(2)					縮尺	A1:1/30 A3:1/60
一級建築士事務所	登録番号	東京都第1033号	総務	一級建築士第267567号	河田 健	担当者	
建設コンサルタント	登録番号	建01第843号				作成日	
構造設計一級建築士	第5840号	渡邊 朋宏	設備設計一級建築士	第2304号	是永 恒久		



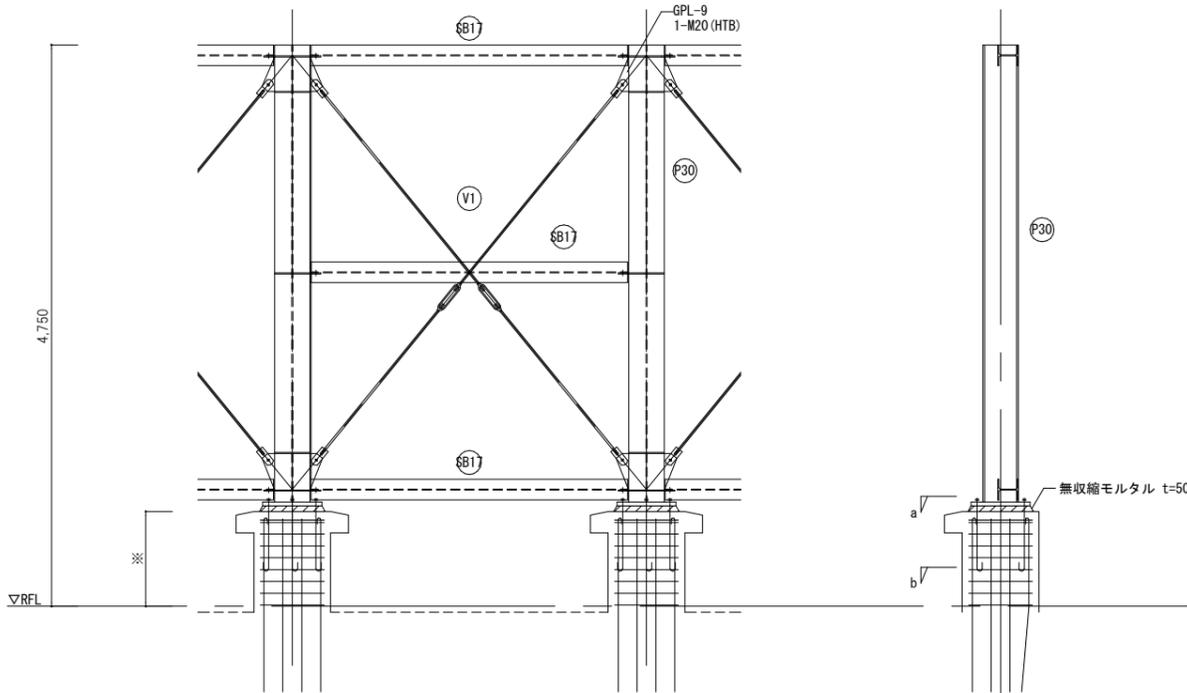
KEYPLAN 1/300

特記を除き 鉛直ブレース(V1)を示す

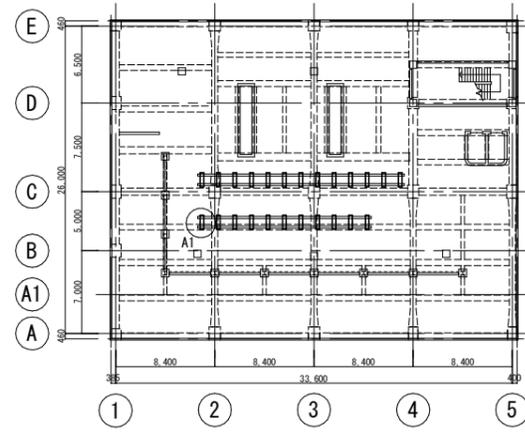
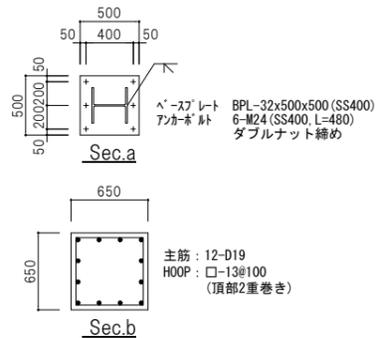


部材リスト 特記を除き 高力ボルト F8T すべて溶融亜鉛メッキ仕様とする

符号	部材	鉄骨材質	備考
P30	H-300x300x10x15	SS400	
SB17	H-175x175x7.5x11	SS400	横ばい(水抜き穴@600)
V1	1-M20	SS400	ターンバックル付き



※寸法は意匠図による(≦800)



KEYPLAN 1/300

設備機器基礎配筋図 1/30 ※Hは意匠図参照とする

タイプ	断面
A1	<p>H=200x200x8x12 (垂鉛メッキ処理) 無収縮モルタル t=30 4-M16, L=320 (DN・フック付) 上端筋 防水押さえコンクリート 防水層 腹筋 下端筋</p>
B	400 < B ≦ 600
上端筋	5-D19
下端筋	5-D19
スターラップ	D13-@150
腹筋	2-D10